

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

The Diary of Hisakatsu Hijikata (V)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土方, 久功 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00000853

第 I 部

土方久功日記 V

土方久功日記 第25冊

1939年1月27日～6月30日（昭和14年）

解説

この第25冊には、昭和14年（1939）1月27日から6月30日までが収められている。

およそ8年ぶりにパラオに戻って来て約1か月、久功もパラオ・コロールの生活にも慣れてきた。しかし、久功にとって、コロールの変わりようは、実に嘆かわしい事であった。1月28日の『日記』にある「八年ノ月日ガタッタ……」と題された詩には、コロールでは、丘が崩され、一面に家が建ち、8年前には、いつも、どこでも鳴いていた銀鳩の声が聞かれなくなったこと、広々としたア・ケツは、家に遮られて見晴はなく、家のないところは掘り返されて野菜畑となり、緒土の丘には一本の蝟の木も残っていないこと、昼も夜も恋の歌や流行歌を歌っていた島民の若者達、夕方になると家々の石畳に蹲まって笑いさざめいた娘達、夜になり円かな月が上がると、歌と一緒に心ゆくまで踊った娘達の姿が見られなくなったこと、かつては、島民達は豊かで、どの家に行っても新しい莫塵が敷かれ、籠から房ごと出されたバナナやパイヤやミカンが、今では町の店々に商品として並べられていることが書かれている。

変貌したのは、コロールだけではなく。久功は3月6日から9日までペリリュー島に行ったが、そこでもペリリュー島の変わりようを嘆いている。3月9日の『日記』には、次のように書かれている。

ペリリョウハ昔ノ面影ナク、ヒドイ村ニナリタリ。Ngarkeyükkil, a Pkül a belüü
ハソレブレ Ngarohol 及ビ Ngardüloh ニ移サレ、其ノアト二十五万坪ノ飛行場ガ作
ラレタルナリ。而シテ Halohol ニ隣鋳工業場及ビ其ノ舎宅ガ出来、Ngasiyas ニモ沢
山ノ舎宅ト店ガ出来、アチコチ掘リオコサレ、「ガソリンカー」ガ、ガタガタノベ
ツニ掘リシ土ヲ運ビ居ルナリ。人々ハ忙ガシク、食物ハアマリ豊カナラズ。島民等ハ
金ニキタナクナリ果テテヒタルニ、蚊ノミハ昔ニ変ラズ、舌昔ヨリモ多ク、朝夕ハ
村中ニテモ殆ドタヘガタク、Ngarohol ヨリ Ngasiyas ヘノ新道、Ngasiyas ヨリ
Ngardüloh ニ出ル道ナドニ至リテハ、蚊群ニ悩マサレルコト甚ダシ。

パラオへ戻って問がない1月29日の夕方、パラオ最後の王で、久功とも親交のあったイベズールが亡くなった。パラオに来てからイベズールが長い間病気であることを聞き、見舞いに行こうと思っていたが、既に意識はなかった。久功は、パラオ最後の王者の葬儀を見たいと思い、私情としても見送ってやりたかったので、アンガウル島行きを取りやめ、葬儀を見守ることにした。しかし、それは、あまりに淋しく、あまりに可哀そうなものであった。『日記』には、葬儀のことが、事細かく書かれている。

2月半ば頃、『日記』には毎日のようにキサオル（Kisaūr）の名が見える。20日には、「Kisaūrノ所デ古イ歌ニ訳ヲツケル。」翌21日には、「Kisaūrノ所デOrkril（助役）老人

ラツカマヘテ、又古イ歌ヲ書ク。」22日には、「午頃、Kisaūr ガ呼ビニ来テクレタノデ行ッテ、夕方迄モ古イ歌ヲヤッタガ、マダマダイクラデモアルノデ、イツ出来上ルヤラワカラナイ。」23日には、「朝ハ Kisaūr ノ処デ Hesols ラヤッタガ、何トシテモ解ラナイモノガ多クテウンザリスル。」

3月12日には、「雨ニ降り込メラレテ居タラ、Kisaūl ガ来タノデ、ツカマヘテ相変ラズ古イ歌ナドヤッテ居タラ、午頃、野元氏見エ、ユックリクツロガレテ、午後三時半過ぎ迄居ラレル。Kisaūl ト Melings ノ処ニ一寸行ク。」

キサオルは、久功にパラオの古い歌を教えたが、彼女はイディツ一族の女で、女子青年組合長を務めていた名門の出で、当時32歳であった（キサオルは、戦後何度か日本を訪れ、久功とも会っている）。

3月11日、南洋庁の地方課から呼び出されて役所に行き、辞令（3月9日付）を受け取った。その日は土曜日だったので、内務部長、警務課長、光安国男、調査課長等に挨拶だけして帰った。出勤は、週明けの13日からであった。

役所勤めを始めた久功であったが、1週間程後の3月19日、キサオル等4人とアラカベサンに遠足に行った。途中岩に飛下りたとき、左足関節を捻挫してしまった。はじめは、あまり痛くなかったのでそのまま歩いたが、途中で急に痛み出した。しかも雨が降り出し、びしょ濡れになり、道もない山道を難渋して、やっと飛行場まで来た。自動車呼んでもらって、7時半にやっと病院に着いた。氷で冷やしたが、無理して歩いたので、足の怪我は悪化し、熱をもち、脹れあがってしまった。キサオルはその夜、久功のところへ来て、何くれとなく世話をしてくれた。夜は11時まで居て、足を氷で冷やし、翌日も、昼と夕方と、2度ゲルの葉と熱湯で足をもんでくれた。それでも、久功は1週間、ほとんど歩くことが出来ず、役所も休んだ。

4月8・9日の両日、土・日曜日に、杉浦佐助の展覧会が、昌南倶楽部で開かれた。新聞に広告を出したこともあり、たくさんの人が来ていた。『日記』には、展示作品について何も書かれていないが、6月に東京で開かれた展覧会とほぼ同じ作品が展示されたのであろう。

17日の朝、久功、杉浦佐助、玉枝の3人は、山城丸でパラオのコロールを出航した。ヤップ島、テニアン島、サイパン島を経て、28日の朝、横浜港に着いた。10年ぶりの日本だった。兄夫妻と妹・英子と弟・久頭が迎えに来ていた。学習院の同窓生、小山直彦にも会って、1時間程も話し込んだ。

皆で横浜駅に出て、朝食を食べた後、久功達は府立高等（都立大学駅）にある妹の家へ落ち着いた。

久功は毎日のように親戚、旧知の人々を訪ねて歩き、5月12日には、学習院の同窓生、甘露寺方房、佐々木六郎、小山直彦等と会い、また、両国で相撲を見、映画を見、展覧会を見、音楽会に行くなど、10年ぶりに都会の生活を楽しんだ。

5月21日の夜には、川路柳虹、倉橋弥一等、『炬火』の旧同人たちにより「土方久功歓迎会」が新橋で開かれた。この会には、杉浦佐助も出席した。5月26日には、築地小劇場を訪れ、千田是也、丸山定夫、薄田研二、岸輝子等の「古手」に会い、「海援隊」4幕7場を見た。

6月21日から24日まで、銀座8丁目の三味堂ギャラリーで、「南洋彫刻家 杉浦佐助作品展覧会」が開かれた。出品作品は、丸彫15点、浮彫3点、面14点の合計32点。ほかに素描若干と久功が浮彫数点を賛助出品し、島の写真、腰巻、ステッキ、お盆などの製作品を展示した。美術雑誌、新聞等で取り上げられ、美術界に衝撃を与えた（岡谷公二氏『南海漂蕩』80-87頁）。

この展覧会は、川路柳虹、倉橋弥一の尽力により開かれたもので、高村光太郎、平櫛田中、吉田芳明などの彫刻家のほか、久功の多くの親戚、知人が参観した。

佐助の展覧会の最終日24日と25日の両日、「土方久功氏蒐集南洋土俗品展」が、京橋の南洋群島文化協会東京出張所で開催された。神像、彫刻、仮面、日用品、土器等300余点が展示された（その後、7月8日に東京帝大の人類学教室でも展示され、終了後東京帝大の所蔵資料となった）。この展覧会にも、久功の親戚・知人をはじめ、金田一京助らも参観した。この展覧会を後に劇作家、演出家、小説家となる東京朝日新聞の飯沢匡が取材し、「東京朝日新聞」紙上に、7月1日から3日にわたり、「南洋土俗風俗」と題して紹介した。

2つの展覧会が終わり、一段落した28日、知人が、中西悟堂とともに久功を訪れた。『日記』には、「三時過ギニ二人デ見エル。六時近ク迄、鳥ノ話」と書かれている。悟堂は、歌人・詩人であり、千歳船橋で田園生活を送り、質素な生活とともに、昆虫や野鳥の観察をしていた。その生き方が久功と相通じるところがあったのであろう、意気投合したようである。その後も久功と会い、書信を取り交わした。また、悟堂が創設した日本野鳥の会が発行する『野鳥』に、久功は、「南洋の鳥景」、「バリー島の土人の木彫」、「チチリカ」、「鳥取り」など7編を寄稿している。

[表紙]
[25

昭和十四年

千九百三十九年一月廿七日ヨリ

千九百三十九年^七□六月三十日迄

HISAKATSU・H・

Belau]

昭和十四年一月

二十七日 晴，昼頃カラ又雨，夕方迄降ツタリ止ンダリ，
終日家ニ居テ直シ物ナドシタガ，咳ガ出テ頭ガ重クテ，体ガ妙ニゾクゾクシテ，一向
本気ニナレナイ。

〔欄外に記す〕
[Ngarmid]

Ngarmid¹⁾ Helid Tkeyok-imid ♂
angalūkel a Hūap

Ngarmelik Helid Sakaliyangngd ♂

Ngarbakasis Helid Uhel a Bakasis ♂

Ngarmelik (Klobak) Keblil

1. Almelik Ngolkūbid (1)
2. Tūlik Badūreang (2)
3. Alahalūūl Ibelao (1)
4. Hadelbai ra Moltelakang (2)
5. Hadelbai ra Orūwek (2)
6. Holikong ra Iptang Oltak (1)
7. Medal a Skesoll (1)
8. Dingiliūs ra Badūr^a□ eng (2)
9. Medala Habahab (1)

Kaū-oharo { 1
 { 2

Ngarbakasis (Klobak) Kieblil

1. Ngar Kayūngngl Blossoh (Uhel-Keyūkk1) (1)
2. a Kūwong Iyebūkūl (2)
3. a Kabasūh (1)
4. Iyehad Iyehad era Delbei (3)

5. Būik abasūh (1)
 6. Holikong (2)
 7. Ibedūūl ra Idong (2)
 8. Medal-Deral (1)

Kaū-oharo { (1)
 (3)

Helid era blai □ ra Blossoh — ♂ Komleū

二十八日 朝雨ナリシモ後止ム、午後三時頃ヨリ又雨、夕方止ム、一日日照ラズ、
 家ニ居テ速記ヲ片ヅケル、
 夜遅ク小浜君来リ、夜中ノ二時迄モ起コサレル。

八年ノ月日ガタッタ……

- 昔ノ「コ[○]レヨル²⁾」ヨ、オ前モ決シテ例外デハ居ナカッタ
 丘ハ崩サレ、丘ハ崩サレ、家ガ建チ、一面ニ日本[○]ノ家ガ立ッタ
 タッタ八年前ニイツデモ、ソシテ何処デデモ鳴イタ
 ア、アノ昔鳴イタ銀鳩ノ声ガ懐カシイヨ、何処ヘ逃ゲテ行ッタカシラ、
- ア、広々トシタ「ドシヨケ[○]ル³⁾」ノ「アケヅ⁴⁾」ヨ、青カッタ青カッタ「アケヅ」ヨ、
 今ハ家ニサヘギラレ、家ニサヘギラレテ、見ハラシモナイ
 マダ家ノナイ処ハ沖繩ノ人達ニ掘リカヘサレテ、葱ヤナツパノ畑トナリ
 掘リカヘサレタ緒土ノ丘ニハ、一本ノ悲シイ蝸ノ木モ残ッテハ居ナイ
- 土人等ト土人ノ家々ヨ、イツモ閑カナ歌ヲ歌ッタ若者達ヨ、
 昼モ夜モ、ソコカラ土人ラシイ恋ノ歌ヤ又流行歌ガ漏レテ来タ家々ヨ、
 殊ニハ土方家々ノ石畳ニ蹲マッテ笑ヒサザメイタ娘達ヨ、
 椰子ノ葉カゲカラ円カナ月ガ上ルト、歌ト一緒ニ心ユク迄踊ッテ踊ッタ娘達ヨ
- 土人等ヨ、土人ノ家々ヨ、昔ノオ前達ノユタカサハ何処ヘ行ッタノカ
 ドノ家ニ行ッテモ其処ニハ新ラシイ莫座ガ敷カレ
 籠カラ総ゴト出サレタ見ゴトナ バナナト、モギタテノ パパイヤ ト蜜柑ト
 ソレラハ今ハ町ノ店々ニ礼々シク並ベラレテ、人々ニ□買ハレルノヲ待ッテ居ル

二十九日 日曜日 晴,

昨夕, 野元氏⁵⁾ が来ラレ, 何処カニ遊ビニ行カヌカトノ事。実ハ Ngelūūl⁶⁾ 達ト Ngarakasoal⁷⁾ デ遊ブコトニナツテ居タノダガ, ソレデハ先生等ニハ面白クモナカロウト思ツテ Narakabesang⁸⁾ ニ行ク様ニ約束シタノダツタ。

ソレデ起キルト直グ, Ngelūūl 達ノ所ニ行ツテ相談シタノダツタガ, Ngelūūl 達モ Ngarakasoal カ Imilik ニ行カウト計画シテ居タノダガ, 近日 Peliliyōū ノ Ngarohol ニ ohoraol ヲシ□ニ行カネバナラヌトカデ, 舟ガアリ次第, a Irai ニ行ツテ芋ヲ集メ, 馳走ノ用意ヲシナケレバナラヌト云フノデ, 野元氏ノ所ニマハリ, 小楠氏モ共ニ八時ノ「バス」デ Narakabesang ニ行ク。Rois Kabesang ニ登リ, Tohobei 村ニ行キ, 引カヘシテ Miyūngs ニ休ミ, 二時ノ「バス」デ帰ツテクル。

夜, 小浜君ニ誘ハレ安達氏ト共ニ飲ミニ出ル。法院ノ守屋サン, 地方課ノ堀サント一緒ニナル。

三時半就寝。

夕方四時頃, Ibedūūl ガ死ンダ由。Ibedūūl ハ既ニ永イ間病ンデ居タノデアツタガ, 今度来テ病氣ノコトヲキキ, 逢ツテヤリ度ク思ツテ訪ネタ処, 既ニ意識不明デ, 語ルコトモ聞クコトモ出来ナクナツテ居タノデアツタ。

Ngarakabesang

	Klobak	Kebliil	
I	1. Ngatpangngal	Homorokongngl	(1)
II	2. Hobak	Uheliyōū	(2)
I	3. Rengīr ra Kalūyūl	Kalūyūl	(3)
II	4. Rengīr ra Okōreng	Ngar Basūh	(4)
I	5. Arakabai ra Tiabūl	Tiabūl	(1)
II	6. Arakabai ra Hodīrang	Hodīrang	(2)
I	7. Pūkliū era Tboloboloh		(1)
II	8. Pūkliū ra Okereng		(4)
I	9. Arakakemūr		(1)
II	10. Arakakemūr		(2)

Kaū oharo { (1) } { (3) } bittang (Sūūsikis) 総称
{ (2) } { (4) } bitang (Uheliyōū) 総称

Helid era belūū ♂ Uhel Kebesadal

Derasehel Mekngit el Tamakai

a Miyūngs

Klobak	keblil	
1. a Uhel	Ngara Kamis	(1)
2. Hobak	Uhel Kūmmml	(2)
3. a Sebūsūngngl	IrikkI	(3)
4. Ngirhongol	?	(4)
5. Blitang	(1)	
6. Ikkleb ra Tikei	(1)	
7. Ngesūkesūh	(2)	
8. Ngiraliyang	(1)	
9. Ikkleb ra Uhelkūmmml	(2)	
10. Holikong	(1)	

Kai oharo $\left\{ \begin{array}{l} (1) \\ (2) \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} (3) \\ (4) \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{bitang (Ngara Kamis)} \\ \text{bitang (Uhel Kūmmml)} \end{array}$

Helid era belūū ♂ Uhel re Rak

Derasehel Delūsm

Miyūngs ノ者ハ Peliliyoū ノ Ngasias カラ来タ。

其ノ故ハ Mūlūadūl Kūl ノ為デアッテ (伝説ノ部参照), Peliliyoū カラ岩山ノ外ヲマハッテ, 北ノ Ngasaksao カラマワッテ Ngarbahed ニ入ッテ来タガ, 土地〔狭〕ガ峡イノデ, Ngūl-būl (今ノ最上・山内・病院ノアタリ) ニ移ッタ。併シ其レデモ土地〔狭〕ガ峡クテ面白クナイノデ, Ibedūūl ニ頼ンデ適ナ土地ヲサガシテ貰ッタ。Ibedūūl ハ Ngarkabesang ノ Ngatpangngal ニ交渉シテ, 今ノ a Miyūngs ニ入レテクレタ。

時ニ Ibedūūl ノ使ヒ役ヲシテ居タ a Ibūkūl ノ Arakataoh ニ歌ヲ送ッテ, Ibedūūl ニ此ノ次第ヲ通ジテ貰ッタト云フ。其ノ歌,

Arakatao □ o bole klideū, e mngai a klūmaham el mol mo tmūū era Ibedūūl,
ヨキヨウニ処理ス mel dū era Alekūkol, el Ngiratakangī eng kūt oba ngarel ngebard eng mlemel
Belūū? sūmehak era ikel Būl, e lak mesēked erengī el di sebehel Ngaliyap, e ngak a
merebedebh melat'ek era ūhūl a haremāll, e lūūberk el hūttm.
[Klōūng ela]
大平原

三十日 月 朝小雨, 終日曇,

朝, 役所ニ第二回講演ノ訂正済速記ヲ届ケテ来ル。後, 地方課〔茂〕ノ林氏ヨリ□内堂本内務部長⁹⁾ニ紹介サレ, 三十分程モ雑談シテ帰ル。

㊦ アンガウル松野祐保氏ヨリ

三十一日 火 晴, [←小浜君, 昼頃帰り行ク]

〔欄外に記す〕
[イベズール葬儀]

午後四時過ぎ, a Ibedūūl 葬儀¹⁰⁾,

覚エ,

昨日ノ Bilas¹¹⁾ デ私ハ「アンガウル¹²⁾」ニ行ク様ニ予定シタノダッタ。処ガ一昨日「アラカベサン」カラ帰ッテ来ルト, Ibedūūl ガ亡クナッテ居タノダッタ。「バラオ」ノ最後ノ王デア□リ, 私ガ以前親シク交ッテ居タモノデモアリ, — 今ノ様ニ総テガ何モカモガ移リ変ッテシマッタ今, 「バラオ」ノ王者トシテノ古風ニノッ□トツタ葬儀ガ見ラレルトハ思ハナカッタガ, ヨイニシロ, ワルイニシロ, 此ノ最後ノ王者ノ死ニ再ビアフコトハ絶無ノ機デアリ, 私情トシテモ見送ッテヤリ度カ□ツタノデ, 私ハ「アンガウル」行キヲ止メテ, Ibedūūl ノ家ノ様子ヲ見守ッテ居タノデアッタ。併シソレハアマリニ淋シク, アマリニ可^哀□哀ソウナモノダッタ。

亡クナルト直グニ a Dūbūsūh¹³⁾ ガ十吹カレタソウダガ, Ngarmid デモ Ngarkabesang デモ之ニ応ヘタモノハナカッタ, (最初カラ一家ノイザゴザガ現ハレテ居タノダ。Idid ノ女長, 亡クナッタ Tem ノ妹, Bilūng ハ, 一カラ十迄, 此ノ時代ノ動キト, 殊ニハ若者達ノ処^知□置ニ対シテ氣持ヲ悪クシテ居タノダ。ソレ故ニ兄王ノ死ヲ知ルト, 直チニ a Dūbūsūh ヲ十度吹ク様ニト命ジタダケデ自家ニ引上げ, 一切口ヲツグンデ何モ指図ヲシナカッタノデアッタ) ソレカラ, 此ノ夕方直チニ幾ツカノ boks¹⁴⁾ ガ運バレタガ, 是レハ近隣カラノ最初ノ見舞デアロウ。夜ニ入ッテホンノ暫クノ間, 女達ニヨッテ Köllol¹⁵⁾ ガ歌ハレタガ, 其ママ直グニ止ンデシマッテ, ヒッソリシテシマッタ。翌三十日ニハ朝カラ若イ男達ニヨッテ馳走作りガハジメラレタ。ソシテ何処カラトモナク, Idid ヲハジメ, 近所ノ家々ニ, Meketī ノ Bai ニ老人達ガ集マリ出シタ。ソシテ夕方ニハ Idid ノ odosongngl¹⁶⁾ ニベッタリト百人程ノ老人達ガ居スワリ, 皆一人一人ノ前ニ馳走ノ皿ガクバラレタ。併シ馳走ハ町カラ買ッテ来ラレタ米ダケデ□アッタ。何処カデ豚ガ一頭殺サレタガ, 其レハ此ノ沢山ノ弔家ヘ行キ渡ルモノデハナカッタ。老人達ハ黙々トシテ食シ, 黙々トシテ散ッテ行ッタ。ソレカラ今日モ亦, 朝カラ米ガ焚カレタ。ソシテ六頭ノ豚ガ殺サレタ。ソシテ昼ニハ, 昨日ノ odosongngl ニ, 今日ハ女達バカリ百何十人カ

二月

一日 水 朝雨, 後止ミシモ日照ラズ, 午後二時頃ヨリ夜ニ入ル迄降ツタリ止ンダリ,

ㄨ居並ビ, 彼女等ニ馳走ノ皿ガクバラレタ。ソレガ終ッテ片ヅクト, 暫クノ間ニボツボツト人々ガ集マッテ来タ。ソシテ四時ニハ olbed ニモ, 家ノ中ニモ外ニモ, 老若男女ガ所セマク座ッテ居タ。ソノ中デ殊ニ目立ッタノハ a Keyūkl¹⁷⁾ ガ酒氣ヲオビテ居ラシ

ク、大キナ声デ何か喋リツツケテ居タコトダッタ□——言葉ハ遠クテキキトレナカッタガ、不平不満ノ氣ガ明ラカニ認メラレタ。ソレカラ——スグ向フノ独逸教会カラ「レンゲ」牧師¹⁸⁾ト女達……二人ノ独逸婦人ト着飾ツタ島民ノ娘等ノ一団……□二人ノ独逸娘人ト□二三ノ島ノ娘トハ「ギター」ヲツツカ□カヘテ居ル……ガ出テ来テ、人々デ埋マッテ居ル olbed ノ方ニ下リテ行ツタ。ソシテ群衆ヲ押シノケテ中央ニ座ヲトリ、牧師ト Ūmang¹⁹⁾ トハ少シハナレテ家ノ前ニ席ヲトツタ。スルト a Keyükl ヤ Ngiraked²⁰⁾ 達ハ入レカハッテ、家□ノ裏ニ来テ木ノ蔭ニ座ツタ。Kisaül²¹⁾ モ席ニハ入ラナイデ、家ノ横ニ居テ、立ツタリシャガダリシテ居ル。「コーラス」ノ女達ハ古イ「ブルックス」ニ腰ヲカケテ、「ギター」ヲ鳴ラシテ合唱ヲハジメタ。ソレハ、縁モユカリモナイ大勢ノ人々ノ間ニ、殆ドキキトレナイ様ニ、アハレナモノダッタ。ソレデモカナリ永イ間歌ハレタ。ソレカラ□「コーラス」団ハ「ギター」ヲ置イテ、今度ハ皆起立シテ又合唱シタ。〔欄外に記す〕 [ココデ Ibedüül ノ棺ガ家ノ中カラ出サレ、ソシテツツノ古イ Blüks²²⁾ ノ上ニ置カレタ。ソレハ普通ノ大キナ箱デ、蓋ハ山形ニナッテ居リ、全部ハ白イ布デ被ハレ、上ニハ棺一パイノ大キナ十字ガ、黒イ布デ縫ヒツケラレテ居ル。] ソレガ終ルト、牧師ガ立ッテ弔辞ヲ述ベ出シタ。ソレハ死ンダ Ibedüül ニ向ッテナサレタ慰メノ言葉デアリ、且ツ引導デアル。ソレカラ Ūmang ガ立ッテ喋リ出シタ。スルト今迄割合ヒニ静カデアッタ群衆ノ間ニ、明カナ嘲意ト不服ノザワメキガ感ゼラレ出シタ。Ūmang ノ口調ガアマリニ牧師ジミテ居タノデ、一層ト嘲意ガ強メラレタ。Ngiraked ト顔ヲ見合ハセテ蔑シム様ニ笑ッテ居タ Keyükl ハ、握拳ヲ突キ出シテ叫ンダ。「彼奴ハ牧師サンナノカ、彼奴ハ外国人ナノカ、ソシテ何デアイツガアンナ処ニ、アンナ風ニ出シャバリ出ル権利ガアルノダ！」□裏手ニ一団トナッテ居タ不平分子ノ間ニ、ドット笑ヒガ飛ビ出タ。然シ Ūmang ハ永クハ喋ラナイデ席ニカヘッタ。又、一寸「コーラス」ガ歌ハレタ。ソレカラ……又牧師ガ立ッテ、今度ハ群衆ニ向ッテ説教ジミタ話ヲハジメタ。時間ガドンドンタッタ。Ngiraked ハ先キカラ、ソコヲ行ツタリ来タリ、少シモ落ツカナカッタ。クチャクチャナ、汚レタオ釜帽子ヲ其処ニ置イテ出テ行ツタ。併シ「オイカワサン²³⁾」ガ家ノ角□ニ居テ、モウコレダケデオ終ヒダカラト云ッテ止メタノデ、又引返シテ来タ。併シ又、牧師ノ説教ハマダマダ続イタ。裏ノ方デハイライラシタ気分デザワザワトザワメキ立ツタ。遂ニ a Keyükl ガ立上ツタ。「オ棺ヲカツグ人達ハ皆来イ！」。若イ者達が皆□続イタ。ソシテ棺ヲ取りカコンダ。牧師ハ、怒ルヨリモ憐ミヲ乞フ様ニ彼等ヲ制シ、口早ニ説教ノ結末ヲツケテ、死人ノ棺ニ別レノ言葉ヲカケタ。ソコデ、棺ガ担ギ上ゲラレタ。棺ハ彼等ノ肩ノ上ニ高々トカツガレタママデ動カナカッタ。スルト二人□ノ老人ガ tiyakkl²⁴⁾ ヲツツツツモッテ棺ノ横ニ立ツタ。前ノ方ノ老人ガ呪文ヲトナヘ出シタ。一クギリ如ニ tiyakkl ヲササヘタ手が少シツツ動カサレタ。呪文ガ終ルト、二人ノ老人ハ持ツタ Tiyakkl ヲ棺ノ上部ニ差シツケル様ニシ、ソレカラ olbed ヲ降りテ家ニ近ヅキ、二度三度捧ゲル様ニシテハ引込メ、最後ニ家ノ中ノ人間ニソレヲ渡シタ。次ノ老人モ全ジ

様ニシテ tiyakkl ヲ渡シテ席ニカエツタ。ソレヲ受取ツタノハ誰デアツタカ、受ケ取ツテドンナ風ニシタカ、私ノ処カラハ見エナカッタ。Tiyakkl ハ簡單ナ小サナモノデ、勿論 meyolt²⁵⁾ ノ結ビデ、頭ノ部デ結バレ、結ンダ尾ガ一方ニ尾ノ様ニ突き出し、小サナ Bisūh ノ葉ガ二三枚結ビ込マレテ居ル。ソレカラ棺ハ再ビ元ノ位置ニオロサレテ、男女青年団カラ贈ラレタ花輪デ飾ラレ、主ダツタ人々ニカコマレテ写真ガトラレ、直チニ再ビカツガレテ道ニ上ゲラレタ。長イ梓棒ニククリツケラレ、沢山ノ人間ニカツガレテ、ソノマハリニ人々ガ更ニツキ添ッテ、ソレガ葬列ニナツタ。ソシテ試験所ノ向フノ aked ノ共同墓地ニ運バレタ。

墓地ニハ、アノ一段高クナツタ処、前ノ Ibedūl ノ墓ニ並ンデ、^六□八尺ニ^二□四尺位ノ穴ガ、深サモ六七尺ニ掘ラレテアツタ。棺ハ墓穴ノ上ニカケラレタニ□本ノ橋木ノ上ニ置カレ、傍デ三度「コーラス」団ニヨツテ歌ガ歌ハレル。^{【欄外に記す】}〔ソレカラ棺ハ、橋木ヲトツテ墓穴ノ下ニ入レラレ、上ヲ厚イ五六枚ノ□板□デオホハレタ。〕ソレカラ牧師ニヨツテ祈祷ガ捧ゲラレ、牧師ニヨツテ別レノ挨拶ガ述べラレ、三度^上□□、一握リノ土ガ^入□□投入レラレタ。ツヅイテ島民達モ皆一クレノ土ヲ投入レ、人夫達ガ「シャベル」ヲ使ツテ墓ヲ埋メハジメタ。人々ハ思ヒ思ヒニ散ツタ。最後ノ島王ノ屍ハ、斯ウシテ永久ニ土ニ帰り、霊ハ甦ッテ天ニ登ルデアロウ。併シ、各村々カラ集ツタ老人達ノ黙々タルウチニ、云ヒシレヌ物足りナサト、^{【説】}壓ヘツケラレタ諦メトガ有々ト統マレタ。老人達ノ多クハ、サウシテ此ノ日ノウチニ何処ヘトモナク姿ヲ消シテシマッタノデアル。

二日 木 朝カラ雨降ツタリ止ンダリ、後止ミシモ ドンヨリト曇レリ、

Ngarahama□e

Klobak	Keblił		mreedel era —
1. Iyahad	Kaikkłbai	(1)	Pkūł-Kasūmiyūh
2. Obohad	Okelang	(2)	Ngareheū
3. Heriū	a Rois	(2)	Ngarekong
4. Uhel Kowad	Ngūlūmūlong	(1)	Belūū Okowad
5. Ultirakl	a Ngeyaol	(2)	Ngare Koptang
6. Medala Kmelderang	a Mowai	(1)	
7. Holigong	Mūlisi	(2)	
8. Ngira Mowai	Ittabūrang	(1)	
9. Kalamalūūh	Okodong	(1)	
10. Pkūla Uūdl	a Remel	(2)	

Helid era belūū ♂ Uhel Hokelang

✓ taog ハ Hodollid 一箇所ナレバ bittal a taog ノ制ナシ。

✓此ノ村人等ハ、ソレヅレ Halebahab ノ mercedel ナリシモ、Ibedūūl □ニ招ジラレテ、Ngarahamai □ニ入レルモノナリト云フ。而シテ其後モ引続キ上記ノ島々ニ権利ヲモチシモノナリト。

✓ Kaū-oharo ハ此ノ二部族ガ互ニナスナリ。

三日 金 朝ヒドイ雨ナリシモ後止ム、但シ終日曇リ、ヒヨヒヨト寒シ、朝、役所ニ行キ、常吉氏〔春彦〕ニ第三回速記ヲ出ス。囑託ノ話²⁶⁾。後、法院ニ江崎検事〔政行〕ヲ訪ネル。ヤップ ヨリ例ノ遺言書来ラザル由ニテ、折返シ打電問合ハセシ由。サトワルノ件ニツキテハ、既ニ内務部長及警務課長ニ話サレシ由ニ就キ、直接打合ハセタラヨカラントノ事故、シカモ今度ノ南星丸ニテ出カケル由ニ就キ、直チニ警務課ニ行キ若旅氏〔寿恵広〕ニ面談。

談中又地方課ヨリ呼バレ、林氏〔茂〕ヨリ又々囑託ノ件ニツキ件〔ママ〕ニ就キ相談アリ。履歷書ヲ出ス様ト。

四日 土 終日雨、

朝、法院ヨリ電話アリ。九時過ぎ検事ニ面会。ヤップ ヨリ遺書来ル²⁷⁾。殆ト疑フベキモノナシ。後、南拓ニ行キ松野君ニ送ル荷物ヲ託ス。二□通電報アリシモ、居所不明故郵便局ニカヘシタル由、帰り一寸役所ニ寄り履歷書ヲ出シ、郵便局ニ行キ電報ヲ取り来ル。

☎ 杉浦佐助（トラック）ヨリ、トラック南油ヨリ、

☎ 松野祐保（アンガウル）へ、

五日 日曜日 晴、朝カラ何度トナク驟雨アリ、

Ngarahasoal

Klobak	Kebli	Helid ra blai
1. Hadelbai	Tmetpap (1)	Kūk ūngil ♀
2. Holikong	Ngermellong (2)	
3. Arakadosomml	a Iweyaol (1)	
4. a Miyal	a Iweseiyūh (2)	
5.		
6. Dūngang		
7. Orebūūl		
8. Ngir Klisong		
9. Ngar Kamiyūng		
10. Merūwai		

Tkūl ahūūl … odelūklel a Hadelbai

Helid era belūū ♂ a Kūwōdl,
Derasehel Delūsm, a Dūdūh.

taog ハ Ngedehibūl 一ツナリ。勿論 bittara taog ノ制ナシ。上記二大氏族ガ、二部族ヲナシ、互ニ Kai ohero タリ。

a Kūwōdl ハ Peliliyōū ノ Ngardeloloh ノ Omūttoi ヨリ来ル。

Tmetpap 族ハ Halebahab era Rosong (砂浜ナシ) ヨリ入り、

Iweseiyūh 族ハ Halebahab era Mūltūkūl a Riyang (砂浜ナシ) ヨリ入ル。

Ngarahasoal ハ昔ハ Ngarbōdl, Ngarbahedsao, Ngarielb 等ト共ニ Ngarmid ニ属セシモノナリ。

〔欄外に記す〕
〔ガラカ^oソアオル〕

何処カウマイ処ニ遊ビニ行キ度イモノダ。マダ暗イウチニ目ヲアイテ床ノ中デソソナ事ヲ考ヘテ居タガ— Ngelūūl ハ今朝八時ノ Bilas デ Peliliyōū²⁸⁾ ニ行ク筈ダシ— ソウシテ居ルウチニ風ガ ピュピュ ト吹イテ、ヒドイ雨ガ来ル。今日ハ駄目ダナト思フ。ソレカラ、スッカリ明ルクナルト キラキラ ト日ガ光ル。有ガタイ、何日ブリダ。併シ一時間トハタタナイウチニ又雨ガ来ル。コレデハ何処ヘ出ルコトモ出来ハシナイ。ソレデモ私ハブラリト家ヲ出タ。又日ガ照ツタ。私ハ又少シ元氣ガ出テ、ソコラデ アンパンヲ買ッテ、Ngarahasoal ニ行クツモリニナツタ。ソシテ試験所ノ向フヲ右ニ折レテ、赭土ノ水タマリノ道ヲ行クト、村ニ入ラウトスル所デ、又々ザンザト雨ニフラル。私ハスグ右側ニアツタ小サ□ナ、併シコザッパリシタ島民ノ家ニ駈ケコンダ。四十才ニ近イオトナシイカミサント、其ノカミサンニ抱カレタ四才位ノアマヘッタレラシイ男ノ子ト、ソレカラ七才位ノ人ミシリシナイ女ノ子ト、モ一人学校ヲ出タバカリノ十二三位ノ女子ガ居タ。オトナシイカミサンハ、小サイ子供ヲ膝ノ上デ遊バセ乍ラ、ポツポツ私ニ話シカケタ。

〔B〕
〔旦那様ハ今日ハ何シニオイデナサツタノデスカ〕

私ハハジメ、雨が降ッテ困ルカラ休マセテクレル様ニト、日本語デ女ノ子ニ伝ヘタノデ、オカミサンハ愛想笑ヒヲシタダケデ、何モ話シカケナカッタノダガ、私ガパラオ語デ「私ハ ホンノ此ノ頃、オ正月ニバラオニ来タノデ、マダーヶ月トハタタナインダヨ」ト云ツタノデ、驚イテハジメテ私ニ口ヲキイタノダツタ。「何デモナイケドネ、唯ブラブラ ヤッテ来タノサ」、「オヤオヤ、左様デシタカ」トハ云ツタガ、解セナイ風ダツタ。私ガ家ノ名ヲ訪ネタラ、是レガ Ngalmellong ダツタノデ、私ハ直グニ「ハハア」ト思ツタ。帖面ヲ出シテ第二長老ノ称号ヲ見テ「Holikong ハ居ナイノカネ」ト聞イタノデ、彼女ハ益々私ヲ古イ人ト思ツタラシイ。「イエ、ドコソノ辺ニ檣欄デモ取りニ行ツタノデ

セウ。直グ帰りマスヨ」。女ノ子が「トラック」辺デ編マレタ新ラシイ莫莖ヲ敷イテクレタノデ、私ハ其処ニ上リ込シタ。此ノ家ノ夫婦ハ綺麗好キト見エテ、家ノ内外トモニ実ニ綺麗ニ掃除ガ行キ届イテ、屑一ツ落ちテハ居ナイ。実ニ土人ニハ珍ラシイ家ダ。odosongnglニハ草モ生エテ居ズ、□□odosongnglノ周りノ平ラナ緒土ノ庭ハ木ノ葉モチラシテ居ズ、向フノ「マンゴー」ノ茂ミノ下ニハ、竹デモツテ畳一畳ヨリ大キナ^緑□^緑椽台ガ作ッテアル。裏口、道ノ向フ側ハ急傾斜ニ低クナッテ「マングロブ」ノ先キニ小サク海ガ見エ、海ノ向フニHalebahabガ重ナリ合ッテ見ハラセ□ル。間モナク雨ガ止ンデカラット晴レタ。雨ノアトノ岩山カラ吹イテ来ル風ガ冷タイ程ニ涼シク、湿ツタ緒土ニ照ル陽光ガホカホカト暖カイ。

「ソレデ^(H)□丹那様ニハ子供ガオアリナサルノデスカ」, 「ソんなモノ無イヨ」, 「オヤオヤ、ソレダッテ、パラオノ女ヲオ持ちチナサッタ事ハオアリナサルノデセウ」, 「イヤ、一度モ女ヲ持ッタ事モナイヨ」, 「オヤオヤ、サウデゴザイマシタカ」ト□ハ云ツタガ、マルデ本当ニシテハ居ナイ事ガ其ノ顔ニ読メル。ダカラ私ハ云ツテヤ□ル。「実ハ子供ハ沢山アルノサ。教ヘテヤロウカ。NgelūūトKiūlūūトHobūhōト……」, 「オヤ□マア、オヤマア、オ聞キヨ、Kiūlūūガ丹那^(H)ノ子供ダッテサ」。サウ娘ニ云ツテ、コロコロト笑ツタ。何故ナラ、彼等兄妹コソ此ノ女ノ主人ノ……ソシテ^{彼女ノ}□□其レ故ニ彼女ニトツテモ云ハバ甥姪ナノダカラ——ソシテ彼女ハスツカリ打チトケタ。此ノオカミサンハ、a Iraiカラココニ嫁イデ居ル者ダツタ。小柄デ目鼻立チガシツカリシテ居テ、口モトハエクボヲホガシテ……□一寸小娘ノ様ナ感じガスル女ダガ、腕ニハ二腕迄黥ガアリ、齒ヲ染メテ居ルノデ、相当ノ年輩ナノデアロウト察セラレル。Holikongガ帰ッテ来タ。娘ガ飛ビ出シテ行ッテ、外国人ガ来テ、オ父サンノ帰ルノヲ待ッテ居ルト告ゲタ。Holikongハヤッテ来ルトイキナリ、「コレハコレハ丹那デシタカ。ソシテイツオイデデシタカ。ソレカラ大工サン²⁹⁾ハ……」ト畳ミカケル様ニ云フ。私ハ此ノHolikongノ顔ヲ見テモ話ヲキイテモ、何トシテモ此ノ男ヲ思ヒ出スコトガ出来ナイ。ソシテ多分本当ニ私ハ此ノ男ヲ知ラナイノダロウ。全ク有ガタイ事ニ十年前ノ名コンビ、私ト大工サンノ名ハ、カクモパラオ中ニ知レ渡ッテ居ルノダ。私ハ町ヲ歩イテ居テモ、ヨク知ラナイ島民カラ挨拶ヲサレル。少シ人々ノ寄ッテ居ル所ニ行クト、必ズ私ヲ知ッテ居ルモノガアッテ、面ト向ッテ挨拶シナイデモ、皆ノ者ニ私ノ事ヲ話シテクレルノデ、私ハ殆ド自分ヲ紹介スル必要ガナイ位ダ。私ハ此ノHolikongト云フ(HolikongハRūbakノ称号ダガ、私ハ此ノ男ノ名ハ知ラナイ)男カラ何か聞カウトシタガ、何モ珍ラシイ話ガ出ナカッタ。暫ク話シテカラ、此ノ男ハ用事ガアッテ出ナケレバナラナイカラ、第一RūbakノHadelbaiノ所ニ行ッテ話ヲ聞イテクレト云ツテ出テ行ツタ。私ハ娘ニHadelbaiノ所ニ行カウト云ツテ立上ツタ。オカミサンハ「デハオ帰りニ又オ寄り下サイ」ト云フ。道ニ出テ、タラタラト降リルト、直グニ昔ノHadūs³⁰⁾ガアッタ。ソシテ私ハ思ヒ出シタ。実ニ綺麗ニ此ノHadūsノ両側ニ古イ檳榔樹ガ並木ニナッテ居ルノヲ、只昔トチガツテ木ガ少クナ

り、パット明ルク、ソシテ□左側ノ涯^(崖)ノ下ノ空地ガ、コンナ所迄モ沖繩人ニヨッテ残り
ナク耕サレテ居ルノデアッタ。是レカラ急ニ下リ坂ニナル所デ、娘ハ下ノ正面ニアル家
ヲサシテ、「アソコガHadelbaiノ家デスカラ行ッテイラッ□シヤイ」ト云ヒテ、引返シ
テ、ピョンピョンハネテ行ッテシマッタ。Hadelbaiノ家ハ大キクテ四ツノtūangngalガ
アリ、Tūangngal毎ニ老人ガ一人ヅツ座ッテ、私ノ降りテ行クノヲ見テ居タ。ソシテ私
ガ近ヅクト、外国人ガ来ナスッタヨ、コノ家ニ来ナサルノダヨト、中ノ者達ニ声ヲカケ
タ。オカシイケレド、何処デモハジメテノ家ニ行クト斯ウナノダカラ、私ノ方ハ何トモ
□思ハナイ。ツカツカト進ンデ、一番上座ノTūangngalカラ上リ込ンダ。「丹那^(丹)ハ何シ
ニオイデナサッタ」。此処デ□モオキマリ通りダカラ、私モ「一寸遊ビニ来タノサ」ト答
ヘテ、家ノ中ヲ見マハシタ。大キナ立派ナ、併シバラオ式ナ家デ、マダ新ラシク、Toyahal
ノ屋根裏ガ明ルクテ少シモ乱レテ居ナカッタ。壁ハ大キナ「ベニヤ」板デハラレテ居タ。
上座ノTūangngalト裏ノTūangngalニ三人ノ老人ガ広々ト座ヲ占メ、a Hapノ前カラ
下ノTūangngalノ所ハ、一人ノ中年ノ男ト三四人ノ女ト沢山ノ子供達トデ、押シ合フ様
ニ座ッテ居タ。老人達ハテンデニ挨拶シタガ、サキニ私ハ日本語デ遊ビニ来タヨト云
ッタノデ、下ノ方カラ一人ノ、若イト云ッテモ二十オヲ過ギタ女ガ立ッテ来テ、私ノ用
ムキヲ聞カウトシタ。ソレデ私ハ今度ハバラオ語デ、「構ハナインダヨ、本当ニブラブ
ラ遊ビニ来タダケナノダカラ」ト云フト、向フ側ノTūangngalニ居タ漂^(飄)軽^(輕)ナ老人ガ大キ
ナ声デワメイタ。「オロコイ！丹那^(丹)ハバラオノ言葉ヲ上手ニ話シナサルネ。バラオ
ニハオ古イノデスネ。ドチラノ丹那^(丹)デスカ」。私ハソんな事ニハ答ヘナイデ、老人達ニオ
前サン達ハ此ノ家ノ人カネトキクト、若イ女ガ、此ノ人達ハ本島カラ出テ来タノデスト
答ヘタ。ソコデ私ハHadelbaiハ居ナイノカト聞クト、「居リマス。ūmニ居リマスカラ
呼びマセウ」ト云ッテūmニ行き、大キナ声デ叫ンデ居ル。「エイ、起キナサイヨ、外国
人ガオ前サンヲ探シニ来タヨ！」。彼ハ出テ来タガ、老人達ガ居ルノデ私ノ所ニハ来ナイ
デ、下ノTūangngalノ所ニ今一人ノ若者ト並ンデ席ニツイタノデ、私ノ所カラハ顔モ見
エナカッタ。ソレデ私ハ立ッテ下ノ方ニ行ッタノデ、若者ガ席ヲ立ッテ反対側ニ座ッタ。
私ハ若者ノアトニ座ッテHadelbaiト云フ男ト顔ヲ合ハセタ訳ダガ、アア、Hadelbaiニ
ナッタ、此ノマダ老人ニハ間ノアル□^老長老ハ、昔私ガバラオニ居タ頃、何度トナク乗
ッテ歩イタ緑丸ノ機関士ダッタOmiliyaklナノダ。私達ハ直グニ昔ノヨウナ「コンパニ
ー」ニナッタ。ソシテ今一人ノ若者ガ口ヲ入レタ。「ア、アナタハ昔永イコトNgarald
ニ居ナスッタネ」ソシテ「アナタノ友達ノセムシノTokai⁽³¹⁾ハ亡クナリマシタヨ」ト云
ッタ。

此ノ男ハNgaraldノ男ダッタ。Omiliyaklト此ノ若者トガ知ッテ居ルダケノ事ヲ老人
達ニ説明シ、合セテ大工サンノ事マデ話シタノデ、老人達モ皆納得シ思ヒ出シタ様ダ
ッタ。子供達ニアンパンヲ出シテヤッタガ、女達ハイツノ間ニカ皆ūmノ方ニ引下ッテ
シマッタ。此処デモ別段珍ラシイ話モ出ナカッタガ、ウチトケテ永イコト話シタ。只パ

ラオノ人間が昔盛ニ岩山ニ住ンダコトハ沢山ノ話ニアルガ、ソレハ「ペリリョウ」ノ附近ノ沢山ノ砂島ト、ソレカラ Halebahab ノ処々ニアル砂浜トデアッタノニ、此ノ Ngarahasoal ノモノ等ガ、二部族共ニ、Risong、及ビ Mūltūkūla Riyang ナル Halebahab カラ来タト云ハレ、其等ノ岩山ハ二ツ乍ラ砂浜ヲ持タナイモノデ、シカモ、アノ岩山ノ中ニ平ラナ土地ガアルト聞カサレテハ、実ニ驚キ入ル外ハナイ。一度是非ソノ所ヲ見テ置キ度イモノデモアリ、舟ナドヲ如何ニ使ッテ居タモノカト考ヘナイ訳ニユカナイ。

ソレカラ丁度、此ノ Tmetpap ノ庭ニ Kūkaū ト Diokang ノ Sūwalo ガ百以上モ並ベラレテ居タノデ、何か Oholoal デモアルノカト思ッテ尋ネテ見タ処、Tmetpap ノ女ガ Ngalmellong ニ^娘嫁シテ居タガ、最近其ノ Ngalmellong ノ老人ガ死ンダノデ、Tmetpap ノ老女ガ生家ニ帰ッタ。ソレニ就イテ Tmetpap テ馳走ヲ作り、Ngalmellong ノ者ガ金ヲ集メル手筈デ、裏ノ Tūangngal ニ居タ^傭漂軽ナ老人ガ Tmetpap ノ老人デ、他ノ二人ガ Ngalmellong ノ方ノ老人ナノデアッタ。ソレデ現在ドノ位ニナッテ居ルモノカタダシテミタ処、パラオノ ūdoūd³²⁾ ヲ全然使ハナイデ、日本金デ四百円ト云フコトニ話ガキマッタトノ事ダッタ。離縁モ容易デナイト同時ニ、現在モ昔ニ変ラズ女ガ家ノ^箱弗箱デアルコトヲ^痛通感シタ。

老人達ハ Ngarmid ニ行クトテ連立ッテ出テ行ッタ。私ハ戻ッテ又 Ngalmellong ノ家ニ行ッテ見タラ、先キノ儘、私ノ^墓莫塵ガシカレタママニナッテ居タ。オカミサント少シ話シテ居タガ、涼シクテ静カデ——明ルクテ淋シクテ、ツマラナイ話ヲシテ居ルヨリモ、黙ッテ居ル方ガヨカッタ。二人ノ女ノ子ハドコカへ遊ビニ出テ行ッタ。小サイ子供ハムヅカリ出シタ。ソシタラ、オカミサンガ自分達ノ枕ト毛布トヲ出シ、ソレカラ私ニモバラオ式ノ大キナ枕ヲ出シテクレテ、「ネ、御覽ノ通りデ何モナイシ、何ヲスルコトモアリマセスガ、「コレヨル」ト違ッテ、自動車ヤ何ヤカヤ、ヤカマシイ音モシマセンシ、家ト家トガクツツイテ「トタン」ノ照り返シデムームト蒸シカハサレルコトモアリマセン。折角ノ日曜日デスカラ、此ノ涼シイ処デゴユックリ横ニナッテ下サイ。私モ子供ヲ寝カセマスカラ」ト云ッテ、向フノ Tūangngal ノ所ニ横ニナッテ子供ヲ寝カセタ。私モヒツクリカヘッテ、所々驟雨ヲモッタ厚イ白雲ヲ浮ベタ青イ青イ^空空ヲボンヤリ見ツメテ居ルウチニ——涼シイ風ガノベツニ吹イテ、イツノ間ニカ寝入ッテシマッタ。ホントニ快イ眠リヲ、タプリー一時間半モ寝タダロウ。夢モナク、ヒトリデニ目ガサメルト、昼ヲトックニ過ギタ日ガ、olbed ニギラギラ照ッテ居タ。私ノ頭ガ軽々トシテ、体ニハ汗ヒトツニジンデハ居ナカッタ。オカミサンハ子供トナランデ、グッスリ寝テ居タ。私ガ帰ラウト思ッテ何度カ呼ンデミタガ、女ハ覚メナカッタ。私ハ本當ニ此ノ親子ヲ祝福シタイ氣持ダッタ。私ハヒソカ^口ニ感謝ヲ此ノ親子ニ投ゲテ、ソツト表ニ下リ立ッタ。沖繩人ノ牛ガ、上ノ方デ二声三声モノウク^鳴啼イタ。

六日 月 終日雨降ツタリ、止ンダリ、

午後ブラリト出テ Ibükül ニ行キ、Uldūlaol 爺サンニ逢フツモリデ行ツタガ、Uldūlaol 爺サンハ寝コンデ居タノデ、娘達ト暫クオ喋リシテ帰ッテ来ル。

七日 火 朝一寸雨アリ、後ヨク晴レシガ、午後二時頃カラハ又々曇リ、夕方一時間程モ雨風、

十一時頃、病院ニ行キシモ、井関君ハ又今朝本島ニ出カケタトカデ、帰ッテ来ル。

(欄外に記す)
[芸者ト買人]

午後四時頃ダッタロウ、Ilamms³³⁾ ニ行ッテ見タラ、Ngelūūl ヤ Kūkong モ帰ッテ来テ居タシ、ソレカラ、Obak-rūbil³⁴⁾ ノ両親ガ Imilik カラ出テ来テ居タ。行クトイキナリ、今日ハ豚ガアルカラ食ベマセンカト云フ。ソシテ一ツノ皿ニ Diokang ヲ山盛ニ盛り、一ツノ皿ニ豚肉ノ煮タノト「サルモン」トヲ取ッテケレル。沢山ノ人々ガ綾ノ様ニ勝手ナ話ヲ飛バシタ中ニ、Ilamms ノ隣ニ踊ノ師匠ガ居テ、三人ノ芸者ガ来テ踊ヲ習ッテ居ルノガ、向フガ高イノデ、丁度舞台デモ見テ居ル様ニヨク見エル。皆ハソレヲ永イコト見テ居タガ、芸者ノ話が出タ。彼等ニハコノ様ナ組織ガ解リヨウガナイカラ——彼等ハ芸者ノコトヲ msōbil (独身者) ト呼ンデ居ル——アレラノ mūsōbil 達ハ何ウシテアアシテ居ルノダロウ。綺麗ナ人モ沢山居ルノニ、結婚モシナイデ好キデアアシテ居ルノカシラト云フ疑問が出タ。私ハ簡單ニ、彼等ノ家ガ^(貧)乏シクテ金ガナクテ困ル為ニ、云ハバ借金ヲスル、ソシテ其ノ借金ガナクナラナイ間ハ、彼女等ノ好ムト好マザルトニ不拘、アアシテ客ヲトツテカセガナケレバナラナイノデ、可□哀サウナ人々ナノダ。併シ、アアシテカセイデ借金ヲ全部返シテシマヘバ、其時ハ彼女等ノ思ヒノママニ家ニ帰ルコトモ出来ルシ、結婚スルコトモ出来ルノダト説明シタ。土人達ハホンノ一時考ヘコンダ。併シコレハ彼等ニハ極メテ解リヨイ事ダッタダロウ。ト云フノハ、パラオノ制度デハ結婚ニヨツテモ、離婚ニヨツテモ、女ハ大キナ金ヲカセグコトニナツテ居リ、其ノ動機ガ積極的デアレ、消極的デアレ、女ガ男カラ金ヲ取ッテ家ヲ富マセルト云フコトハハ^{「ママ」}□□^{彼女}彼等ニハ殆ド常識的ニ考ヘラレルデアロウカラ、而シテ彼等ノ間ニハ事実——勿論其ノ制度乃至意味及ビ意識ニ於テハ、女郎乃至芸者トハ全然異ッテ居ルトハ云ヘ——mongol ノ制度ガアツテ、現在ノ誰デモガ其ノ制度ノアツタ事ヲ知ッテ居ルノダカラ、——併シ又話ガ飛ンダ。ツイ近頃ノ話デ、下ニ居ル沖繩人ガ、既二十七□八才ニナツテ何デモ仕事ノ出来ル、ソシテ平素モ実ニママメシク働ライテ居ル子供ヲ、千二百円デ買ッテクレンカト島民ニ交渉シタト云フコトニ就イテデアツタガ、皆ノ結論的ナ意見ハ、馬鹿ナ親モアルモノダ。自分達ニソレダケノ金サヘアルナラバ、直グニ其子ヲ買ッテシマフノダガト云フノデアル。コレハムヅカシイコトダ。二ツノ意味ガ戦ッテ居ルノダトモ見エル。二ツノ社会制度ト二ツノ実生活トガ戦ッテ居ルノダ。實際沖繩人ノ間ニハ、子供ヲ売ルコトガ確カニ行ハレテ居ル。ソレガトヘ年限制ノ場合デアツテモ、日本人

ノ間ニアル年期奉公式ノ考カラハ絶対ニ距離ノアル人身売買ノ觀念ガトモナッテ居ルノデアアル。一方、バラオニ於テハ、一人ノ人間ヲ家族ニフヤシテ食ハセルコトハ何ノ問題ニモナラナイシ、ソレドコロデナク、女ニセヨ男ニセヨ、一人ノ人間ガフエルト云フコトハ、ソレダケ家ヲ豊カニシ、生活ヲ寧口楽ニスル結果ヲ齎ラスコトニナッテ居ルノダ。土地ガアリ、昔程ニハ氏族制度ガ保タレテハ居ナイニシテモ、大家族制度ニ近い生活状態ニアルカラダ。処ガ沖繩ノ家族制度ト云フモノハ、更ニ其ノ中ニ細カナ分裂ヲ持ッテ居ルノデ、例ヘバ男ガ漁師デアルト、其ノ男ハ魚ヲ取ッテカヘル。ソシテ其ノ魚ヲ自分ノ女房ニ卸売りスルノデアアル。ソレヲ女ガ今度ハ担ッテ歩イテ、小売りシテ歩クノデアアル。男ハ労力ヲ女房ニ売り、女房ハ其ノ仕入レタモノ□ニヨッテ自分ノ利益ヲ産マセテ行クノデアアル。

兎モ角此ノ二ツノ制度ト實際トカラハ、今ノ子供——人間——ノ問題ニ於テモ極メテカケハナレタ考方ニ到着シナケレバナラナイダロウ。ソノ沖繩ハ其ノ子ヲ買ッテクレサヘスレバ、翌日叩キ殺シテ呉レテモカマハナイト云ツタト云フ。ソナ事モナカラウケレドモ、若イ女ノ結論ハ、次ノ様ニ結バレタ。「日本ノ人ハ自分ノ子供ヲ育テルコトハ実ニ細ヤカデ正シイガ、他人ノ子ニ対スルト、其ノ全ジ日本人ガマルデ、別人ノヨウニナッテ、子供ヲイヂメ、或ハイヂメナイ迄モ無關心ニナッテシマフ。私達バラオノ人間ハ、決シテ其様ナコトガナイ。他人ノ子供ヲ喜ンデ引取ルシ、タトヘ自分ノ子供ト他人ノ子供ノ間ニ於テサヘ、別々ナ考ヤ態度デ対スルコトハナイ」ト。前ノ問題ニモ亦後ノ問題ニモ、充分ノ興味ガアリ、又検討サルベキ幾□多ノ問題ガ残サレテ居ルノダガ、此ノ辺デ切上ゲテ置カウ。

八日 水 晴、夜遅クナリテ豪雨、

朝、Ibūkūlニ行キUldūlaol翁サンヲ訪ネル。

午後三時半過ギ南星丸入港。杉浦君ヲ迎ヘニ行ク。

㊦ 兄玉豊三郎氏（トラック南油）ヨリ、

稲喜藏氏（トラック）ヨリ、

Ibūkūl

Klobak (Ngarakisis)	Kebli	
1. Uldūlaol	Siwal	(1)
2. Rangem	Tmong	(2)
3. Tūherūūh	Terekiyoū	(2)
4. Ngarahataoh	Rongngol	(1)
5. Sahalong	Tpang	(1)
6. Ngarahoheyang		(1)

- 7. Būik Tūherūūh (2)
- 8. Medala Kabao (2)
- 9. Oidol (1)
- 10. Ngirtakarang (1)

Kaū-oharo { (1)
 (2) Taoh-a Hamang (bital a taoh ナシ)

Helid era Belūū ♂ Uhel Klideū (Derasahel 無し)

〔欄外に記す〕
 〔部落寓話〕

Uldūlaol 爺サンノ話ハ誠ニタワイガナイガ—

○神 Uheldiū ハ此処ヲノ村々ノ大キサヲ定メ、形ヲ整ヘタ。ソノ時ニ Uheldeū
 ハ Malahal ト Ngarkabesang トヲ Horeol カラ切りハナシタ…

○a Lūlūh 家ノ子供ガ—昔此ノ村ニ於テハ^a□□□□^l□□□□^u□□□□^s a liūs ガ嚴シイ禁忌デアア
 タ—其ノ子供ガ大變ニ椰子ヲ欲シガッタノデ、家人ガ Halūh^h ヲ作ッテ与ヘ
 タ。ソノ残りヲ椰子殻ノ中ニ入レテ海岸ノ岩ノ下ニ隠シテ置イタ処ガ、海ガ荒
 レテ汐ガ大キクナリ、ソノ Halūh ヲ入レタ椰子殻ガ流れ出テシマツテ、
 Ngarakabesang ニ着イタ。Ngarakabesang ノ者ガ之ヲ拾ッテ見ルト、Halūk
 ダッタノデ、何ダ Ibūkūl ノ奴等ハ Halūk ヲカクレテ使ッテ居ヤガルト云ツテ、
 前ノ海ニアケテシマツタ、……ソレ故ニ Ngarakabesang ノ魚ハ Malaok (脂ガ
 多イ) デアル—

Ibūkūl ノ者ガ後 Ngarahabarūh ニ入ツタ。Ngabūdeh ニモ入ッテ Ibūkūl ノ家
 ヲ起シタ。Ngkaisar ニモ入ッテ全ジク Ibūkūl ノ家ヲ起シタ—

○Uhel Klideū ガ Ngūrūngūwikkl ノ a Ked ニ居ルト、a Ngūis ノ神?ガ ollaol
 era Ngarielb ノ taoh カラ入ッテ来テ、Ngūrūngūwikkl ニ登ッテ来タノデ、
 Ngūrūngūwikkl ニ居タ Uhel Klideū ガ「コッチニ来テハイカン、戻ッテ向フ
 □側ヲマハッテ行ケ」ト云ツタノデ、引返ッテ行ツタ。ソノ Ngūis ハ一本ノ大
 キノ Ukall^[ママ] ノ木ノヨウデアッタト云ヒ、其ノ通ツタ跡ガ Ngarielb ノ水道デア
 ルト云フ。a Ngūis ハ□出テ行ッテ Ngarakabesang ノ向フノ岩山—a
 Dūrūyūs ト云ツテ、岩□ニ穴ガアイテ、其ノ穴ガ向フ側マデ突キヌケテ居ル
 ガ、其処ヘ行ッテ寝タ。夜 Ngarakabesang ノ者ガ見ルト、Dūrūyūs ノ処ヲ見
 ルト火ガ見エル。ソレハ火デハナクテ、ソノ Ngūis ノ口デアッタノダ。何ダロ
 ウト云フノデ、一人ガソノ火ニ近ヅイテ見ルト、ツト吞ミ込マレテシマツタ。
 怪シンデ次ノ者ガ近ヅイテ行クト、又吞ミコマレテシマフ。ソレデ
 Ngarakabesang ノ者ハ昼ニナッテカラヨク見テ見ヤウトテ引返シタ。朝ニナッ
 テ見ニ行クト、大キナ Ngūis ガ トグロ ヲ卷イテ居テ、其ノ上ニ首ガ乗ッテ居

ル。ソコデ Ngarakabesang ノ者等ハ大キナ火ヲ焚イテ幾ツモ石クレヲ焼イテ、ソノ石ヲ投ゲテヤルト、Ngūis ハ相変ラズ ペロリ ト吞ンデシマフ。又一ツ投ゲルト又吞ンデシマフ。斯ウシテ沢山ノ焼石ヲ吞ンダ Ngūis ハ、漸々腹ノ中ガ焼ケテ来テ、遂ニ居タタマレズ、逃ゲテ Uhelngeward ノ家ニ行ツタガ、家ノ入口ノ処迄行ッテ、遂ニ死ンデシマッタ。(Uhelngeward ノ居タ処ト云フノハ何処ナノカ。水平線ノ彼方ト考ヘラレル。Uhelngeward ハ総ベテノ鳥獸、Sohosoh ダトカ、Sohoūh ダトカ、Dūroyoh ダトカ、総ベテノ鳥獸ヲ ^{h a l m}□□□□ harūmel (飼物) トシテ居タ。コノ a Ngūis モ彼ノ a harūm デアッタ) ソレデ Uhelngeward ハ誰ガ Ngūis ヲ殺シタノデアロウカ。人間ドモニ復讐シテヤラネバナラン」ト云ッテ、誰カ行ッテヤツツケテ来イト命ジタ。最初ニ私が行ッテ来マスト云ッテ出カケタノハ、一羽ノ Sisibangiyao デアッタ。Sisibangiyao ハ Ngeyaūl ノ Pükūlngūlūūl ニ行ッテ蹲マッタガ——ソレハ Ngaū (火) デアッタ (Sisibangiyao ハ紅雀) ——処ガ其ノ向フノ海岸ニハ大キナ穴ガアッテ、海ノ汐ガ時ヲ置イテ吹き上ゲルノデアッタガ、其時丁度此ノ汐ガ吹き上ゲテ、Sisibangiyao ノ火ノ上ニ降り注イダノデ火ガ消エテシマッタ (Sisibangiyao ガ死ンデシマッタ)。Sisibangiyao ガ帰ッテ来ナイノデ、今度ハ Malūk (鶏) ガ代ッテ行ツタガ、是レハ ^{a R i y a m m l}□□□□□□ yūsel a Riamml (a Riyamml (木名) ノ骨 (種ノ□中) ヲ食ハサレテ死ンデシマッタ。其処デ三番目ニ Olik (大蝙蝠) ガ行ッテ村ノ家々ヲ皆壊シテ帰り、人々ガ家ヲ建テルト、又々行ッテハ壊シテ帰ツタガ、シマヒニ abarah ニカカッテ遂ニ死ンデシマッタ。コレガ Olik era Idabelūwōhol デアル。

伝説 [Olik era Idabelūwōhol 参照]

九日 木 昨夜中実ニヨク降ツタガ、今日ハドウニカ止ム、曇、小雨アリ、大工サント、法院ニ検事ヲ訪ネシモ□不在。本庁ノ刑務課ニ行キ、一寸森課長ニ面会後、別室ニテ若旅氏ト懇談後、Namottzok 事件³⁵⁾ ノ調書ヲ作ッテ貰ヒ、一切タノンデタル。

十日 金 曇、雨降りシモ、午後晴ル、午後三時頃、大工サント法院ニ行キ、検事ニ面会。後、法院長ヲ官舎ニ訪ネシモ、来客中ナリシ故、玄関ニテ辞シ、郵便局ニ一寸永田氏ヲ訪ネ、更ニ電信所ノ海田氏ノ所ニ行ク。海田氏ノ所デテ食ヲ馳走ニナリ、後、海田氏ヲ家ニ招ジテ来ル。小浜君、又本島ヨリ出テ来テ居リ、相変ラズ、十二時半ニナッテシマフ。

十一日 土 紀元節 朝、雨降ッたり止ンダリセシモ、昼前カラ晴ル、
午後四時頃、郵便物ヲ取りニ出、永田氏ノ処ニ行キ、後、大隅武官ヲ訪ネシモ不在。
野元氏ノ処ニ行ク。夕飯ヲ馳走ニナリ帰ル。

㊦ 中沢英子ヨリ小包 1, カンヅメ イロイロ, 糸イロイロ, メートルグラス, 匙, 小秤,
羽根, 羽子板,

三沢寛ヨリ, 小包 1, 絵具沢山ト羊羹, 葉書 1,

青田幸吾氏ヨリ 2 通, 江波清美ヨリ 1 通, 松岡正雄ヨリ 1 通,

㊧ 稲喜蔵氏 (トラック) へ,

児玉豊三郎氏 (トラック南油) へ,

十二日 日曜日 午迄ニ暫クヒドイ雨アリ、午後晴、

朝、若旅氏ヲ官舎ニ訪ネシニ、役所ニ行カレシ由ナレバ、直チニ役所ニ行ク。Namotzok
ノ件ニツキ談。森課長モ来ラレシ□ヲ以テ一通リ話シ、分レテ帰ル。南洋汽船ニ寄り荷
物ノコト尋ネシモ要領ヲ得ズ。雨降り来リシガ、バスニテ公学校³⁶⁾ニ行ク。生徒土産品
売却展覽会ナリ。午後六時、若旅氏ニ招カレ、大工サント共ニ金寿司ニ□行キ、御馳走
ニナル。一件ノ儀マトマリ終ヘズ、明朝更ニ訪ネル事トシテ、十分分レテ帰ル。

〔欄外に記す〕

〔Ibedūil ノ離縁金 [48 頁]〕

今日ハ亡クナッタ Ibedūil ノ家ニ盛ナ「ボックス」ガ運バレタ³⁷⁾。是レハ□故 Ibedūil
ノ behil ノ里方カラノ□^走馳走デ、是レニ対シテ Idid ノ方カラ ūdoūd 其他ノ贈物ガ出サ
レテ、女ハ里方ニ帰ルノデアル。馳走ニ対シテハ日本金ガ払ハレルノデアルガ、一「ボ
クス」2^円50ギメデ、□□□五十七「ボックス」デアッタト云フカラ、百五十円見当。ソ
レニ日本出来ノ Pūlatong³⁸⁾ ガ 500 枚、出来合ヒノ女洋服 (Bair) ト Tolūk³⁹⁾ デアルガ、
此ノ数ハ確カナ所ヲ聞キ得ナクッタ。ソレバカリデナク、肝心ナ パラオノ ūdoūd デア
ルガ、Idid ニ於テハ Mūhūt ト呼バレル a Bahal era Monggaū ヲ出スト云フノデア
ルガ、婆側ノ方ニ於テハ更ニ大キイ Pelelai (Bahal era būrak), 或ハ Holiyūh (Bahal
era būrak) ヲ出セト云フノデ、話ガマトマラナイノデアッタ。

ト云フノハ、是等ノ Pelelai, Holiyūh ノ二ツハ、パラオニ於ケル最高ノ ūdoūd デア
ッテ、他ノ二ツノ最高ノ Halūbūhūb ト共ニ、何代カ前カラノ Ibedūil カラ伝ハッタモ
ノデ、云ハバ ūdoūd era keblil ナノデ、是レハ何トシテモ出セナイト云フノデア
ル。↙
〔欄外に記す〕
〔○Holiyūh ハ一般称デ、Idid ニアルモノハ Tebūro būsheh 及ビ Merüyol ノ二ツデア
ルト。〕

十三日 月 快晴、

朝、大工サント共ニ役所ニ若旅氏ヲ訪ネル。

十四日 火 晴,

昼前, Isikawasang ノ所ニ行ッテ Ikelao 及 Idid ノ人間トモニ就イテ話ヲ聞イテ来ル。
夕方, 野元氏来ラレル。

夜, Hamms ニ行ッテ遊ンデ来ル。

^{〔欄外に記す〕}
〔土地^{〔土〕}使用権, 所有権, 支配権 〔44 頁〕〕

夕方, Eltulong と a Yoboh ガヤッテ来タ⁴⁰⁾ ガ, 話シハ十年モ前ノヨウニ呑氣ニ冗談
ばかりデ話サレタガ, 其ノ内容ニハ遠ニ時代的ナ切実ナモノガアッタ。彼等八十年前ト
ハ違ッテ土地ヲ取上ゲラレ, 取上ゲラレテ行クノデ, 畑ハ少^{〔ママ〕}サクナリ, 土地ヲ休マセル
コトガ出来ナイノデ, タピオカ ノ如キハ小サクナル一方, 田圃ノ方モ若イ女達ガアマリ
耕作ニ身ヲ入レナイノデ——其ノ理由ハ沢山アル。ガ是レハ其自身モット細シク説明ス
ル機会ガアルダロウ。

- ① Pelaū ニ於ケル Kεblil 制度ニ於□ケル使用権ト, 文明ニ於ケル個人的所有権トノ間
ニ於テハ, 支配権ノ意味ニ大キナ差ガアッテ, 如何トシテモ一足飛ビニ移シ変ヘル
コトガ出来ナイ。ソレヲ無理ニ一足飛ビニ移シ変ヘラレツツアルコト。

勿論旧習ノ調査ガ全然欠ケテ居タ事, ソシテ此ノ Pelaū (Horeol) ノ最近ノ發展
ガ余リニ急激デアッタ事, 中就前者ガ考慮ニサヘ置カレテ居ナカッタ結果, 適当ナ
順序方法ヲ見出し得ナカッタコト, 即チ, 旧来ノ極少数者ノ支配権ヲ, 一般多数者
ノ使用権ノ程度ニ (或ハ實際的ニハ其^{意〔以〕}□其上ノ細分ヲモ計算ノ中ニ入レタラバ, 更
ニ完全デアリ得タロウ) 分裂セシメテ, 然ル後ニ所有権ヲ認め, 支配権ヲ (適宜ニ)
付与スルベキデアッタコト。

- ② 殖民地ニ於ケル, 官吏ヲ中心トシ, 官吏ヲ取り^廻□卷イテ經濟ヲ立テテ居ル商店, 而シ
テ最近ハ純然タル農耕勞役者ガ多数ニ入ッテ居ルトハ云ヘ, ソレハ数ニ於テモ, 其
ノ活躍ニ□於テモ, 殆ド其ノ極大部ヲ沖繩県人ガ占メテ居ルコト, 而シテ實際ニ於
テモ一般ニハ沖繩県人□ガ生活的ニ (□頭腦^{〔腦〕}□乃至精神的ニ, 殊ニ道德的ニ) 一段
低イ為ニ, 土地ノ所有者 (一般ノ意味デ) デアリ, 殊ニハ其ノ土地ニ立脚シタ自然
生活ヲナシテ居タ所ノ島民ガ, 其ノ土地ヲ利用シ乍ラ漸進的ニ經濟生活ヲ打立テテ
行ク代りに, 沖繩県人乃至其ノ肉体的勞力ヲ馬鹿ニシテ, 一足飛ビニ片寄ッタ少数
内地人ノ經濟生活ニ憧ガレ進マウトシテ, 内容ヲ忘レテ, ト云フヨリ無理解ニ (ト
云フノハ自分等ノ腦味噌ノ不足ニ氣ガツカズ) 外見的ナ模倣ニ走ッタコト——マダマ
ダ沢山アルガ, 兎モ角海中ノ花珊瑚迄モ掘リ取ラレテ□魚サヘナクナリ, 此ノ儘デ
ハ数年ヲ出ズシテ, パラオ人ハ適地ニ逃避スルヨリ外ナイト云フノデアル。

^N₆
〔□□ 26, 57〕

Ngar bahed

(el sahal) (el dil)

Klobak (Ngar Ngedehibül)	Keblił	Rübak l dil (Ngellitl)	lūkū la Düi	lūkū la Düi
1. Mürimarang	Ngiribükül (1)	Beheklidil	Belüliei	Kadei
2. Ngira Ibūüh	a Ibūüh (2)	Mlekei	Tūlisal	Alahodereng
3. Ngira Kerekūr	Kerūkūr (3)	Dira Karūkül	Ngebis	Latkangngal
4. Ngira Meriyang	Meriyang (4)	Dira Meriyang	a Rois	Kedūül
5. Dingiliūs	Ngethedong (2)	Dira Delbohul	a Kmongewang	Olepütbūül
6. Ngiri Pkal	Ngeri Pkal (1)	Dira Pkal	lūkū a Düi	Tiül
7. Ngir Tengeli	Ngūrū Tengeli (3)	Dirū Tengeli	a Kesil	Ngedeh
8. Ngir Holūsühül	Orūsühül (4)	Dir Homūsühül	Ulehüll	Ibengi
9. Ngir Hoteot	Hoteot (2)	a Habas	Isao	Telael
10. Būiki Had	Ibiyohol (1)	a Habas	Ngatkūp	a Itlang kölong

Helid era Belūū, Uhel Halid

Bedengel e Derasehel, Kitterel ma Mangarengel.

Kai oharo $\left\{ \begin{array}{l} (1) \\ (2) \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} (4) \\ (3) \end{array} \right\}$

Taog — Nget Kedam,

Bai l Rūbak — Ngedehibül (ngara era belūū)

Bai l Meyao — Motūngūrül (ngara era taog)

a ngklel a taog — Ngetkedam (di tang)

十五日 水 晴,

朝カラ Ngarbahed ニ行ッテミル。Ngatpangngal 老人ヲ探シタガ居ナイノデ、丁度 Nger Mahaet 家ニ男女老若数名集ッテ居タノデ、其処ニ上リ込ンデ、昼過ぎ迄モ遊ンデ来ル。Ngarbahed ノ組織ハ前頁ニ記シタ様ナモノデアッタガ、男子ノ lūkū a Düi ト云フモノガ判然シテ居タノデ、夕方再ビ Kisaūr ノ所ニ行ッテ聞キタダシテミル。

〔欄外に記す〕

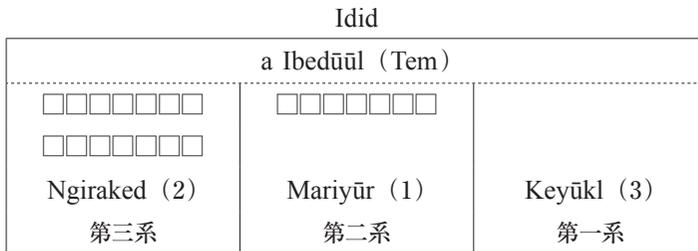
[Keblił Tūlūū-ngalūk 土地〔39頁〕]

未ダ未ダ不完全デ更ニ調べナケレバ^{〔到〕}倒底マトマラナイノデ、原則的ナ所ヲ覚エニ書イテ置クニ止メル⁴¹⁾。先ヅ、

Keblił (Kleblil) ト云フ言葉ハ氏族其物ヲ指ス言葉デアッテ、一大氏人関係ヲ指ス言葉ハ Tūrūū-ngalūk ト云フ。殊ニ大氏中ノ長老継承者乃至、全氏中一派ノ長等ニ対シテハ Had era Keblił □ (氏ノ人) ト云フ語ハ適用サレテハナラナイ、失礼ナ言葉デアル。Had era Keblił ト云フト、云ハバ、「家ノ子、^{ロードー}郎党」ト云フ様ナ、氏内末派ノモノヲ指スノデアル。処デ是等ノ関係ハ事実ニ依ラナケレバ^{〔到〕}倒底抽象的ニハ説明サレ得ナイカラ — ト云フノハ、勿論、島民達ハ永年ノ習慣ニヨッテ莫然ト觀念ヅケラレテ居ルノデア

ッテ、原則的ニ其ノ組織ヲ検討シタコトハナイノデアルカラ——氏人ノ判然シテ居ル、且ツ少数シカ残ッテ居ナイ氏族ノ實際ニ就イテ見ルノガ最モ原則的デ、且ツ簡明デアロウ。

ソレデ [N5.19] ニ挙ゲタ Idid⁴²⁾ ニ就イテ見ルト、先日亡クナッタ Tem ノ Ibedūül ノ下ニ Ngarakabesang ノ Hobak⁴³⁾ ガ居リ、次ニ Ngiraked ガ居リ、次ニ Keyükl ガ居ルガ、此ノ三人ガ皆直接兄弟デナクテ、各親ノ代カラカケ離レテ居ル。斯カル場合ハ大氏 Idid ノ中ガ、便宜的ニ、ト云フヨリ形式的ニ (ト云フ意味ハ文明的ニ制度ニ於ケル登録サレタルモノノ如ク「動カナイ」モノデハナクテ、人員数ノ関係等ニヨッテ、^(動)「重キ得ル」モノナノデアアルガ) 支配権ヲ□分ケ合ッテ居ルノデアル。土地 (芋田ヲモ含ム) ノ如キ不動産モ、ūdoūd ノ如キ動産ヲモ含メテ。其処デ原則的ニ示スト、次ノ如キ形ニナル。



^[欄外に記す]

[Tem ハ merreeder ra Keblił ra Idid デアリ、Ngiraked ハ merreeder ra tülüngalk ra Hehe rang デアリ、Keyükl ハ merreeder ra tülüngalk ra Teheboet デアル。Tem ハ勿論 merreeder ra tülüngalk ra Omtiŋlōu デモアル。]

即チ Idid ナル土地乃至 Udoūd ハ、本来の大氏族制ニ於テハ Ibedūül ガ支配スベキデアルガ、實際ニ於テハ (特別ナ場ヲヌキニシテ)、^[合脱] □上記ノ如キ三派ニ分ケラレテ居ル。而シテ Ibedūül ハ直接ニハ ^{N g i r a k e d} □□□□□□□□□□ mariyūr ヲ支配スルノミデ (ソレハ N5.99 ^[干]ノ系譜ニアル様ニ、彼ガ第二派ノ出デアルカラ)、第一、第三ノソレニ対シテハ^[干] 関涉支配スルコトガナイ。即チ、Tem ガ亡クナッテ、Mariyūr ガ Ibedūül ヲ継イダ場合モ [全様]、此ノ Ibedūül ハ其ノ ^{ニ派ノ長タル Hobk e r a N g a r k a b e s a n g ト共} □□□□□□□□□□ □□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□^ニ 第 (1) 区ヲ支配スルダケデ、(2) 区 (3) 区ニハ^解 □触レナイコトニナルノデアル。(私ハ故意ト此処デハ個人名ヲ使用シテ Dūi ヲ□使用シナクッタ。Dūi ヲ使用スレバ繼承順位モ一見ニシテ解ルノデアルガ、現在ノ實際ハ Dūi ヲ便宜的ニ、ト云フヨリ形式的ニ踏襲シテ居ルダケデ、意味モ且ツ伝統ヲモ離レテ居ルノデ——例ヘバ、Mariyūr ハ前々 Ibedūül ナル a Loūh ガ亡クナッタ時ニ、Ngiriyōu l Idid ニ入ッテ、□ Ngarkabesang ノ Hobak ヲ次継者ニ讓ッテ居ルベキヲ、時勢ニカンガミテ、是ヲ辞シテ居タモノデアリ、Klotlaol, Ngiratehekī ノ如キハ、モト全然他氏族ナル Ngūrūsübūrūh, Tehekī ノ長者ノ称ヲ意味シタモノデアルヲ、氏人ノ絶滅ト共ニ Idid ノ者ガ無意味ニ (ト云フヨ

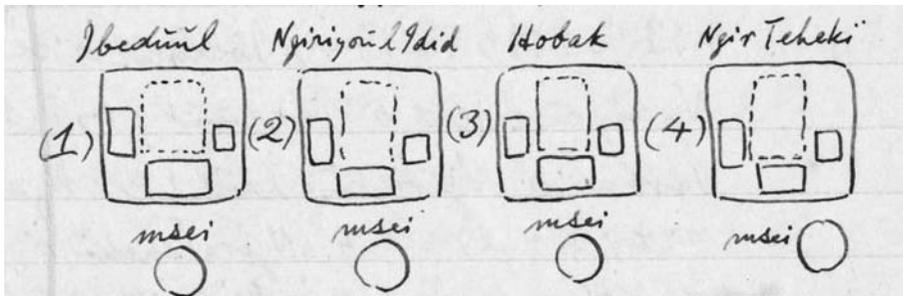
り、氏族制度ノ意味ヲ捨テ、政治的役職ノ意味ニカヘテ) dūi ヲ取ッテシマッテ居ルヨ
ウナ次第デ——却ッテ煩ハシイ説明ヲ要スルヨウナ事ニナルノデ使用シナカッタ)【昨日
書イタ土地ノ支配権ト使用権、□ソレト文明的ナ□所有権即支配権トノ問題ハ茲カラ出
発シナケレバナラナイ筈デアル】

〔欄外に記す〕
[ongalūk]

而シテ此ノ中ニ家族ガアリ、ソレゾレ使用土地ヲ定メラレル(支配者ノ承認ニヨッテ)
ノデアルガ、blai ハ家其ノ物デアッテ、家族関係(夫婦及ビ其ノ子供又ハ主人ノ弟妹ノ
如キ)ヲ表ハス語ヲ ongalūk ト云フ。

次ニハ、云ハバ村ノ土地ト云ハレテヨイヨウナ土地ガアル。是レハ、後記ノ如キ次第
デ、或ハ厳密ニハ第一、第二ノ大酋長ノ氏族ニ属シタモノトモ見ラレルシ、ソレガ先キ
ノ Kεblil ノ土地ト區別サレナケレバナラナイト□スレバ、第一、第二ノ大酋長ニ直属シ
タモノト考ヘテモ差シ支ヘナイガ、ソレハ其々ノ Dūi ニ附随シタ、言ハバ役宅トモ云フ
ベキモノデアル。是レモ例トシテ Idid ノ例ヲトレバ、

〔欄外に記す〕
[役宅 lūkūl a Dūi]



コレハ、現在ニ於テハ、□□土地ガ個人名義ニナサレツツアリ、人間ガ少クナッテ居
リ、反対ニ日本人ガ来テ買ヒトリ、又ハ借り受ケテ居ルノデ、以前ノ役宅モ無クナッ
テ居リシテ居リ、其ノ Dūi ヲ持ッタ人間モ自分ノ個有地ニ住シテ役宅ヲ継承シテ居ナイノデ、
実例デハナイノデアルガ、解リヨク原則ヲ示セバ、ソシテ前記 Idid ニ属スル四人ニ就イ
テ例ヲ引ケバ——役宅ト云フノハ住居ソノモノデ、他ニハ余分ノ土地(Kεblil ノ場合ノ
如キ)ハ附随シテ居ナイノデ、普通ノ Pelaū ノ完成サレタ家ノ形式 Kloū blai⁴⁴⁾ ト、ūm⁴⁵⁾
ト、ソレカラ Ulōngang⁴⁶⁾ ト Olbed⁴⁷⁾ トカラナル所ノ区域ダケデアル。ソレト此ノ役宅
ニハ必ズ小サナ lūkūl a Dūi ト称サレル芋田 msei ガツイテ居ル。〔欄外に記す〕【但シ(1)ノ Ibedūil
ニ附属シタ芋田ダケハ非常ニ大キク、是レハ Ngarahasoal ノ女達□ヲシテ耕サシメタ。】
コレハツマリ、家ツキノ食料デアッテ、結婚ガ同部落内デ取結バレタ場合ハ差ツカヘナ
イガ、妻ガ他部落ノ者デアル場合ハ、ソシテ此ノ部落内ニ全氏族ヲ持タナイ場合ハ、此
ノ女ハ耕ヤスベキ芋田ヲ持タナイカラデアル、——其々(1)(2)(3)(4)ト云フ役宅ニ

入ルコトニナルガ、□（此ノウチ Hobak ハ Ngarakabesang ニ役宅ヲ持ツ訳デアル）、Ibedūil ガ死ンダ場合ハ Ngiriyōil Idid ガ Ibedūil トナッテ（1）ニ引移リ、Hobak ガ Ngiriyōil Idid トナッテ Ngarakabesang カラ出テ来テ（2）ニ入り、Ngira Tehekī ガ Hobak トナッテ Ngarkbesang ニ赴キ、次格□者が新タニ Ngir Tehekī トナッテ（4）ニ入ッテ来ルノデ、芋田モ全時ニ移ルノデアル。

〔欄外に記す〕
〔勿論他氏族ニ於テモ Ngira Ikelao 以下 Dūi ヲ持ツタ Rūbak ニハ皆此ノ村ノ役宅ガ用意サレテ居ル〕

ソレカラ、a Bai⁴⁸⁾ ノ敷地並ビニ a Diangngal⁴⁹⁾ ノ敷地モ、当然、云ハバ此ノ村ノ土地ニ入ル訳デアル。併シ實際ニハ先キニモ述べタ様ニ、是等ノ役宅モ既ニ売ラレタリ、〔貸〕借サレタリシテ居ルカラ、私有物トシテ登録サレテ居ルニ違ヒナク、現在アル Meketī ノ Bai ノアル所ハ折半シテ、一半ヲ Idid ニ於テ管理シ、他ノ一半ヲ Ikelao ニ於テ管理ト云フコトニ定マツテ居ルト聞イテ居ル。Dūrūi ノ a taoh⁵⁰⁾ [及ビ Bai] ニ附属シタ土地ハ勿論 Idid ノ□モノトナリ、ソレカラ Sahamūs ノ a taoh 及ビ Bai ニ附属シタ地ハ、Ikelao ガ支配シタモノデハアルガ、歴史的ニハ Rūbasah ガ開イタモノデアル故ニ（Horeol ノ歴史口碑参照）、Rabasah ノ所有トナシタト云フコトデアル。

併シ此ノ様ニ説明スルモノノ、昔時ニ於テハ必要以上ノ土地ガ幾ラデモアッタノデアアルカラ、土地ノ支配権乃至使用権ハ伸縮、其ノ人員数等ノ状況ニヨツテ不定デアッタデアロウシ、開墾ノ労力が直チニ使用権ヲ意味シタデア□ロウ。ソレ処カ森林地帯ニ於テハ土地ノ觀念サヘ無カッタ筈デアアルカラ、上記 Keblii ノ地等ハ既墾ノ区域ニ限ツタモノデ、森林地帯ニ及ンデ迄土地ニ対スル支配権、使用権ガ定ツテ居タ筈ガナイノデアル。

十六日（木） 晴、午後一時ニハ又雨ニナリ、後止ミシモ雲多シ、日暮レヨリ又雨ニナル、

家ニ居テ「ノート」ノ整理。

午後四時頃、南星ノ荷物ガ上ツタ由電話ガアッタノデ、大工サント「オートバイ」ヲタノンデ取りニ行キ、内地ニ真直グ送ルモノハ倉庫ニ預ケテ来ル。

〔欄外に記す〕
〔Ibedūil 離縁金〕

先日 a Ibedūil ノ離縁金ニ就イテ⁵¹⁾ [35 頁] 書イタガ、話ハマダ込ミ入ッテ居タノデ、一寸書キ添ヘル。

Ibedūil ノ妻 Idelkei ハ夫ノ病ガ重クナッタ時ニ、遺言状トシテ人ヲタノミテ、前記 Pelelai 及ビ Holiyūh ノーツ、及ビ Helbūhūb 二個並ビニ a Tūū ノ田、及ビ Misūkabesang ノ土地ヲ貰ヒ受クル様書カセ、Ibedūil ヲシテ捺印セシメタノデアルト云フ。然ルニ此ノ遺言状ヲ書カシメ、捺印ヲ求メタ次第ニ就イテ、Idid 側ノ誰一人ニモ知ラシメズニ隠シテ居タノデアッテ、Ibedūil ガ亡クナルト、其等ノ ūdoūd ヲ取ツテ隠シテシマッタ。ソシテ前記ノ様ニ Idid ノ者等ガ其レヲ拒ミ、Mūhūt 及ビ Helbūhūb ヲ出スト、是レヲ

受け取ラズ、Hobak ヲツレテ直チニ法院ニ遺言状ヲ持ち出シタモノデアル。Hobak ハ此ノ遺言状ヲ突キツケラレテ、知ラヌ存ゼヌノ外、何トモ云フコトガ出来ズ、結局、彼ハ前ニモ Ngiriyō l Idid ノ Dūi ヲ受ケナカッタ様ニ、今度モ Ibedūil ヲ継グ意志ガナクテ居ルノデ、——左様想像サレル——結局是レヲ承認シテ捺印シテシマッタ。帰ッテ来ルト、Idid ノ者達ハ此ノ由ヲ聞イテ憤慨シ、而シテ強硬ナ態度ヲ以テ談判ガ始□メラレタノデアッタ。Idelkei モ後ヘ引カナイノデアル。此処二人ノ最モ重要ナ女ガアル。一人ハ勿論 Bilūng デ、此ノ Bilūng ガ此ノ話ニ乗り出スナラバ、向フモ其ノ様ニ強クハ出ラレマイシ、何トカ妥協シテ早く解決ガ着クデアロウ。然ルニ以前ニモ書イタ様ニ、Bilūng ハ氣持ヲ悪クシテ居ルノデ、家ニ引込ダママ、如何ニ話ガ込入ッテ来テモ、頑トシテ乗り出サウトシナイノデアル。今一人ハ Idid ニ於テ只一人ノ（今デハ）重要ナ女 Ngardoko デアル。Bilūng ガ匙ヲ投ゲタトナルト、此ノ女ガ出ナケレバナラナイ。然ルニ此ノ女ハ物ワカリノ、ドチラカト云ヘバ冷静ナ女デアルカラ、遺言状ガアッテ Ibedūil ノ捺印ガアリ、Hobak 迄ガ其レヲ承認シテ捺印シタトアッテハ致シ方モアルマイ、時勢モ既ニ昔トハ違ッテ居ッテ、如何ナル旧来ノパラオノ格式ヲ以テシテモ、日本ノ役所ノ処置ニ反対スルコトハ出来ナイノデアルカラ、是レハ遺言状ニ従フ外アルマイト主張スル。ソレデ自分ガ氏族人カラ悪ク云ハレルナラバ、母ノ生レ故郷ナル「トラック」Rūkニ帰ッテモヨイ（此ノ Ngardoko ノ母ハ Rūk ノ者デ、Rūkニ居ッタ英国人ト結婚シテ居タ。此ノ英人ガ船ヲマハシテ Palao ニ来タ時ニ、其ノ女ハ娠ンデ居ッテ出産ノ月ガ近ヅイテ居タノデ、Ibedūil ニ託シテ女ヲ置イテ去ッタ。而□シテ其儘終ニ帰ッテハ来ナカッタノデアッタ。女ハ月ミチテ女児ヲ拳ゲテ Ngardoko ト名ヅケタノデアッタ。此ノ事実ハ Ngardoko ニハ隠サレテ居タノデ、老人達ヨリ外ニハ知ル者トテナク、殊ニハ Idid ノ重要ナ女ノ事デアルカラ、他人モ誰一人トシテ口ニ出シタモノガ無カッタノデアッタ。然ルニ私ガ八年前ニ パラオ ヲ去ッタ後間モナク、ツマラヌ口論ノ末、亡クナッタ Idid ノ女（Ila Ikelaο ノ妻）Dirioū ノ口カラ（「トラック」ノ女）ト一事蔑マレタノデ、彼女ハ驚キ、且ツ驚イタト全時ニ、何トシテモ故郷ニ帰ッテ自分ノ家ヲ訪ネ当テナケレバ、此ノ嘲意ニ対シテ胸ガヲサマラナカッタ。其処デ單身 Rūkニ渡ッテ調べタ所ガ、自分ノ母ノ家ト云フノハ春島ノ村長ノ家デアッタノデ、大イニ心ヲ安ンジ、Idid ノ女トシテ、他ノ者ニ決シテ引ケヲ取ル如キ身分ノモノデハナイト云フ自□信ヲ得テ、再ビ パラオニ帰リ、更ニ自分ノ子供ニシテ居ル Kisaūr ヲツレテ Rūkニ渡リ、暫クシテ再ビ パラオニ帰ッテ来タノデアッタ。其故彼女ハ英国人トノ混血児デアリ、皮膚ノ色モ白イト共ニ、島民達ノ間デハ、シッカリ者ナノデアル）ト主張スルノデ、益々話ハ六ヶシクナッテ居ルノデアル。

処デ Kisaūr ニ言ハセルト、アノ女達——Idelkei 並ビニ其ノ氏人等——ハ馬鹿デアル。ト云フノハ、若シ是レヲ昔式ニ見ルナラバ、ソレガ例ヘバ Melekeok ノ Udūs ノ様ナ、立派ナ Idid ト対立スルダケナ家柄デアルナラバ、Pelelai ヤ Holiyūh ノ如キ大キナ ūdōū

ヲ持ッテ行ッテモ、其ノ金ニモ負ケマイシ、愈々値打モアラウ。又、其等ノ ūdoūd トシテモ惜シマレルコトガナイ。併シ Ngersūil ノ名モナキ家ニ此ノ様ナ大キナ ūdoūd ガアツタトテ、ソレハ ūdoūd 自身氣ノ毒デアルヨリ外、無意味ナ筈デアツテ、Ngersūil ノ名モナキ家ノ者ニヨツテハ、此ノ金ハ用キ様ニモ用キ様ガナイ□ノダ。斯カル場合ハ、其レヲ Lūklai ナリ Ibedūil ノ所ニ持ッテ行ッテ、小サイ ūdoūd ニクヅシテ貰フヨリ外ナク、持ッテ居タトテ人々カラ其ノ氣マグレヲ笑ハレルヨリ外ナク、其レニヨツテ家ノ格ヲ上ゲルナドト云フコトハ倒底^[到]アリ得ナイノデアル。又、次ニ是レヲ現代式ニ見ルナラバ、今ハ全ク急□激ニ其ノ価値ヲ低下シツツアル。ソシテ遠カラズシテ全然無価値ニナツテシマフ。ソんな ūdoūd ヲ、ソんなニ、今迄何十年ト共ニ暮シタ Idid ノ女達ト喧嘩ヲシテ迄貰ッテ行ッテ、何ウシヨウト云フノダ。ソレヨリモ、先日ノ馳走ニハ随分ト金ヲカケテ居ルシ、是レヲ最後ノ Ibedūil ヲ永年世話シタ心ヲ汲ンデ千円出シテクレト、下手ニ出ラレルナラバ、Idid ノ者ハ家ノ名誉ニカケテモ千円ノ金ヲ集メルデアロウ。若シドウシテモ八百円ヨリ集ラナカッタトシテモ、ソシタラ Idid ノ者ハハヅカシクテモ、モウコレヨリハ集マラナイカラト詫ビテ、其レヲ取ッテ貰ハネバナラナイ筈ダ。ソレヲ身ノ程モシラズ、ツケ上ツテ パラオ 第一ノ金ヲ貰ッテ行ッテ、馳走ニ使ツタ借金ヲドコカラ集メヨウト云フノダ。千円貰ツテ、金ヲ出シテクレタ者ニハキチント返シ、尚充分ノ残リト、他ノ品々トガアル——ト云フノデアル。

此ノ見方ハ誰ニデモウナヅケルモノデアリ、此ノ位ノ事ハ考ヘテ居ルモノモ多イデアロウ。ソレニモ不拘、前記ノ様ナイキサツデ互ニガンバリ合ッテ居ルト云フコトハ、或ハ他ニ野心ヲ以テ糸ヲ引イテ居ル者ガアルノデハナイカラ思ハセ□ル。ソシテ若シ其ノ様ナモノガアルトスレバ、当然勢力争ヒノ具トシテデアロウシ、思ヒ当ル節モ無イデハナイガ、今暫ク成リ行キヲ見ルコトニシヨウ。

十七日 金 晴、

今日ハ南星が出ル。ソレデ例ノ Satowal, Namotzok ノ件ニ就イテ若旅氏等が出カケル筈ナノデ、朝若旅氏ノ家ニ行キ、不在ダツタノデ、役所ニ訪ネテ挨拶シテクル。

大工サンハ毎日大馬力デ油絵ヲ書イテ居ル。

午後三時頃、昨日着イタ荷物ヲ ポツポツ アケテ居たら、Kisaūr ガ遊ビニヤツテ来ル。

十八日 土 晴、午後三時過ぎ、ヒドイ驟雨アリ、

十九日 日曜日 晴、

朝、Ilamms ニ行ッテ遊ンデシマヒ、午後ハ Dūūdī ニ行ッテ遊ンデシマフ。(夜、本田君、杉浦君ヒドク酩酊)

二十日 月 未明ヒドイ雨アリ、晴レタリ曇ツタリ、雨が来タリ、朝、IbūkūlノUldūmaolノ所ニ行キ、午後ハKisaūrノ所デ古イ歌ニ訳ヲツケル。

二十一日 火 終日雨、Kisaūrノ所デOrkrīl(助役)老人ヲツカマヘテ、又古イ歌ヲ書ク。

二十二日 水 晴、午後四時頃ヨリ雨、朝、荷物ヲ出ス積リテ新波止場マデ行キシモ、マダ駄目デヂキニ帰ツテクル。午頃、Kisaūrガ呼ビニ来テクレタノデ行ッテ、夕方迄モ古イ歌ヲヤッタガ、マダマダイクラデモアルノデ、イツ出来上ルヤラワカラナイ。

二十三日(木) 晴 昼前ヨリ何度カ雨アリ、夜、野元氏来、南賢⁵²⁾ニ行ッテ船荷証券ヲトツテクル。夕方、Ilammsニ行ッテグツグツシテシマフ。朝ハKisaūrノ処デHesolsヲヤッタガ、何トシテモ解ラナイモノガ多クテウンザリスル。

二十四日(金) 晴、雨何度モ来ル、朝、郵便局ニ行ッテ来ル。九時、天城出□帆、十二時、山城出帆。
㊦中沢英子

二十五日(土) 晴、何度モ雨アリ、朝ノウチKisaūrトIbūkūlノ先キノ方、Keyūklノ家ニ遊ビニ行ク。

二十六日 日曜日 晴、一、二度小雨、

二十七日 月 晴、朝九時半頃、一寸雨、

(欄外に記す)
【橘丸船中】

「タツオ」ト「キサオル」トガPeliliyoūニ行ク。私ハNgeyaūrニ行ク。ソレデ朝□早ク「デンベイ」ノオートバイデ荷物ト一緒ニ新波止場ニ出ル。新造ノ橘丸ニ乗込ミ八時過ぎ出航。地方課ノ高橋氏ガPeliliyoū行キ、「レンゲ」ガNgeyaūrニ行クトカデ全船、十一時ニハ既ニPeliliyoūノ沖ニ着イタガ、誠ニ都合悪ク、此ノ橘丸ハ大キ過ギテHaloholノ波止場ニ入レナイノダソウデ、向フカラ村ノbilasガ迎ヘニ来ルノダト云フ。所ガ□其ノbilasト云フノガ一向ヤッテ来ズ、二時間モソコデ待タサレル。船デハ皆ガウンザリシテシマッテ、船室ニ、デッキノ椅子ニ皆寝テシマッテ居ル。下ノ島民達ノ処

デハ話が盛ニナツタガ、終ニ男ト女ガ別レテ互ニ口論ヲ始メテシマフ。私ト「レンゲ」トガ其ノ聞キ手ダ。^{〔欄外に記す〕}〔此ノ男女ノ云ヒ分ニ就イテハ、又別ニ細シク書クコトニシヨウ。〕ソレハ露骨デ入乱レテ、古イコトト、新ラシイコトトノ間ヲ往来シテカラミアヒ、冗談ト冗談ノ様ニハ話サレテモ、心ノ奥カラ出ル叫ビトデ六カシクナツタ。併シコノ話ノ導火線ハ一人ノ沖繩ノ女ガ、恐ラクハ本当ノ彼女ノ子デハナイラシイ六七オノ女ノ子ヲ、サッキカラ一時間以上モ泣キ続ケニ泣カセテ居タコトカラダツタ。ソレハ猥ラデ露骨デ感情的デアルクセニ、少シモ愛情的ナモノデハナクテ、云ハバ計算的ナモノデ、先日モ書イタヨウニ、自然生活、ソレモ豊カナ自然生活カラ^{〔ママ〕}深酷ナ経済生活ニ移ラウトスル過渡期ノ動揺デアルガ、聞イテ居ルト、脱線シタリ、目茶苦茶ニナツタリ、何か昔ノIallデモ見テ居ルヨウナ面白サガアツタ。ト全時ニ、冗談ヤ一時ノ上足取りトシテ聞き流スニハ、余リニ酷タラシイモノデアツタ。「レンゲ」ハ遠クカラ時々私ノ方ヲ見テ、悲シサウナ顔ヲシタ。話が爆発シテ、ト切レタ時、皆ハ□「レンゲ」ニ批判ヲ求メタ。□「レンゲ」ハ、私ハ女ノ方ニ加勢出来ルト思フガ、ソノカハリ沢山ノオ礼物ヲ貰ハナケレバナルマイト、オ茶ヲニゴシテ云ツタガ、直グニ私ノ処ニ来テ、ドウダ、オ前モ聞イタ通りダガ、実ニナントモ可^{〔親〕}哀サウナモノヂャナイカト、シミジミ云フノダツタ。

Ngēyaūr ニツイタノハ四時ダツタ。住友、松野君⁵³⁾ノ処ニ厄介ニナル。夜、モウスッカリヨクナツタ月夜ノ村ヲ一廻リ、皆デ散歩シテ来ル。

二十八日 火 晴、夜ニ入りテ一寸雨アリ、

午前モ午後モ中村⁵⁴⁾、新村⁵⁵⁾ノ辺ヲ歩キマハツテ見タガ、暑イバカリデ、一向人ケガナイ。

夜、活動ガアルト云フノデ出カケテミタガ、弁士モナニモナイ事トテ、只目デ見テ居ルダケデ、サッパリワカラナイノデ早く帰ッテ来ル

二十九日 水

〔1頁白紙〕

三月

一日 水 昨夜ハポツポツ雨アリ、朝迄降りシモ、後漸次晴ル、

朝、住友氏等ト一緒ニ分析室ニ行ク。松野氏ニ案内サレテ工場内ヲ一マハリ見テ来ル。昼前迄分析室デブラブラ過シ後、午後二時頃カラ南村ノ方ニ行ッテミル。今椰子林ガ手入サレテ居ルノデ、村ヲ越シテズット先キ迄歩イテ行ッテミル。サキノ方デ老人達バカリ六七人デ除草ヲシテ居タノデ、座リ込^ンデ椰子ノ水ヲ貰ッテ休ミ、後村ニ——ト云ッ

テモ家数ハ三四軒シカナイ——帰ッテ来テ一軒ノ家ニ女達が居タノデ行ッテミル。娘ヤ若イ女達ノコトトテ何モ面白イ話モナイ。反対ニ「コロール」ノ歌ヲ教ヘテクレト云ッテ、ノートカラ歌ナドウツシテ一懸命歌ッテ居ル。晩ニハ皆テ「マトマトン⁵⁶⁾」ヲ稽古シテ居ルカラ是非来テクレト云フノデ、夕食後又出カケル。遅クナッテ新村、中村カラ集ッテ来タ娘達十四五人デ「マトマトン」ガ始メラレル。住友氏モ後カラ来ル。例ノ通り全ジヨウナ四五種ノ踊ヲ繰返シ、繰返シ踊ッテ、イツヤメルトモキリガナイ。イイカゲンニ引上ゲテ来タガ、十一時ダッタ。

二日 木 快晴、

夜又南村ニ行ク。若イ者達ハマダ来テ居ナカッタノデ「バイ」ニ行クト、mahas 達ガ集マッテ来タ。子供達ガ食事ヲスマセ、mahas 達モ順ニ食事ヲ取ツタガ、相変ラズ彼等ノ食事ハ遅イ。Rūbak⁵⁷⁾ 達ハ「バイ」カラ少シハナレター軒ノ家ニ集ッテ、Kesekes⁵⁸⁾ ヲヤッテ居ル。mahas 達ノ人数ガ揃ハナイウチニ、娘達ノ方ガドヤドヤトヤッテ□来タノデ「バイ」ヲ出テ、娘達ノ matomatong ヲ見テ居タ。今日ハ一人ノ青年ガ来テ居テ、歌ヲウタヒ「ハモニカ」ヲ吹イテ、此ノ matomatong ヲ導イテ居タ。此ノ青年ガ先生ナノダソウデ、娘等ハ数モ多ク皆一生懸命ニヤッテ居タガ、ヂキニ「バイ」カラ使ヒガ来テ、娘達ノウチカラ、大キイモノダケ「バイ」ノ方ニ来テ踊リニ加ハレト云ッテ来ル。皆シカシ返事ヲスルダケデー向行カナイデ matomatong ヲ続ケテ居ル。スルト又「バイ」カラ使ヒデ、Rūbak 達ノ命令デアル。娘達全部「バイ」ニ来イトセキタテ来タノデ、皆 matomatong ヲヤメテ行ッテシマ□フ。私ガ「バイ」ニ行クト、女達ハ「バイ」ノ向側ニ端カラ端迄ギッシリト並□ンデコチヲ向イテ座ッテ居タ。ソシテ反対側ニハサッキ Kesekes ヲヤッテ居タ老人達が、村長ヲ中央ニズラリト並ンデ板壁ニ凭レテ座ッテ居タ。私ハ村長ト並ンデ中央ノ tūangngal ニ招カレタ。スルト私ノ右側ニ並ンデ居タ数人ノ老人ガニジリ出テ、皆ガー一齊ニ私ヲ叱ルノダッタ。ソレハ□朝私ガ南ノ端迄行ッタ時、此ノ Rūbak 達ガ椰子林ノ除草ヲシテ居タノデ、萆ヲ一箱ヤッテ行キ過ギタラ、老人達が「帰ル時ニ寄ッテ下サイヨ。椰子水ヲトッテ置キマスカラ」ト云ッタノヲ私ガ ウンウント行キ過ギテ、帰りヲ海岸ノ砂浜ヲ通ッテ彼等ノ所ニ寄ラナカッタカラダ。彼等ハオ前ガ来ルト思ッテ四時過ギ迄モ待ツタトカ。人ハソナ風ニスルモノデハナイトカ、私ヲツカマヘテ、シキリニ怒ツタフリヲシタ。ダケド私ダッテ、彼等ガソレヲオ世事ニスル位、私ガワザト行カナカッタコトニ充分ノ自信ガアルノダ。此ノ Kesekes ノ老人達ハ皆泡盛ノ匂ヲブンブンサセテ居タ。ソレダカラ彼等ノ言フ事ハ少シハ大ゲサデモアツタノダ。ト□全時ニ私ノ自信ノ方モ間違ッテ居ナカッタ。私ハマダ其上ニモ上手ニヤッテ置イタノダ。サッキ「バイ」ヲ出テ娘ノ matomatong ヲ見ニ出タガ、其ノ途中ニ Kesekes ノ家ガアルノデ真直グ行ケバ、ドウシテモ此ノ家ノ前ヲ通ルノダガ、私ハ一人ダケ大廻リヲシテ此ノ家ヲヨケテ行ッタノダッタ。

〔欄外に記す〕
〔土人ノ心理〕

私ニハ老人達ガ私ヲ特ニ歡迎シテクレルコトガワカッタ。ソシテ老人達ノ言葉ノ中ニハ mahas 達ヤ、ソレカラ娘等ノ私ニ対スル歡迎ニ、小サナヤキモチニ似タ響ガ聞カレルノデ、私ノ自信ハ間違ハナカッタトハッキリ知レタ。「ソシテ変ナコトガアルカッテ」。所ガ心□□境小説家ガ一生懸命ニ各人ノ各立場ニ於ケル各言動ヲ検索スル様ナ事實ガ、未開人ノ日常生活ノ中ニハ実ニ込入ッテ織リ込マレテ居ルノダ。ソレハ彼等全志ノ応待ト彼等ノ蔭口トヲ常ニ聞イテ居ルモノデナケレバ、決シテ理解サレナイト全時ニ、目ノ前ニト云フヨリ、自分ノ耳デ、彼等ノ互ノ応待ヲ見、彼等ノ一分後ノ蔭口トヲ聞イタナラバ、誰デモ其ノ不思議ナ心理ヲ驚カズニ居ラレナイダロウシ、ソノ驚キヲ繰返シテ後ニ、彼等ノ心□□裏ヲ極メテ自然ニ理解スルダロウ。未開人ノ□□間ニ永ク□□尊敬ヲ得ナケレバナラナイモノハ、決シテ自分ノ正体ヲサラケ出スヨウナコトヲシテハナラナイ、自分ノウチノ一部ヲ必ズ大切ニ隠シテ居ナケレバナラナイ。愛情ヲ云々スルモノハ、誠ヲ云々スルモノハ必ズコレニ反対スルダロウ。併シ、私ガ常ニ云フ様ニ未開人ニアッテハ、彼等ノ心底ノ奥ノ奥ニコビリツイテ、彼等ヲ引ズリ□□廻シテ居ルモノハ、“madakt”ナノダ。ヨイ意味ト悪い意味トヲ問ハズ、“madakt”ノナイ処デハ、彼等ハ単ナル野蛮人デヨリ外ナイノダ。惱味^{〔厭〕}噌ガ足りナイト云フ事實ハ、他ノドンナコトトモ置キカヘラレルモノデハナイ。

一人ノヨボヨボノ老人ガ私ノ隣リニ居ル老人ヲオシノケテ、私ノ隣リニ割りコンデ来タガ、彼ハ私ニ「関サン」ハマダ生キテ居ルカト聞クノデ、Ngarakabesang ニ住ンデ居ラレルガ、酒ノ中毒ノヨウニナッテ了ッテ毫ロクサレテ居ルト聞イテ居ル（関サンハ舟大工デ Belaū ニハ最モ古イ人ノ一人デ、モウ八十歳ニモナッテ居リ、来島以来四十年ニモナル人ダ）ト答ヘタラ、此ノ老人ハ昔若カッタ頃、関サンニ使ハレテ居タモノデ、仕事ハドウデコウデ、今ハコンナ二年ヲトッテ了ッテ体モ弱イガ、昔ハドウデコウデ、トシキリト話シカケ、ソシテ自分ハソシテ遠イ遠イ前カラ終始一貫日本人ビイキデアル由ヲクドクト繰返シテ、納得サセヨウトシタ。併シ斯ウ云フ点ニナルト、Balaū 人ハ情的デ恩愛ト云フ様ナモノヲ相当理解スル。コレガ Satowal アタリダト、人間ガ非常ニ意志^最ノデ、現在ニノミ拘ヅラッテ居テ、殆ド真ノ愛情ト云フモノヲ理解スルコトガナイ。□□尤モ形式的ニハナカナカ義理ガタイ様ナ習慣ヲ持ッテハ居ルガ、彼等ニアッテハ外見ト裏面トノ間ニ、アマリニ割然ト線ガ入ッテ居ルノデアル。併シ Satowal 人ニ就イテハ、又書クコトニスル。

ソレカラ女達ハ座ッタママデ暫ク Belū l Hap ヲ踊ッタ。Rūbak 達ガ盛ニ批評ヲノベタ。ソレカラ踊リガ終ルト、Uhel Belaū ガ今度ノ椰子林ノ手入ト、其レガ済ンデカラノ Peliliyōu ヘノ Kūlkdaol ノコトニ就イテ、而シテ神様ノコトニ就イテ一場ノ話ヲシタ。併シ私ニハ、何故ニ此ノ椰子林ノ手入及ビ Kūlkdaol ノコトニ就イテ、此ノ様ニ神々（十柱ノ神々ノ名ガ挙ゲラレタ）ト関係ガアルノカニ就イテハ、残念^乍ヲ解ラナカッタ。

(此ノ踊ハ□□——女ノ ngloik ト娘達ノ matomatong トハ Peliliyōu ヘノ Kūlkdaol ニ持ッテ行カレル為ニ、練習サレテ居ルノdeal) Uhel Belaū ハ実ニ ポツポツ ト語ッタガ、ソレガ又ヨリニヨッテ六カシイ言葉デ語ラレタ。特ニ時々発セラレタ言葉、自分ノ傍ニ居ル人、tūangnal ニ座ッテ居ル丹那ト云フ言葉ガ私ヲ指シテ居ルコトハ確カダカラ、故意ニソウシタ古イ六カシイ言葉ヲ使ッタノデハナイカト思フ。一ツニハ現在 Ongesī 一派ノ者ガ Karūbūs ニ入ッテ居ル今dealカラ、神々ノ事ニ就イテハ考慮シテ話サレタカト思フ。皆ノ者ハ実ニ心妙ニキイテ居タ。用心ニ用心ヲシタ所ダロウ。先日 Ngelūūl ノ所ニ居タ時ニ知ラナイ女ガ来テ、Ngelūūl ニ「Laū be」ガワカルノカト聞イタラ、Ngelūūl ガ「アア」ト答ヘタ事ガアッタ。私ハ少シモ気ニシナカッタガ、Ngelūūl ハ其ノ女ガ去ルト、笑ヒナガラ私ニ、今ノ女ガ何ヲ云ッタカ解ッタカト聞イタ。私ハ気ニモシテ居ナカッタシ、解ラナカッタヨト答ヘタラ、「アナタガ「パラオ」語ガワカル人カト云ッタノデスヨ。□□Laūbe ト云ッタデショウ。Belaū ノ反対ナノデス」ト説明シテクレタ。ダカラ「パラオ」語ガイクラ出来テモ、信用ガナケレバ彼等ノ本当ノ話ハナカナカ、オイソレトハ聞カレナイノダ。過般、住友氏、松野氏ガ本^當□島ヲ巡ラレタ時、Asahayamml ノ確カニアル処ヲ教ヘテ置イタノニ、ワカラナカッタト云ッテ帰ッテ来タ。其後私ガ Ibūkūl ノ Uldūlaol ノ処ニ行ッタ時、丁度 Ngardūmao ノ村長ガ来合ハセテ居タノデ、私ハ Ngardūmao ニモ Asahayamml ガアルカト尋ネタラ、アルト答ヘタノデ、更ニ田圃ノ中ニアルノカト尋ネルト、ソノ通りデ田圃ノ底ハ一面ニソレdealト云フノdeal。併シ此ノ Ngardūmao ノ新ラシイ村長ハ私ヲ知ッテ居ル訳デハナイ。只 Uldūlaol ガ私ノ事ヲヨク紹介シテクレタ為ニ打明ケテクレタノデアッタ。ソシテ私ニハ、「今云フ通り、Asahayamml ハ沢山アルノダガ、私達ハソレヲ隠シテ居ルノダ。今ハ私達ニ於テモ別ニ用キル訳デモナイノダガ、既ニ本□島、殊ニ Ngardūmao ニ於テハ上増^(解)ノ緒土ノ部ハ全部掘リカヘサレテ居ル(アルミニウム鉱)。此ノ上、若シモ Asahayamml ガ日本人ニ必要ナ土ダトデモ云フ事ニナッタラ、私達ハ田圃迄全部掘カヘサレテ、一体何処カラ食物ヲ得ルコトガ出来ルダロウ。村ハツブレテ了フヨリ外ナイ。ソレダカラ私達ハ彼等ガ彼等達デ見付ケテ了フナラバ、何トモ致シ方ガナイガ、私達トシテハ何処迄モ隠シテ居ルノダ。ソシテ私達モ決シテソレヲトツタリ使ツタリシナイ事ニシテ居ルノダカラ、丹那^(註)モドウカ此ノ事ダケハ誰ニモ云ハナイト云ッテクレ」ト私ニ頼ムノダッタ。所デ昨日住友、松野氏ト共ニ分析室ニ行ッテ見ルト、松野氏ガ作ッテ居ル標本ノ中ニ一罎ノ Asahayamml ガアッタ。ソレデ是レニ就イテタダシタ処、コレハ松野氏ガ Ngarholong ニ於テ、Asahayamml トシテ——教ヘラレテ持ッテ帰ッタモノdeal、ト云フ。而シテ其後更ニ Ngardūmao ノ村長ニ託シテ Asahayamml ヲ見本トシテ探シテ送ッテクレル様ニト頼ンデヤッタ処、折返シ、Ngardūmao ニハ Asahayamml ガナイノデ、Ngarholong カラ取ラセテ送ッタト云ッテ、是レト全ジモノヤーバスケ送ッテ来タトノ事deal。恐ラクハ是レモ彼等ガ Asahayamml ト云ッテ居ルモノノーツdealカ

モ知レナイガ、是レハ黄褐色デキメモアラク、彼等ガ塗料ニ^俵□□用キル Asahayamml デハナイ。シカモ私ニハ上記ノ如ク答ヘテ置キ乍ラ、松野氏ニ対シテハ、Ngardūmao ニハ無イト云ツテ来テ居ルノデア。松野氏モ随分古イ人ダ。私ガ前ニ来タ時ニハ既ニ来テ居テ、私達ハ互ニ知り合ッテ居タノダシ、又罵民部落ヲマハッテ居ル点デモ、私達ノヨウニ徹底的デハナイニシロ、随分隅ナク歩イテ居リ、島民達ノ間ニモ顔ノヒロイ人ダ。只、松野氏ガ現在南拓ニ居ルコトト、ソレカラ若イ者達ノ間ニ親シクシテ居テ、オイボレノ老人達ノ中ニ喰ヒ込シテ居ナイコトトガ、斯ウ云フ結果ヲ生ジ□サセテクルノダ。併シコレニ就イテモ、私ハ今暫ク島民ノ方ニ肩ヲモツテ秘密ヲ守ルコトニシヨウ。

ソレカラ Uhel Belaū ガ自分ノ隣リニ居ル半年寄ヲ指シテ、コイツガ Harm ra Ngloik ヲ出サウトシキリニ云フガ、□^(旦)丹那ガオ望ミナラヤラセマセウト云フ。此ノ男ハ私ガ前ニ来タ時ニ顔ヲ見知ッテ居タ男デ、確カ Ngirhūngir トカ云フ名ダッタト思フガ、少シ処デナク大分馬鹿ナ男デ、彼等全志ノ間デモ一人前以下ニ扱ハレテ居ル男ダガ、道化タ事ハ大好キデ、真面目クサツテ馬鹿ナコトヲヤリ、ソシテソレガ又堂ニ入ッタモノデ、ナカナカウマイノダ。許シガ出ルト、其男ハイキナリ立上ッテ シャツ ヲ□□脱イダ。一人ノ娘ガ matomatong ノ「ハモニカ」ヲ吹き出ス□ト、男ハソレニ合ハセテ踊ッタ。永イコト永イコト踊ッタ。^(舞)漂^(舞)軽^(舞)ナ踊ヲ一座ノ者ガゲラゲラ無□遠慮ニ笑フト、男ハ益々真面目クサツテ一生懸命ニ踊ッタ。老人達ガ「ハンジョー」ヲ入レタ。meringngelayolt ! Kloū a □□□□ daob ! (ソレヒドイ風ダ、エライ浪ダゾ) (此ノ踊ノ前ニ女達ハ座ッタママデ、Beūil l Hap ヲ一通リ踊ッタ) 娘等ハ皆踊ガ済ムトヌケ出シテ行ッテ、又向フデ matomatong ヲヤッテ居タ。↙

三日 金 晴,

朝、食堂カラ帰ッテ来ル道デ、三人連レノ小サイ子供達カラ、小学校ノ学芸会ヲ是非見ニ来テクレト招待サレタノデ、何か子供達ノ絵ヤ手工品ナドデモ飾ッテアルカト思ッテ一寸ノゾイテ見ル気ニナッタ。十時カラト云フ事ダツタガ、父兄ノ人達ガ沢山見エテハ面倒ト思ッテ、九時頃ニブラリト□行ッテミタ。所ガ此ノ学芸会ト云フノハ非公式ノモノデ、別段ノ案内ガ出テ居ルモノデナク、丁度三月三日ノ小供達自^分□身ノ為ノオ節句ノ遊ビデ、オ雛様ガ飾ラレ、此ノオ雛様ニ云ハバ捧ゲラレタ会ダツタノデア。ソレデ私ガ只一人ノ、云ハバオ正客ニナッテ了フコトニナッタ。^(行舞)宇宿校長ト話シ、後学芸会ヲ見セテ貰ッテ、昼前ニ帰ッテクル。

夕方、食堂ニ行カウトシテ居ル処□へ住友氏ガ帰ッテ来テ、今日ハ所長カラ夕食ノオ招キダト云フ。何デモ□宇宿氏ガ直チニ私ノ事ヲ所長ニ告ゲタノデ、早速此ノオ招キニナッタト云フノデア。ドウモ仕方ガナイカラ、又シャツ一枚デ出カケル事ニスル。住友、松野ト三人ダト思ッテ、皆デイツモノイデタチノママブラリト出タノダツタガ、直グニ宇宿氏モ見エ、一寸話シテ居ルウチニ、後藤何トカ主任、小川何トカ主任、ソレカ

ラマダ某部長ト云フ御老人迄集マラレタノデ、ヒッコミモノサバリモツカナクナッテシマフ。ドウモ島民ノ方ニ出カケル方ガ気楽デイイ。併シ結局鶏鍋デビールヲ腹イッパイ御馳走ニナッテ、十一時半頃帰ッテ来ル。

〔欄外に記す〕

〔土人ノ文明〕

ㄴ私ガ「バイ」ヲ出ルト、一人ノアマリ年寄りデナイ者ガ私ニ話ガアルト云ッテツイテ来タ。其男ハインギンニ挨拶シテ、今ノ踊ハ「パラオ」ノ踊リデハナイコト、「パラオ」ノ踊ハ dreeder ノ婆サンガ今日来テ居ナイノデ出スコトガ出来ナイコト、ソシテ明後日ノ晩ハ皆集ッテ総練習ヲスルカラ、明後日ノ晩ニ是非見ニ来テクレト云フ。勿論私ハ是レガ彼ノ私ヘノ話デナイトハ思ッタガ、私ガウンウント返事ヲシテ歩キ出シタノデ、男ハ「デハ丹那ハ又娘達ノ踊ヲ見ニ行ッテクダサイト云ッテ、私カラ離レタ。私ハモウ帰ラウト思ヒ乍ラ娘達ノ踊ノ傍ニ居タガ、其ノウチニ又、サキノ男ガ今度ハ二十四五才ノ青年ヲツレテ私ノ処ニヤッテ来テ、又話ガアルト云ッテ私ヲ一本ノ椰子ノ木ノ下ニ連レテ行ッタ。恐ラク此ノ青年ハ通^役訳トシテ連レテ来ラレタと思ハレルガ、年トツタ方ノ男ハ私ニパラオ語デ話シタシ、私モパラオ語デ答ヘタノデ、此ノ若イ男ハ一言モ日本語ヲハナサズ、パラオ語デモ話サナカッタ。年トツタ方ノ男ハ又前ト全ジヨウニ、サキノ女達ノ踊モ、此ノ娘達ノ踊モ、パラオノ踊デハナイト云ヒ出シタ。私ハヨク解ッテルヨト云ッタガ、男ハ又前ト全ジコトヲ繰返シテ云フノデ、私モウンウント聞き流シテ居タ。スルト男ガ今度ハ突然、「私達ノ此ノ頃ノ仕事ハナカナカキツイデス」ト云ヒ出シタ。是レモ私ガ既ニ□老人達ニ何□度モ話シタ言葉デ、私ハソレトナク若イ者達ガ—ソレモ時代デ致シ方ナイトシテモ、無鉄砲ニ、ソレモ進ンデ飛ビコンデ行ク所ノ文明ナルモノハ、決シテソンナナマヤサシイモノデハナクテ、殊ニ衣食ニ恵マレタ者達ガ彼等ノ衣食ヲ犠牲ニシテマデ飛ビンデ行クダケノモノデハ寧ロナク、殊ニ老人等ニ於テナラ、昔ノヨウニ長老制度ノ中ニノンビリト気ママニ余生ヲ送り得ル方ガドレホドヨク、自然デモアルカ……ト云フ事ニ、ココ迄引摺ラレテ来テ了ッテ、今、老人達ハソレヲ馬鹿ラシク思ヒ当ッテ居ルノダ。(勿論「コレオル」ヤ、此ノ「アンガウル」等ニ於テハ、ソレガ既ニ若イ者達ノ面前ニ迄差シセマッテ問題トナロウトシテ居ルノダガ)ソレカラ男ハ続ケテ、此ノ問題ニ触レテ行ッタ。此处「アンガウル」ニ於テハ、既ニ独領時カラノ永イ永イ経過デ、此ノ先キノ不安ハ目ニ見エテ居タガ、イヨイヨソンナ時ガ来レバ、Peliliyōuニ移住スルコトニヨッテ、簡単ニ片ガツクトノミ考ヘテ居タ。然ルニ現在「ペリリヨウ」ハ既ニアノ通りニ急激ニ転下シ、仕事ノ終リニハ、此ノNgeyaūrヨリモ更ニミヂメナモノニナルダロウ。ソシテマダマダ日本人達ハ何処迄発展シテ行クノカ知レタモノデハナイ。本島ノ方ダッテ既ニ手ガツイテ居ル以上、少シバカリ大キイト云ッタ処デ少シモ樂觀出来ナイ。結局私達島民ハ何処ニ何ヲシテ住ンデ生キテ行クコトニナルノダロウカ、ト云フノデアル。私ハ神様ノ御意志ヲドウシテ我々が知ルコトガ出来ルダロウト答ヘルヨリ外、慰サメル術トテハナイ。併シ男ノ私ヘノ話ガコレデ終デアッタトハ

私ニハ思ヘナイ。マダ少シ先キガアル筈デアル。併シ男ハ其ノ先キヲ云ハウトシナカッタ。而シテ^(E)丹那ハマダ踊ヲ見ルカトキクノデ、私ハ遅イカラ帰ルコトニスルト答ヘタラ、ソレデハオネムイダロウカラ、今日ハオ帰リ下サイ。ソシテ又明晩来テ下サイト云ツタ。青年ハサッキカラ黙ッテ一言モ発セズ、只私達ノ話ヲウナヅキウナヅキ聞イテ居タガ、此ノ一番終ヒニ丁寧ニ礼ヲシテ「バラオ」ノ言葉デ、「丹那サン、本当ニ有ガタウ御座イマシタ」ト挨拶シタ。私ハ男達ト別レ、マダ踊ッテ居ル娘達ノ中ノ親シクナッタ二三ノモノニ身□振りデ挨拶シテ、□真直グニ高イ月ノ、干汐ノ砂浜ニオリタ。永イコト、ヨクモヨクモ降ツタアトノ、雲一ツナイ月夜ノ白イ小サイ浜ニ、椰子ガサラサラト鳴リツツケ、スッカリ干タ海ノ「リーフ」ニ打ツ波ハ、望遠鏡デノゾイタ様ニ小サク、柔ラカナ音ヲクリカヘシ、遠ク水平線ガ真黒ニ見エルダケダツタ。

四日 土 晴，雲多シ，

朝，中村，新村へ行ッテミタガ，相変ラズ人が居ナイ。

夕食前，松野，住友氏ト皆デ，昔ノ貝斧ヲサガシニ行ク。

夜，南ニ踊ヲ見ニ行ク。所長夫妻及ビ昨日ノ連中ナドガ見ニ来タシ，住友氏モ遅クナッテ友達ヲツレテ来ル。島民達，酒ヲ飲ンデ大喧嘩。十二時過ギテ帰ッテ来ル。

五日 日曜日 晴，

朝一寸南へ。夕方，橘丸来ル。

夕食後，所長ノ処ト校長ノ所ニ一寸挨拶ニ行ッテ来ル。

六日 月 晴，

朝八時過ギ橘丸ニ乗り込ミ，十時半過ギタ頃カ，ペリリヨウニツク。連絡船ニ乗ッテ，一時間四十分，十二時半過ギテ Halohol ニ着ク。暫ク巡警ノ処デ休ミ，迎ヘニ出テ居タ Kisaül 達ト南□□興⁵⁹⁾ノ大キナトラックニ□便乗シテ，四時頃 Ngasiyas⁶⁰⁾ニ入り，Tsūneo, Helings ノ家ニ入ル。

夜，Kisaül, Helings ト一緒ニ Ngardoloh⁶¹⁾ノ bai ニ matomatong ヲ見ニ行ク。

Ngasiyas ニ帰りシハ，十二時前ナリシナラン。

七日 火 晴，

夜，最終バスデ Kisaül ト共ニ^{N g}□□ Halohol ニ出ル。皆ノ者ト一緒ニ Ngarohol⁶²⁾ニ遊ビニ行ク筈ナリシモ，余リ遅クナル故，月ノイイノニ元氣ヲ出シテ Ngasiyas 迄歩イテ帰ッテクル。

八日 水 晴,

午後四時頃, Helings 達帰りシモ, Helings 朝ヨリ^{〔腹痛〕}頭痛ニテ堪エガタク, 直キニ床ニ就キシモ, 夜ニ入りテ^{〔腹痛〕}服痛烈シキ為, 医者ヲ呼ビニヤリシモ——医者ハ公学校ヲ^{〔ママ〕}活動写真ヲ見ニ来テ居リ, 帰りニハ家ノ前ヲ自動車ニテ通りシナリ——来テクレズ, 一方 Tūneo ヲ探シテ知ラシムベク, 使ヲ出スウチニ, 巡警夫妻ハジメ, 女ドモ, 家ノ男ドモ大勢ヨル。自分ハ別ノ近クノ後家ノ家ニ行ッテ一夜厄介ニナル。

九日 (木) 晴,

MeHelings ハ昨夜中, 間ヲ^{〔腹痛〕}置イテハ服痛アツテ, 今朝モアリ, アマリ烈シキコトモナケレバ, 自分等ト一緒ニ Horeol ニツレテ行クコトニシ, ^常□ Tūneo ニ小サナ Bilas ヲ探サセ, 十時近ク Ngasiyas ノ波止場ヨリ出ル。Halohol ノ先マデ出ルト, 丁度連絡船ガ来タノデ, 船ヲツケテ乗りウツルト, 間モナク橋丸ノ所ニ行キ, 一全又乗りカヘ, 午後二時半頃カ, Horeol ノ新波止場ニ着ク。

ベリリヨウハ昔ノ面影ナク, ヒドイ村ニナリタリ。Ngarkeyūkk⁶³⁾, a Pkūl a belū⁶⁴⁾ ハソレゾレ Ngarohol 及ビ Ngardūloloh ニ移サレ, 其ノアト二十五万坪ノ飛行場ガ作ラレタルナリ。而シテ Halohol ニ隣鉱工業場及ビ其ノ舍宅ガ出来, Ngasiyas ニモ沢山ノ舍宅ト店ガ出来, アチコチ掘りオコサレ, 「ガソリン・カー」ガ, ガタガタノベツニ掘リシ土ヲ運び居ルナリ。人々ハ忙ガシク, 食物ハあまり豊カナラズ。島民等ハ金ニキタナクナリ果テテ了ヒタルニ, 蚊ノミハ昔ニ変ラズ, 否昔ヨリモ多ク, 朝夕ハ村中ニテモ殆ドタヘガタク, Ngarohol ヨリ Ngasiyas ヘノ新[□]道, Ngasiyas ヨリ Ngardūloloh ニ出ル道ナドニ至リテハ, 蚊群ニ悩マサルコト甚ダシ。

十日 金 曇, 夜ニ入りテ盛ナ雨アリ,

午前二時ヨリ防空演習。

杉浦君, 十時ノ船デ Ngkeklaol ニ向フ。

夜, Kisaol ノ処デ Tsūneo ト Mehelings トノ為, 歓迎会ト送別会トヲカネテ御馳走。

十一日 土 終日実ニヨク雨降ル,

朝, 役所ノ地方課カラ電話デ呼ビ出サレタノデ行ッテミタラ, 辞令^{〔欄外に記す〕} [三月九日ツケ] ガ出テ居ルト云フノデ受取り, 内務部長, 警務課長, 光安氏, 調査課等ニ挨拶ダケシテ帰ル。支庁ニヨリ, 草野部長ニ面会, 玉枝⁶⁵⁾ ノ渡航許可願書ノコトヲ[□]尋ネテ来ル。

十二日 日曜日 雨, 午後晴, 雲マダ多シ,

雨ニ降り込メラレテ居タラ, Kisaūl ガ来タノデ, ツカマヘテ相変ラズ古イ歌ナドヤッテ居タラ, 午頃, 野元氏見エ, ユックリクツロガレテ, 午後三時半過ぎ迄居ラレル。

Kisaül ト Melings ノ処ニ一寸行ク。夕食後、買物ニ出シモ、大キナ店ハ皆休ミダツタノデ、下ノ方ヲマハリシテ帰ッテ来ル。

十三日 月 晴, 夜ニ入りテ雨,
今日カラ役所。

十四日 火 晴, 午後雨ニナリ, 夜中迄盛ニ降ル,

十五日 水 晴,

夕方, プラット外ニ出タラ, 松野君ト住友君ガ先キノ方ヲ歩イテ居ル。呼ビトメタラ, 私ヲ訪ネテクレタ由。家ガワカラナカッタトノ事デ, 早速引カヘシテ来テ貰フ。暫ク家デ遊ンデ日ガ暮レテ, 皆デ寿司ヲツマミニ出, 町ヲ少シ歩イテ別レル。

十六日 木 晴,

十七日 金 晴,

住友君, 本島ヘ行ク。

十八日 土 晴,

今日ハ昼迄デ帰ッテクル。午後六時カラ地方課ノ人々ニ招カレテ, 金寿司^地デ御馳走ニナル。私ノ外ニ, 文化協会⁶⁶⁾ガパラオニ移ッタノデ来タ野口氏⁶⁷⁾, □ト, 今度休暇カラ帰ッタ飯田氏トガオ客サン。

十九日 日曜日 晴, 午後ヨリ夜ニカケテ何度モ雨アリ,

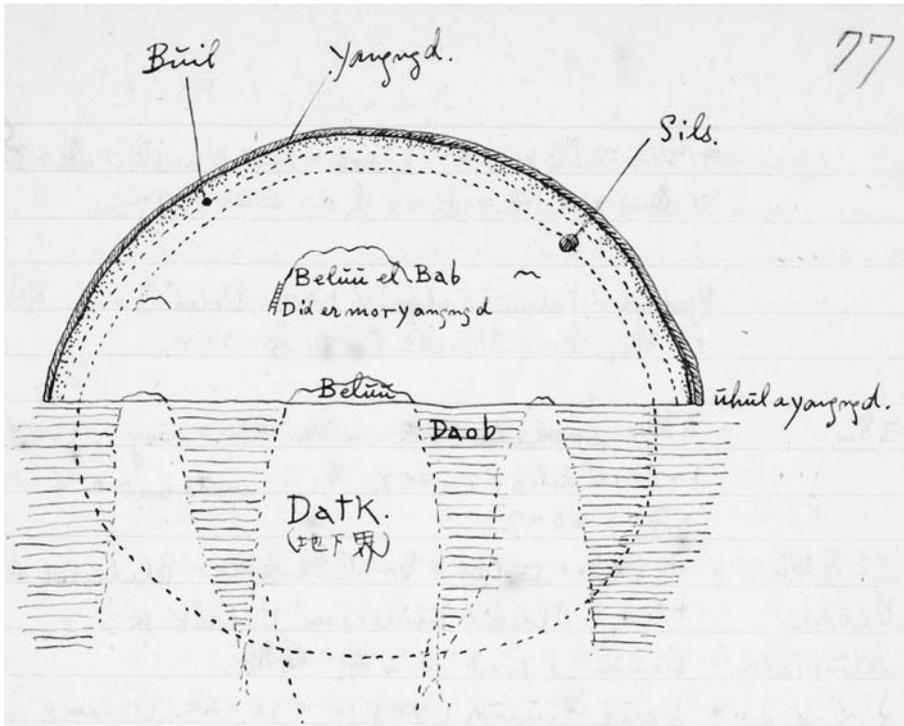
朝カラ Kisaül, Fūmiko, Tsūneo, Albelao 達ト Ngarkabesang ニ行ク。Tsūneo, Albelao ト別レテ飛行場ノ前ノ海ヲ渡ッテ岬ヲマハリ, 遠ク遠ク Ngerūll ノ先ノ先ノ方マデ遠足。途中岩ニ飛下リテ, 左足関節ヲ捻挫セシモ, アマリ痛マザリシカバ, 猶行キシ□ニ, 一休セシ後, 痛ミ甚ダシク, アマツサヘ雨ニ降ラレテビチョヌレニナリ, 道モナキ山路ヲ難渋シテ帰りシモ, 終ニ堪エ得ズ, 裸ニナリテ海ニ入りテ帰ル。飛行場ニカヘリシハ, 已ニ六時ヲ過ギ自動車モナク, 足ハ^(腫)張レ上リテ一歩モ歩キ得ズ, 飛行場ニ手紙ヲ持タセテ自動車ヲ呼ビ, 七時半前□病院ニ行キ, 八時過ギ, 又自動車ニテヤット家ニカヘル。水ヲ買ハセ, 夜中冷ヤス。困難ヲヲシテ無理ニ歩行セシ為, 足ハ非常ナ熱ヲモチテ^(腫)張上リ, 痛ミニ堪ヘズ, 体ハ腕マデモ杖ニスガリテカーパイ歩キシ為, 節々筋肉イタミテ堪エズ。水ニ幾ラカ痛ミノ薄ラギシト, 頓服ヲ用キシト, 疲ノ出デシトニテ, 十二時過ギヨリ眠ル。夜, 野元氏ヨリ氷枕ヲ借りニヤラセシ為, 野元氏心配シテ来テクダサル。

二十日 月 晴,

役所休み。Kisaül 夜ヨリ来テ何クレト世話シテクレル。夜ノ十一時迄モ。朝迄氷デヒヤシ、昼ト夕方ト二度 Ngel ノ葉ト熱湯ヲ以テ揉ンデ貰フ。

晩、武田骨接医来ル。夕方松野氏、住友氏見舞ニ来テクレル。

終日グズグズシテ居ルノデ、ヒマヒマニポツポツ気ノツイタ事ナド聞イテミルガ、今日ハ又パラオノ昔ノ宇宙観⁽⁸⁾ ノヨウナモノヲ図示シ□テ見ヨウ。



〔欄外に記す〕

〔天〕

Yangngd 天ハ、Orokang (鍋) ヲ伏セタヨウニナツテ居ル。其ノ下ニ Ptü (星) ガアリ、其ノ下ニ Büil (月) ガアリ、其ノ下ニ Sils (日) ガアル。其ノ下ニ Yabd (雲) ガアル。

〔欄外に記す〕

〔上界 地□界〕

Belüü el Bad …… Horeol ノ上ニハ Horeol ト全ジ村ガアリ、Beliliyō ノ上ニハ Beliliyō ト全ジ村ガアル……

Delebnged ハ其処ニ行クノデアルガ、其処ニ Did ガアル。現世デ ilbongngl (耳穴) ノ開イテ居ナイモノハ、其処デ穴ヲアケラレテ Blsoyoh 蛇ヲ入レラレルト云フ。

Sils ハタ方落チル時ハ海ニ飛ビ込ムノデ、其ノ時ハ a Dengnges ノ実ヲ投ゲテミル。是レハ^a□□^D□□^o□□ⁿ□□^gHedeng (鮫) ガ居ルカドウカラ見ル為デ、ニツ三ツ落トシテカラ Daob ニ飛ビ入ミ、海ヲ通り Datk ヲ通ツテ、又海ヲ通ツテ東カラ上ルノデアアル。

Ngedeloh ハ Belūū al ardeleb ト云ハレ、Deleb 達ガ来テ、月夜ノ晩ナド殊ニ集ツテ踊リ遊ブ所ト考ヘラレル。

〔欄外に記す〕
〔魂〕

○矢張り arakadad ト共ニアル所ノ魂ハ reng デ、ソレガ形ヲトツタモノガ deleb デアルヨウダ。其ノ間ニ matahad ガ間ニ入ルト考ヘテヨカロウ。

〔欄外に記す〕
〔近親靈魂 Bladk〕

○サトワヌ島ノ sötüb ニ当ル近親靈魂ハ Bladk (ar bladk) ト云フ。(Bldekil Blidekem Blidekek)

○Belūū el had 人間界、世界、

○Deleb ハ ulūh (雑巾) ガキラヒト云ヒ、Deleb ガ来タ時ハ ulūh ヲ投ゲルト逃ゲテ行クト云フ。

〔欄外に記す〕
〔Oltūū Bladk〕

〔欄外に記す〕
〔此ノ oltūū Bladk シテ神語ヲ伝ヘルコトヲ、Umladk (lūmladk) ト云フ。或ハ其事ヲスル意デ、bol tūū Bladk トモ用キラレル。家々ニハ ūdoūd era Bladk ト称スル小サナ ūdoūd ガアル。〕

○oltūū Bladk (Bladk ヲ入レル人) ト云フ者ガ一人二人位居テ、ūdoūd, tolūk 等ヲ受ケテ神ガカリシタ。是レハ主ニ Helid era belūū 等ノ神ヲ呼ブ所ノ Kōrong (椰子ノ檳榔樹ヲ余計カム者) Kerdelel a Halid (Kōrodol dil 女神官) トハ異ルモノデアアル。

○Deleb ハ露ヲナメルトモ云ヒ、Bangikoi (蝶), Omais (コホロギ?) ハ Deleb デアルトモ云フ。

Omais ガ鳴クト、amahal ヲヤツテ、ドウカ気ヲヨクシテ行ツテ下サイト云ツテ敬遠スルノデアアル。

(Dlūt̄k) Drūmmk

〔欄外に記す〕
〔雷〕

○a Basebasah (アバレル元義) a kekeriel angalūk, waiya telohoi e di ngaū a bedengel eng mesebasah e rüebt ra hūttm eng mūūt el ngmasah ra yangngd, ngarengī a ardil me sahal e ngalūk.

○^H□□□□^u□□□□^l□□□□^l□□□□^小□□□□^雨□□□□□□□□□□^h□□□□□□□□□□^o□□□□□□□□□□^h□□□□□□□□□□^e□□□□□□□□□□^m□□□□□□□□□□^e□□□□□□□□□□^a□□□□□□□□□□^o□□□□□□□□□□^l□□□□□□□□□□ⁱ□□□□□□□□□□^k□□□□□□□□□□^H□□□□□□□□□□^a□□□□□□□□□□^l□□□□□□□□□□ⁱ□□□□□□□□□□^d

- 一男ガ舟ニ乗ッテ漁ニ出ルト、一人ノ小サイ赤子ガ海ニ浮イテ居タ。赤子ガ云フニハ、私ハ雷□ダガ、天カラ落チテ困ッテ居ル。ドウカ其ノ竹竿ニツカマラセテクレ。天ニ帰り度イカラ。併シ私ハ火ダカラ私ニ触ッテハイケナイ。ソコデ竿ヲ出シテヤルト、ソレヲ伝ハッテ天ニ登ッテシマツタ。其ノ雷ノ子供ハ女デアッタト云フ。
- Ngarmid ノ Ngesaor ノ岩山ノ紅樹林ノ中ニ、女ガ貝ヲ取りニ行ッたら、コレモ雷ノ子供ガ落チテ居テ云フニハ、私ヲソノ高イ木ノ元ニツレテ行ッテクダサイ、天ニカヘリ度イカラ。□併シ私ハ火ダカラ触ッテハイケナイト云フ。ソコデ棒ヲモッテ其^[ママ]の木ノ元ニヤッテヤルト、礼ヲノベテ、アナタハ貝ヲサガスノダツたら、イツモ此ノ木ノ下ニ来ナサイ。沢山ノ貝ガアルカラト云ッテ、天ニ昇ッテシマツタ。

^[欄外に記す]
[雨]

- Hüll・小雨…… homohemel a Olik

・雨ハ人間デアル。雨が来ルト、雨ヨ、オ前ハ人間ダカラ解ルダロウ。私達ハ今オ前ニ来テ貰ッテハ困ッテ居ルコトガ解ッたら、ドウカ向フノ大キナ川ニ行ッテ降ッテクレトタノム。

二十一日 火 春季皇靈祭 晴,

午頃、松野氏来、二時頃住友氏来、夜九時頃迄遊ンデ行ク。

二十二日 □水 未明雨アリ、晴,

昼頃、□鈴木ノ老人ガ杉浦君ヲ尋ネテ来タガ、杉浦君ガ居ナイノデ、上ッテ二時頃迄モ喋ッテ行ク。

夕方、杉野氏ガ一寸来ラレル。本田君ガ杉浦君ヲ尋ネテクル。晩、野元氏ガ来テ下サル。

足ハ昨日モ今日モ骨^[ママ]接医ガ来テ揉ンデクレタガ、勿論悪クナルコトモナク、少シツツヨイ方デハアルガ、マダマダ立ツコトモロクニ出来ズ、ビッコヲヒクコトモ出来ナイ。

二十三日 木 晴,

毎日実ニ暑い。終日家ニ居リ、ロクロク動キモシナイト、流レナイ汗ガヂワヂワト流ンデ心ガ重イ。

二十四日 金 晴,

朝六時、松野氏、住友氏来、荷物ヲトノヘテ岩山ニ行ク。

午後四時頃、福原代書来、話シテ居ルウチニ、骨^[ママ]接医^[書]来、福原代^[書]来^[ママ]婦ル。骨接医居ルウチニ松野、住友氏^[書]帰^[ママ]り来ル。Makalakalニ行ク心算ナリシ処、Bilas遅ケレバ、手前ノ岩山(両側ニ砂浜ノアル)ニ行キテ遊ビ来シ由。松野氏等帰ルト直グ野元氏来、八時

過ぎ帰ラレル。

二十五日 土 晴，雲多く，午後三時頃ヨリ夜ニカケテ，雨降ツタリ止シダリ，
午後，松野氏来，住友氏来，^{〔ママ〕}骨接医。

杉浦君，ガラルツ ヨリ帰ル。一昨日南星丸帰りシ由ナリシカバ，晩，杉浦君ニ若旅氏
ノ処ヲ訪ネ□テ貰ツタ処，一行全部ヤップニ逗留サレ，二十八日ニ帰ッテクル由。

二十六日 日曜日 晴，

朝，住友，□^野松野氏来，Ngarmid ニ行クトテ直グ出カケ，帰り夕方又一寸寄ッテユ
ク。

午過ぎ，小浜君，日出子ヲツレテ出テクル。

安達サン，選挙デ遅クナリ，十一時近クナッテ帰ッテクル。

二十七日 月 晴レタリ曇ツタリ，小雨幾度カ降ツタリ，

今日カラ役所ニ出デシモ，昼ニ帰シテ貰フ。

二十八日 火 晴，雲稍多シ，暑シ，

夜，野元氏来。

二十九日 水 晴，ヒドク暑シ，

夜，松野氏来，Kisaül ノ所ニ行ク。Arimasang ノ チヨ子，ナド，四五人モ交ル交ル
来ル。

三十日 木 晴，暑，

三十一日 金 晴，暑，

明日ノ船デ永田氏，□^松住友氏ガ行クノデ，役所ノカヘリ訪ネタガ，両方共留守。

夜，住友氏，松野氏ト共ニ一寸来ラレル。

四月

一日 土 晴，

今日ハ三時頃カラ，Bilas ヲ借りテ A Ulong ニ行ク筈ダッタノニ，松野氏ハ早々ト二
時頃ニハ荷物ヲモッテヤッテ来タシ，Kisaül ハ波止場ニ行ッテ Mehelings ヲ連レテ来
タ。Terēked ハドンドン其ノ間ニ荷物ヲ コロール波止場ニ運ンダガ，結局皆ガ波止場ニ
行ッタノハ，三時半ヲ過ギテ居タロウ。処ガ野元氏ガ新入生ノ世話デ忙ガシクテ，五時

十五分カ二十分モ過ギテヤット来タレタノデ、^{〔ラ〕}出発シタノハ、^{〔時〕}既ニ五十半ダッタロウ。
^{〔欄外に記す〕}
 [aūlong]

美シイタ日、月十三日頃、船上 diokang ノ夕食。歌、岩山ノ影、向フニツイタノハ九時頃ダッタロウカ、八年ブリデ来タ a Ulong ノ細カイ細カイ冷タイ白砂ノ浜、小サイケレド椰子ノ木モ高ク並ビ、浜ラシイ、島ラシイ、ソシテ静カナ月ノ海、ソレニ Hobak ノ家ガタッター軒アル。ソコニ荷物ヲ置イテ、皆々話スモノ、歌フモノ、遊ビニ出ルモノ、夕方カ朝ノヨウニ明ルイ夜ヲ、夜ガ更ケル迄……一行ハ松野氏ト野元氏ト大工サント私ト、ソレカラ Kisaūl ト Meheling ト Kirūū ト Terēked ト、ソレカラ Bilas ノ人ガ^{A b}□□^{a s ū 夫 婦 ト}□□□□□ Ngoliyakl 夫婦ト Abasū ト、モ一人ノ子供。

二日 日曜日 晴、夕方小雨、

朝暗イウチニ起キテ、起キヌケニ海ニ入ッテ水ヲ浴ビテ来ル。ソレカラ明ルクナルニ從ッテ□一人一人イツノ間ニカ皆起キテ、ソレゾレノ考ノヨウニ動キ出ス。朝ノ御飯ヲ思ヒ思ヒニ食ベルト、Bilas ヲ出シテ toi r ardil ヲ見ニ行ク。シカシ老人ガ一人モ居ナイカラ、何レガソレナノカー向ワカラナイデ、裏ノ小サナ砂浜ニ Bilas ヲツケル。ソコニ a Bakai ノ塚ガアッタノデ、皆ハ飛ビオリテ一^{〔齊〕}済ニ砂塚ヲ四方カラ掘リニカカッタガ、遂ニ一個ノ卵ヲモ得ズ、又 Bilas デ何処カノ鍾乳洞ヲ見ニ行クツモリデ、散々走ツタガ、遠イノデ止メテ引カヘシ、今度ハ例ノ Orahā ノ家ノ処ニ廻シテ少シ先キニ出ルト、ī ノ口ガ見エタノデ、Bilas ヲ浜□ニツケテ降り、上リ口ニ行ツタガ高ク□テケワシクテ、トテモ登ルコトガ出来ナイ。私□ハビッコガヤットナホッタバカリデ、トテモ上レナイノデ、結局松野君ト Mehelings ダケ上ッテ行ツタガ、私達ハ海辺ヲ歩イテ帰ッテクル。所ガ二人ハ何ウシテモ道ヲ見出し得ズ、アノ高イ岩山ノ頂上迄登ッテシマツテ、上カラ私達ヲ呼ブノデ、私達ハ下カラ言葉デ方向ヲ教ヘ教ヘシテ、永イ時間ノ後ニヤット、^{A r}□□ Arahal ノ□ī ニ迄来リ、更ニソコカラ鍾乳洞ニマハツテ、帰ッテクル。

浜ニ帰ルト、私ハ脚ガイタクテ□□腹ガ空イテ居タ。又、食事ヲシテ、私ハ一寝入り寝テシマフ。起コサレルト、モウ皆ハ帰り仕度ヲシテ居タガ、マダ寝テ居ルモノモアツタ。三時□過ギ頃、皆 Bilas ニ乗り込ンデ帰ッテクル。

三日 神武天皇祭 朝暫ク雨アリ、晴、暑、

一日暑クテブラブラシテシマフ。夜、松野氏来。

Kisaūl, Melings ノ処デ七時半頃迄モグツグツシテシマフ。其ノ間ニ竹中氏、家ニ見エ、暫ク話シテ居タガ、杉浦君ト一緒ニ出テ行カレル。

四日 火 晴、

朝、役所カラ十時、^{〔致行〕}検事局ニ江崎検事ヲ訪ネ、Kebasal Mogemog ニツイテ説明。午

後一時、再ビヨバレ、Saūfa, Ořaitilノ陳述ノ聞取。

夜、野元氏来、松野氏来、松野氏宿ル。

五日 水 晴、午前中雨カナリアリ、

岸川君、Peliliyoū ヨリ出テクル。

夜、野元氏来。

六日 木 晴、夜一寸雨、

昼、新聞社□ニ行ッテ杉浦ノ展覧会ノ広告ヲ出シテ来ル。午後、検事局ニ行ッテ神様事件調べ。

今日ノ新聞デ、サトワル事件⁶⁹⁾ニテ Saūfa, Motang 起訴サル。岸川君来、夜、野元氏来。

七日 金 晴、夜一寸雨、

午後八、今日モ検事局デ調べモノス。

夕方、野元氏来テ、手伝ッテクレル。夜、松野君来。

八日 土 晴、夜僅カニ雨、

今日、明日、杉浦君ノ展覧会ナノデ、十一時頃役所カラ一寸俱樂部⁷⁰⁾ニ行ッテ見タラ、大沢君ガ手伝ヒデ、アラマシ飾ラレテアッタ。午後モ行ッテ居タガ、相当人ガ沢山来テ居タ。四時迄ノ所、三時頃先キヘ帰ッテクル。

夜八時頃、松野氏来、九時半頃カラ松野氏ト Kisaūl ト Kirūū ト四人デ、コロール波止場ニ行クト、遅イ月ガ丁度上ツタ所ダッタ。別世館ノイケスヲ永イコトノゾイテ居タガ、釣ルノハ止メテ、ボート^(借)ヲ貸リテ出ル。一時間程モ漕イデマハリ、上ッテカラ更ニ波止場ノ一番先キノプールノ所ニ行ッテ遊び、遅ク十二時頃帰り、更ニ Kisaūl ノ所デ椰子蟹ヲ焼カセテ夜食ヲトリ、松野氏モ家デ宿ッテモラフ。

九日 日曜日 晴、

朝、松野君ハ九時ニ波止場ノプールデ泳グ。約東ガアルトカデ残り、Kisaūl, Kirūū ト一緒ニ俱樂部ニ行ク。女達ハスグニ病院ニ Mehelings ヲ見舞ニ行ク。私ハ十二時過ギマデ居テ来ル。俱樂部デ村上君ニ久々デ逢ッテ、永イコト話シテ来タ。

家ニ帰ッたら、皆帰ッテ来テ居タ。松野氏ガ豚ト魚ヲ買ハセテアッタノデ、Kisaūl 達ガ豚ヲ焼き、meyas ヲ焼き、大魚ノ切身ヲ煮、パンノ実ノ煮タノト、焼イテ akeai ノ中デ餅ニツイタノトデ、皆デ午餐会ガ開カレル。美シイ赤イ赤イ Hebedesahal^(ママ)ノ御食後。丁度此ノ時、Fūmiko ガ Ngardemao カラヒヨッコリ帰ッテ来テ一緒ニ食事ヲシタガ、午

後一休ノ後、Kirūu ト Fūmiko トハ野□毬ヲ見ニ行クトテ出テ行ク。私達ハゴロゴロト昼寝スル。夕方、松野氏ハ Kirūu ヤ Fūmiko ヲツレテ病院ニ行ク。自分ハ日が暮レタ頃、Kisaūl ト散歩シテクル。

十日 月 晴、午後二三時間、雨カナリ降ル、
夕方、松野氏一寸来ル。野元氏モ一寸見エル。

此ノ頃、杉浦君ノ展覧会前カラ実ニ誰彼トナク出入シゲクテ、落着ク時トテモナイ。
大沢君、本田君、岸川君、西本君、伊藤君、某々々々。

十一日 火 晴、雨何回トナクアリ、
南賀ニ行き、山城丸ノ船室ヲ申込ンデ来ル。

十二日 水 晴、夜小雨アリ、
□役所ノカヘリ、法院長ヲ訪ネ、暗クナツテ帰ツタラ、松野君ガ来テ居テ、Kisaūl ノ
処ニ居タノデ行ッテ、遅ク迄遊ンデ居ル。

十三日 木 晴、午後雨、時々降ル、

十四日 金 晴、
夜、野元氏来テクレ、九時過ギ迄雑談。

十五日 土 晴、
昼、松野君来、三時過ギ帰ル。

午後、荷造リ。
昨日、切符モカッタシ、モウ行クバカリダ。

十六日 日曜日 晴、夜驟雨アリ、

午後二時頃カラ、Umang ノ オートバイ デ荷物ヲ新波止場ニ運ビ、渡船ヲ借リテ山城丸ニ持ッテ行ク。松野君、野元氏ガ一緒ニ行ッテ手伝ッテクレル。ソレニ「タツオ」ト Kisaūl ト Kirūu ト、四時過ギニハ何モカモ済マセテ帰り、スッカリオチツク。夕方、野元氏ト一緒ニ野元氏ノ処ニ行き、奥サン達ニオ別レシテクル。晩御飯ハ安達サンガ a dabal ヲ料理シテクレル。

夜、松野君ガ来テクレタシ、モウ布団モナイノデ、Kisaūl ノ処デ遅クマデ ビール ヲ飲ンデ宿ッテシマフ。

十七日 月 晴，雲稍多く，夜驟雨アリ，

朝，役所ニ行ッテ挨拶ヲ高橋氏ニタノンデ，直グ波止場ニ出テ，本船ニ乗りコム。皆先キニ来テ居タ。例ニヨッテ後カラ後カラ見送人が集ッテ，船ハ人デイッパイニナッテシマフ。玉枝ノ為ニ甲板デ写真ガトラレタ。独逸ノ女宣教師ガ，数人ノ教徒ト共ニ玉枝ヲ前ニタセテ讚美歌ヲ歌ツタリ，花ヲモッタ玉枝ガ急ニ悲シクナッテ目ヲ泣キハラシテ居ル。銅鑼ガ鳴ッテ見送人達ガ帰ッテ行クト，玉枝ハ手スリニ凭レテ，ハンケチヲ振ッタガ，家〔ママ〕の者達ノ方ヲ決シテ見ヨウトハシナイデ，只々力ナクハンケチヲイツ迄モ，イツ迄モ振ッテ居タ。

九時過ギテ出港。海ハ静カデ，玉枝ト大沢君ノ娘トハ一時ソコラ中歩キマハッテ居タガ，後ニ三等室ニ見ニ行ッテヤツタラ，二人トモ酔ッテシマッテ，終日寝ツツケテ居タ。昼迄，パラオガカスカニ見エテ居タガ，アトハ只一面ノ海ニナッテシマフ。

十八日 火 晴，

天気ハヨク，遠イ雲ヨリ外何一ツナイ海ヲ，船ハ揺レモ傾キモセズ，真直グニ進ム。午ニハ食堂デ法院長ノ大蜥蜴ノ話ガハヅミ，食事が終ッテ甲板ニ出ルト，ヤップノ島ガ目ノ前ニアル。一時過ギ，船ガトマルトランチガドンドンヤッテ来テ，船ノ人々ヲ陸ニ運ブ。只十年前トチガフノハ，島民達ガ赤イ口ヲシテ，何かワカラヌコトヲ叫〔ママ〕びナガラ，沢山ノカヌーヲ船ニ寄セテ来ナクナッテシマッタ事ダ。ヤップノ町ハ一向膨脹シテ居ナイヨウダガ，島民達ハヤハリ忙ガシクナッタノダロウカ。ソレトモ興味ガナクナッテシマッタノダロウカ。

南貿ニ行ッテ，Satowalノ件ニ就キ相談シ，三時過ギ，役所ノ刑務デ江崎検事ト係長ニ□面会。三時半ノランチデ帰船，四時ノランチデ皆帰ッテ来タガ，役所ノ連中ガドヤドヤト来船。□^九□^隆九鬼氏ガ先ヅ私ヲ見ツケテ，公学校ノ校長ト共ニカケ上ッテ来テ挨拶サレル。其他，^{〔政雄〕}徳村氏，^{〔薫〕}藤井ソレカラ□^{〔節一〕}小川氏ナド古イトコロガ顔ヲ出サレル。五時出港。ヤップノ影ヲ夕闇ニ消シテ，月モナイ暗イ航海ヲツヅケル。

十九日 水 晴，午後驟雨一寸，

平穩ナ海ヲ，無事ナ航海ヲ終日続ケル，

二十日 (木) 晴，

平穩無事，只海。

二十一日 金 快晴，

未明，船ガ馬鹿ニ静カニナッタノデ，目ガサメタ。甲板ニ上ッテミルト，左側ニ近々トtziliyangノ島⁷¹⁾ガ静カニ横タハリ，町ノ火ガ薄明ノ中ニ華ヤカニ，併シ何か寂シイ

ヨウニ光ッテ、島ノ黒サ□ト対照シテ居ル。十年前ノ無人島ガ□斯克モ變ッテ居タノダツタ。十年前ニ伊藤君ト二人デ上ツタ時——昭和三年ノ末ニ、始メテ興発ガ此ノ島ニ手ヲツケ出シタノダツタ。ソシテ四年ノ三月ニ私達ハ来タノダツタガ、僅カナバラックノ外ニハ出来上ツタ家トテハ一軒モナカッタ。バラックノ一室デ大キイモノモ、小サイ者モ一緒ニ、一人ノ先生ニ何デモ教ヘラレテ居タ。山ヲ越エタ向フニ牧場ガ出来テ居ルト聞イテ、牛車ヲ貸シテ貰フ様ニ交渉シタガ、野牛ガ出ルカラ、アブナイトオドカサレテシマッタ。ソレカラ、北ノ方ニ密林ノ中ヲ一本、一間カー一間半程ノ道路ガドコ迄モ切り開カレテ居タノデ、其ノ道ヲドコ迄モ歩イタ。密林ガ両側ニ壁ノヨウニ立ッテ居ルノデ、少シモ風ガ通ラズ、ジワジワト暑苦シクテ汗ガ流レタ。沢山ノ人間ヲ知ラナイ鼠ドモガ、私達ヲ友達位ニ心得テ、イクツデモ足下ニヒョロヒョロト飛び出シテ来テ、ステッキデナグルトコロリト死ンダ。ソナナ Tziliyang ダツタ。

ソレガ今、一万五千人ノ人間ヲ生活サセテ居□リ、八百五十町歩ガ耕サレテ、何処カラ何処迄^{〔砂糖〕}糖砂畑ニナツテ居リ、無人島ニ計画的ニ敷カレタ道路ハ、何処迄モ何処迄モ同ジ幅ニ十字ニ十字ニ通ッテ、整然トシテ居ル。

小学校^{〔宗助〕}ニ菅原氏ヲタツネ、舎宅ニ上ッテ昼間カラビールヲ御馳走ニナツタガ、一時頃ニハ近クデヤハリ、ビールヲ呑ンデ居タ□村山氏一行カラ使ガ来テ招カ□レ、菅原氏ト二人デ又、□村山氏等ノ処ニ行ク。四時ノランチデ帰□船。

テニヤン夜景、新月

二十二日 土 晴、午後三時頃小驟雨、

早朝メサメルト、船ガ止マツテ居リ、目ノ前ニ島ガアルノデ、既ニサイパンニ着イタカト出テ見ルト、マダテニヤンヲ出航シテ居ナイノダツタ。

五時出航、七時サイパン着、朝食後上陸、船ニ金井氏^{〔新吉〕}ガ来ラレ、久々ニ対面。

町ヲブラブラ歩キ、オ土産物ナド買ッテ、十一時ノ渡シデ帰船、二時半出航。

二十三日 日曜日 晴、

昨日ヨリ稍横ブレスレド、平穩ナル航海。右手ニパガン、アグリガン等二三ノ島ガ遠ク見エル。夜十時頃、ウラカスノ火山見エル筈トテ気ヲツケシモ見エズ。

二十四日 月 晴、後曇、午後暫ク雨アリ、

曇ッテ、雨風ガ吹クカラカモ知レナイガ、今日ハ大□分南洋バナレガシテ涼シイ。手紙ヲ書ク。

①湯地孝、田辺保英、染木煦、倉橋弥一、平島雄市郎、甘露寺方房、本多正震、江波知彰、青田幸吾、安達貞二、野元辰美、金井新吉^{〔新吉〕}、九鬼毅、菅原宗助、松野祐保、住友至

二十五日 火 晴，雲多ク風ヒドク冷タシ，
午前，小笠原ノ母寫見エ，後父島ヲハジメ，夕方迄次々ニ島ヲ見テ行ク。
寒クテ船ノ人達，皆冬服ニ着カヘル。

二十六日 水 曇，東風烈シク寒シ，小雨二三度，夜ニ入りテ益々ハゲシク，シケギ
ミニテ，浪高ク一二度アッパー・デッキニ打チアグ，
夜九時半，三等船客ノ一人ノ男ガ海ニ飛ビ込シマッタノデ，一時間半程モ船ヲマ
ハシ，サーチライト ヲテラシテ探シタガ，浪荒クテ見当ラズ，航海ヲツツケル。

二十七日 木 晴，浪風荒シ，
晴レハシタガ，未明ニ低気圧（□742 耗）ガ前ヲ横ギッタアトトデ，浪風アラク，上
甲板ニマデ，ノベツニシブキガアガリ，時々ヒドイ波ガウチアゲル。下甲板ハ左舷カラ
ノベツニ汐ガアガリ，シブキガ横ブリノ雨ノヨウニ吹キツケル。朝早く，八丈島ヲ過ギ，
昼前ニハ御蔵島，三宅嶋ヲ左手ニ，午後ハ新島，大島ヲ過ギテ，夜十一時十五分，横浜
港外ニ碇ヲオロス。湾内ニ入ルト急ニ波ハ穏ヤカニナリ，今迄ノ ローリング モパッタ
リ止シテ，湖水ノ中ヲ行ク様ニ静カニナル。風モグットオサマツテシマヒ，ソシテ内地
ノ火ガ何故迄モ続イテミエル。アヽ，十年振りデ見ル日本ノ火，横須賀ノ火，横浜ノ火！

二十八日 金 晴，
七時過ギ，岸壁ニツクト，兄上夫妻⁷²⁾ ト英子⁷³⁾ ト久顕⁷⁴⁾ トガ迎ヘニ来テクレテ居ル。
船ニ上ツテ貰ヒ スモーキング ルーム デ久々ニ話シテ居ルト，小山⁷⁵⁾ ガ来テクレル。小
山ハ今監視部長ニナツテ居ル由デ，ナカナカ立派ニナツテ居ル，一時間程モ話シテ小山
ハ帰ッテ行ッタノデ，荷物ヲソレゾレ頼シテ，皆デ横浜駅ニ出，駅ノ食料デ朝食ヲトリ，
兄上，久顕ニハソレゾレツトメニ出テモラヒ，皆デ府立高等⁷⁶⁾ ノ英子達ノ所ニオチツ
ク。玉枝達ハ勞レテ居ルノデ寝カセテモラヒ，自分ハ英子ト柴山サンニ行ッテクト，皆
サン留守デ，梅子叔母様⁷⁷⁾ ダケ居ラレタガ，ヂキニ昌道⁷⁸⁾ ガ帰ッテ来タ。百合子⁷⁹⁾ ハ
オデキガ出来テ居ルトカデ，寝テ居ル由。

二十九日 土 天長節 晴，
杉浦ヤ玉枝ガ寒イノデ，朝，英子ニモ行ッテ貰ッテ渋谷ニ出，東横デパートデ買物シ
テ来ル。
ソレカラ昼食前ニ，英子ト讓ニ叔父様⁸⁰⁾ ノ所ニ一寸行ッテケル。讓ニ叔父様ハ，バラ
オ デ大沢カラ色々噂ヲキイテ居タノデ，モウ スッカリ 良クナラレタ事トバカリ思ッテ
居タノガ，又々オ悪クテ，既ニ舌ガツツテシマツテ話モ出来ズ，文字板ヲツクツテ，僅
カニ話ヲサレルト聞イタノダツタガ，行ッテ見ルト，ナルホド床ニツカレタキリデ，入

ッテ行クトイキナリ泣キ出サレルノデ、胸ガツマル様ニ思ハレタガ、ダンダンオ話シテ見ルト、ソレ程デモナクテ、コッチカラオ話スル事ハヨク解ルシ、泣クウチニモ笑ハレルシ、少シハ冗談ナドモ云フ氣ニモナレタ。併シ髭髯^[鬚]ナドハノビルニマカセ、舌ハ口ノ中ニコワバツテ、カラカラニ乾イテ居ルシ、幾度モ南洋ニ行キ度カッタ、行キ度カッタト指ササレ、更ニヨクナツたら、オ前ノ所^[二]ノ行クカラト云ハレルノデ、実ニ不^[一]愜ナ氣ガスル。

昼食後、大工サンニ荷物ノ箱類ヲホドイテ貰ヒ、忠々ドモニ手伝ハセテ一通り片ツケサセ、午後四時半頃、昌生叔父様⁸¹⁾ノ処ニ行ク。今日ハ百合子、綾子⁸²⁾、^[降カ]道昌、昌道、昭子⁸³⁾、妙子⁸⁴⁾モ皆居タシ、長四郎⁸⁵⁾ガ来テ居テ^[一]ニギヤカニシテ居タガ、オバサマハ気分ガ悪イトテ寝テ居ラレタ。皆デ^[一]賑ヤカニ夕食ヲ頂キ、後電話ヲカケテ、大工サント玉^[一]枝ヲ呼ブ。五郎⁸⁶⁾モソノウチヤツテ来ルシ、十一時頃迄モ居テ帰ッテクル。

三十日 日曜日 晴、

昨日夕方、昌生叔父様ノ所ニ行ッテ居たら、甘露寺方房⁸⁷⁾カラ電話ガカカッテ、今朝ノウチニ、モ一度電話デ都合ヲキクカラ逢ハウトノ事ダツタガ、一向電話ガ来ナイ。ソノウチニ昼前ニナツテ、倉橋弥一⁸⁸⁾カラ又電話デ、行クカラト云フノデ待つテ居たら、一時頃ニナツテヤツテ来タ。川路氏⁸⁹⁾ガ二三日ウチニ旅ニ出ル筈ダカラ、其ノ前ニ逢ヒ度イトノ事デ、電話ヲカケたら在宅ダツタノデ行ク事ニシ、二人デ東中野ニ^[一]川路氏ヲ訪ネル。四五本ノビールヲ飲ミナガラ夕方迄話シ、又話シ、辞シテカラ、倉橋トノベツニ喋リナガラ新宿ニ出、神楽坂ニ出、「にごろ」デにごりヲ飲ミ、有楽町ニ出、銀座、地下鉄デ十一時過ぎ別レテ帰ッテクル。

五月

一日 月 曇、晴、

朝、英子サント一緒ニ祐天寺ノ兄上ノ所ヲ訪ネ、十時頃兄上ト共ニ横浜ニ出、一寸郵船会社ニヨツテ、後、警友病院ニ静子サン⁹⁰⁾ヲ見舞フ。昼、久顕モ一緒ニ三人^[一]デ中食ヲ取ルツモリガ酒^[一]ニナツテシマヒ、夕方又オミヤゲヲモツテ病院ニ行ク。ソレカラ又々三人デ酒、相変ラズ兄上ハ梯子式^[一]ノデ、家ニ帰ツタノハ十二時近カッタ。

二日 火 曇後雨、

朝カラ大工サンニ来テ貰ッテ、柴山サンノ処ニ行キ、古ク送ッテ置イ^[一]タパラオカラノ荷物ヲアケテ片ツケル。一時頃キリ上ゲテ、昼食ヲ馳走ニナツテ居たら、川上ノオバサマトカヅ子サンガ来テ居タノデ、大工サンニハ帰ッテ貰ッテ、四時頃迄遊ンデ来ル。

三日 水 晴,

朝一寸柴山サンニヨリ、百合子ニ案内シテ貫ッテ川上ノオヂサマ⁹¹⁾ヲオ訪ネスル。昼家ニ帰ルト、佑サン⁹²⁾ガ三時ニ横浜ニ着カレル由ノ電報ガアッタト云フノデ、大工サント松岡ノ所ヲ訪ネル約束ダッタノヲ、紹介状ヲ書イテ大工サンダケヤリ、英子ト横浜ニ佑サンヲ迎ヘニ行ク。

四日 木 晴,

十時半頃、駒込ニ青田幸吾⁹³⁾氏ヲ訪ネル。二時頃辞シ、渋谷迄帰ッテ来タガ、気が変ッテ上北沢に三沢⁹⁴⁾ヲ訪ネル。

五日 金 晴,

朝、譲ニ叔父様ヲ御見舞ヒシ、後、英子ト青山□師範駅⁹⁵⁾ニ、上原サン⁹⁶⁾ヲ訪ネル。
〔小菊〕 〔勝雄〕 〔春子〕
伯母様、勝チャン、春チャン、皆居テ昼前迄遊ンデ帰ル。午後、柴山サンニ行ク。丁度又、川上ノカヅ子サンガ来タノデ、四時迄賑ヤカニシテ居タガ、洋服屋ガ来タ由電話ガアッタノデ帰ッテクル。

夜ハ舟木氏夫妻ガコラレル。コレハ今度、大隅武官ニ代ッテバラオ駐在武官ニナラタノデ、オ分レニオ呼ビシタノデアリ、傍々南洋ノ話ヲキキニ来ラレタノデアル。

六日 土 晴, 夜小雨暫ラク,

朝、工業大学ニ田端氏ヲ訪ネ、土分析方依頼。午後二時、玉枝ヲ連レ、綾チャンヲサソッテ笹塚⁹⁷⁾ニ宇^チ□□多チャン⁹⁸⁾ヲ訪ネル。留守ダッタガ、間モナク帰ッテクル。綾チャンノ御稽古ガ終ッテ夕食ヲ馳走ニナルト、昇氏⁹⁹⁾ガ帰ッテ来、話シテ居ルウチニ、大田和夫婦¹⁰⁰⁾ガ娘達二人ヲ連レテ来ラレ、十時頃迄居テ帰ッテクル。

七日 日曜日 曇, 昼頃バラバラ雨アリ,

杉浦ト玉枝ヲツレテ、新子安ニ今井健二郎氏宅ヲ訪ネ、ソレカラ本牧ニ居ル露人ノ家ニ二人ヲ案内シテ別レ、自分ハ病院ニ静サンヲ見舞ヒニ行ク。夕方更ニ税関官舎ニ小山直彦ヲ訪ネ、八時頃帰宅。

㊦ Kisaūl ヨリ

八日 月 小雨, 終日,

午後、祐天寺ニ行ク。三時前松永氏ガ来、少シオクレテ宇多チャンガ来ル。夕方迄「トリオ」ヲ練習シテ松永氏ハカヘル。皆デ夕食、□□□□宇^宇田^田チ^チキ^キ多チャンハ九時過ぎ、帰ッテ行ク。自分ハ宿ル。

㊦ Kisaūl ヘ

九日 火 晴,

朝, 祐天寺ヨリ帰り, プラブラシテシマフ。

午後二時頃, 上原ノ勝チャンガ, 八千代サン¹⁰¹⁾ト一緒ニ□訪ネテクル。

午後四時頃, 府立高等ニ松岡正雄¹⁰²⁾ヲ訪ネ, 夕方帰ッテクル。

夜, 英子サント田辺サンニ齒ヲ見テ貰ヒニ行ク。

十日 水 晴, 花曇,

朝, 齒ノ療治ニ行ク。

午後, 三田ニ愛子オバサマ¹⁰³⁾ヲオ訪ネスル。

十一日 木 晴, (曇)

朝, 齒医者。

午後, 柴山サンニ行ク。夕方ヨリ祐天寺へ。暫ラクシテオ玉様¹⁰⁴⁾モ来ラレ, 皆一緒ニ食事。兄上ハ遂ニ帰ラレズ。オクレテ英子モ来ル。

十二日 金 曇, 夕方ヨリ雨,

朝, 齒医者。

昼前, 甘露寺カラ電話デ, 夕方モ一度電話スルカラ出テ来イト云ウテ来ル。ソシテ四時過ぎ再ビ電話ガアッテ, 矢張り一ツ橋ノ学生会館ニ待ッテ居ルカラ直グ来イト云ッテクル。ナサケナイヨウナ天気ダッタガ, 渋谷迄出ルト, トウトウ雨ニナル。

学生会館デ今日□大木喜福ノ結婚披露会ガアッタノデ, クラスノ者ガ五六人集ッテ居タノダ。行ッテ見ルト, 甘露寺, 佐々木六郎, 高橋, 岡俊二, 石渡六三郎, ノ五人ガ待ッテ居テクレテ, 少時ノ後, 自動車デ直チニ赤坂ニ連レテ行カレル。小山直彦ガヤッテクル。後更ニ□二三軒行ッテ遅ク甘露寺ノ所ニ宿ル。

十三日 土 雨, 後止ミシモ終日曇, 夜又雨,

朝食後, 直チニ甘露寺ト一緒ニ出, 有楽町デ別レテ帰り, 十時柴山サンニ行き, 叔父様ト青山ニ大山柏侯¹⁰⁵⁾ヲ訪ネル。標本室ヲ見セテ頂キ, 午後一時半頃迄モ標本ニ就イテ説明シテ頂キ, 辞シテ後, オヂサマト新橋ニ出テ中食。三時, オヂサマノ会社ニ行き, 丸ビルニ行き, 九段ノ軍人会館ニユキ, 夕方帰ッテクル。

十四日 日曜日 雨僅カニ降りシモ後次第ニ止ム, 但シ終日暗ク曇ッテ居ル,

朝ノウチ柴山サンニ行ッテ遊ンデシマヒ, (長四郎, 五郎君等モ来テ居タ), 午後, 大工サンヲツレテ三沢ヲ□訪ネル筈ダッタガ, 久顕ガ来テ居テ, 何デモ北沢行キヲ中止シロト云フノデ, 久顕ト三時頃迄酒ヲノミ, 後忠久ヲモ供ナッテ, 皆デ祐天寺ニ行ク。夕

食前，宇□多チャンモ来，皆デ酒ト酒寿司ヲ御馳走ニナリ，十時帰宅。

十五日 月 曇，晴，

朝，齒医者，柴山サン。

午後，大工サンヲツレテ上北沢ノ三沢ノ家ニ行ク。三沢ノ所，アヒニク大掃除ナリ。
早く大工サンハ夕方ヲ頂^[ママ]イテ日暮里ニ行ク。自分ハ後，三沢ト共ニ夕食。遅ク迄皆デ話シテ宿ル。

十六日 火 晴，

朝，三沢ト，子供達ヲツレテ一時間程モ近所ヲ散歩。午前，奥サンモ子供モ，みつ子サンモ総出テ渋谷ニ出，東横デ写真ヲ写シ，食堂デ簡単ニ食事ヲスマセテ，総勢ヒキツレテ府立高等へ帰ル。夕方，三沢達帰ッテユク。

十七日 水 晴，

朝，祐天寺カラ使ガ来テ相撲ニ誘ハレタノデ，齒医者ヲヤメテ，両国ニ行ク。祐天寺ノ皆ト，ソレカラ久頭モアトカラ来ル。十何年ブリデ相撲ヲ見タガ，今日ハナカナカ大角力ガ多く，物言ヒツキ取直シ等デ，ハネタノガ八時近カッタ。ソレカラ皆デ京橋ニ出テ蒲焼屋ニ行き，尾上ヲ電話^[ママ]デ飛ンダガ，話ガ多クテ遂ニ十二時□迄モ居タノデ，日黒迄電車デ帰り，自動車ヲヒロッテ二時前ニ帰宅。

十八日 木 晴，

齒医者，今日ハクサッタオヤシラズヲ抜イタノデ，様子ヲ見ルカラ二三時間居テクレト云フノデ，昼食ヲ馳走ニナッテ，三時頃帰宅。昼寝シテシマフ。

⑩ 倉橋弥一ヨリ（土方久功歓迎会通知）

十九日 金 晴

朝，齒医者。

午後，湯地¹⁰⁶⁾ノ所ニ電話シタラ，四時ニ東京駅デ待ち合ハセヨウト云フノデ，直グニ英子サン，忠義，玉枝ト一緒ニ渋谷ニ出，ニュース映画館ニ行ク。自分ダケヨイカゲンニ出テ東京駅ニ行クト，間モナク湯地ガヤッテクル。暫ラク街ヲ歩イテ後，歌舞伎前ノ楠幸ニ行ッテ食事。十一時半頃帰宅。

二十日 土 晴，午後四時頃盛ナ驟雨アリ，

朝，齒医者。東横デパートニマハリ，昼ニナル。

午後二時頃ヨリ柴山サンニ行ク。夜十時頃迄モ子供達ト遊ブ。夕食後，久頭モ貞久ヲ

ツレテ来ル。

二十一日 日曜日 晴, 風,

朝ノウチ久顕来ル。昼, 倉橋カラ電話デ, 五時頃新橋駅デ待チアハセヨウト云ッテ来タノデ, 午後直チニ大工サン, 玉枝, ミサヲ ヲツレテ, 先ヅ靖国神社ニ参拜。ソレカラ裏ノ堀バタヲ飯田町ニ出テ東京駅ニ出, 丸ビルヲノゾキ, 更ニ二重橋ニ行カウトシタガ, 丁度明日学生教練ノ御親閲ガアルノデ, ソノ予行ガアッテ行カレズ, 引カヘシテ三越ヲ見物サセル。更ニ銀座ヲ歩イテ新橋ニ出, □□玉枝トミサヲ ヲカヘシテ新橋駅ニ行クト, 倉橋ト, 郷氏ト云フ人が来テ居タ。共ニ浦霞ニ行ク。ココガ今日ノ集リノ家デ, ポツポツハジメテ居ルウチニ, 川路氏ガ来, 太田広, 一瀬直行, 村野四郎, 都築益世, 絆ガ次ギ次ギニ集リ, 十時頃引上ゲテ銀座ヲ歩キ, Bar Cotr ト云フニ寄り, 後皆ト別レテ, 十一時半頃帰ル。

二十二日 月 晴,

十一時頃, 大工サンヲツレテ出, 中洲¹⁰⁷⁾ノ南貿ニ中本氏ヲタツネタガ, 相ヒニク留守ナノデ帰ラウトスルト, 思ヒガケナク藤崎氏ガ居テ, 久々ニ一緒ニ食事シヨウト云ハレ, 自動車デ新橋ニ出, 第一ホテルデ馳走ニナル。後別レテ再ビ浜町ニ引カヘシ, 荒居ノ徳サンノ所ヲ尋ネル。丁度三沢モ来テ居テ, 又々御馳走ニナリ, 六時半頃辞シテ帰ル。夜, 久顕, 貞久ヲツレテ来ル。

㊦ Kisaül ヨリ

二十三日 火 曇,

午前中, 歯医者。朝一寸祐天^時□寺ニ寄りシモ, 誰モ留守。歯医者ヨリハ一時半ニモナリテ帰り, 三時頃, 柴山サンニ行ク。綾子ト音楽会ニ行ク約束ナリ。五時頃, 綾子ト一緒ニ出, 祐天寺ニヨリテ^切□招待券ヲ取り, 東横デ简单ニ食事シテ, 日本青年会館ニ行ク。武井マンドリン・オーケストラ ノ二年半ブリノ演奏会ナリ。大田和サンノ奥サン, 娘サン達, 園チャンナドニ逢フ。休□憩ニナッテ, 祐天寺ノ連中ガヤッテクル。

XVI

Gran Concerto della Orchestra Sinfonica 'Takei'

1. Joh. Christ Bach. Sinfonia in Sib Maggiore Allegro assai Andantē Presto
2. S. Copertini. Nottürno
3. K. Hori. Fantasia d'Estate
4. T. Hattori. Viriazioni per due mandolini sul tēma "Kōjō-no-Tūki"
5. L. van Beethoven. Allegro con brio del Settimino op.20

6. K. Hori. Cortège
 7. U. Bottacchiari. Sogno! Delirio! serenata romantica
 8. M. S. Takei. Yūsigure op.38
 9. M. S. Takei. a) Tairyō op.45
 b) Hōnen op.35

二十四日 水 小雨降ッたり止ンダリ、
 朝、齒医者。

午後、柴山サンニ行き、夜九時ニカヘルト、久顕来テ居ル。

二十五日 木 曇、午後四時頃ヨリ雨、

午後、英子サント、玉枝ヲツレテ新宿ノ文化ニュースニ「オーケストラノ少女」ヲ見
 ニ行ク。出ルト雨がザンザン降ッテ居ルシ、時間モ遅クナッテシマッタノデ、島村サン
 ニ行ク心算ダッタノヲヤメテ帰ッテクル。

大工サンハ、朝カラ倉橋ノ所ニ展覧会ノ相談ニ行き、昼頃一寸帰ッタガ、倉橋ニツレ
 ラレテ高村^{高太}□□光太郎氏¹⁰⁸⁾ヲ訪レルトカデ、又出テ行ッタ。

二十六日 金 終日曇、時々微雨、

齒医者ノカヘリ、上落合ノ川路柳虹氏ノ所ニ行ク。大工サン来テ居ル。後カラ倉橋ガ
 来ル。昼前辞シ、大工サントハ代々木デ別レ、倉橋ト神田ニ出、三省堂ニ行ク。長田恒
 雄氏¹⁰⁹⁾ニ面会。コレハ昨日倉橋ヲ通ジテ、「革新」ニ何カ原稿ヲ寄セテ貰ヒタイトノコ
 トダッタカラダ。ソレカラ倉橋トグルグル歩キマハッテ、日本橋ノ日本火災ニ山崎泰
 雄¹¹⁰⁾ヲ訪ネタガ、帝国火災ニカハッタ由デ逢ヘズ、高^高□島屋ノ「ラゲーザオ玉夫人」¹¹¹⁾
 ノ遺作展ヲノゾイテ銀座ニ出ル。資生堂ニ行ッたら、佐伯米子氏¹¹²⁾ガ展覧会ヲヤッテ
 居タノデ、上ッテ会ッテクル。

三□味堂ニ行ッたら、丁度川路氏モ来テ居テ、大工サンノ展覧会場ガココニキマル。
 日ハ六月廿一日—廿五日ノコト。主人齋藤黄葉□邨氏ニ紹介サレル。川路氏ト「エビ
 スビール」デ別レ、倉橋ト又、築地小劇場ニ行ク。囃チャン(千田是也)¹¹³⁾ニ会ヒ、マ
 ダ一寸暇ガアッタノデ「キツネ」¹¹⁴⁾デビールヲノンデ話シ、ススメラレルママ芝居ヲ
 見テ行クコトニスル。楽屋デハ丸山定夫¹¹⁵⁾、薄田研二¹¹⁶⁾、岸輝子¹¹⁷⁾等ノ古手ニ会ッテ
 話シコンデシマフ。十月カラ病氣デ臥タキリダッタト云フ山本安英¹¹⁸⁾ガ、今日ハジメ
 テ見物ニ来テ居タノデ、ハネテカラ一寸会ッテ来ル。出シモノハ「海援隊」四幕七場。

⑩ 染木煦ヨリ

太田広ヨリ、雑誌「南洋水産」

㊦ 染木煦へ

二十七日 土 晴,

家デブラブラシテシマフ。午後三時過ギ頃カラ、昭子ヲツレテブラブラ其辺ヲ散歩、柴山サンニ行ク。妙子、風邪。夜十時頃迄遊ンデキル。

二十八日 日曜日 曇, 晴, 午後小雨アリ,

久顕ノ所ガ引越シナノデ、手伝ヒニ行ク。昌道ヤ綾子モ来テ手伝ツテクレル。

夕方、久顕子供ヲツレテクル。

夕食^後□前、佑サント忠義ヲツレテ、自由ヶ丘方ヲ散歩。皿井ノ長チャン達ノ所ニ行ッタガ留守。久々デ春ニアツテクル。帰ツテ来たら、途中デ長チャンニアフ。

二十九日 月 曇, 昨日今日、北風ニテヒドク寒イ,

齒医者カラ帰り、中洲ノ南貿ニ行キシニ、途ニテ中本氏ニ逢ヒシモ用アル由ニテ挨拶ノミシテ別レ、南貿ニ行ケバ、杉浦早クカラ来テ、藤崎君ト話シテ居リ。直チニ辞シテ銀座ニ出、杉浦ヲ三□味堂ニツレテ行ッテ会場ヲ見セル。新橋ニ出テ食事シテ、杉浦ト別レ、四谷ニマハリ、波多野サン¹¹⁹⁾ニ行キシモ皆サン留守ナノデ、環サン¹²⁰⁾ノ処ニ電話シテ貰ッタラ、学校ノ方ニ行ツテクレトノ事ダッタノデ、直グニ本郷ニマハリ、植物教室ニ環サンヲ訪ネ、波多野サンノ玄関ニ居タラ、ヒョッコリ光子サン¹²¹⁾ガ来ラレ、久々ニ会フ。

序ダッタノデ、十年振りデ八幡一郎氏¹²²⁾ニ逢ッタラ、イキナリ長谷部言人氏¹²³⁾ニ紹介サレ、長谷部氏ノ部屋デ暫ク話シテ居ル間ニ杉浦健一氏¹²⁴⁾ニモ紹介サレル。環サンガ呼ビニ来テクレタシ、モウ夕方デモアッタシ、又訪ネルコトニシテ辞シ、南洋ノ植物ヲヤツテ居ル津山尚氏ニ紹介サレ、環サント三人デ本郷デ食事ヲトリ、津山氏ト別レテ環サント鳥居坂ノ家ニ行ク。ヌイ子サンニモハジメテ会ッテ、話シガハズンデ居ルト、実吉サンノ御老人¹²⁵⁾モ見エテ、十時頃迄御邪魔シテクル。

三十日 火 曇ツテ終日二月ノヨウニ寒イ,

齒医者ガ昼迄カカッテシマフ。午後ハ柴山サンニ行キ、日暮レ迄居ル。

夜、汽車デ大工サン、国ニカヘル。

三十一日 水 曇, 晴, 夜十時半頃ヨリ雨,

㊦ 江波知彰へ,

朝、立川ニ染木煦¹²⁶⁾ヲ訪ネル。昼食ヲ馳走ニナッテ後、二時頃カラ保谷ノ高橋文太郎氏¹²⁷⁾ノ所ニ連レテ行ッテ貰フ。(□バラオ、サトワルカラ持ち帰ッタ土俗参考品ニ就

イテ相談) 夕方, 博物館ヲ見セテ貰ヒ (村上清文氏ニ紹介サレル)。引返シテ夕食ヲ馳走ニナッテ, 八時辞シテ帰ル。

六月

一日 木 雨, 終日寒イ北風デ雨ヤマズ,
齒医者ハ昼迄カカッテシマフ。

夕方カラ綾子ヲツレテ帝劇ニ活動写真ヲ見ニ行ク。The Great Waltz ト Girls' school
ト。

⑩ キサウル ヨリ, フミコ ヨリ, タツオ ヨリ。地方課ヨリ替為,^{〔為替〕}

⑩ 三沢露子ヨリ, 並ニ写真, 島村環

二日 金 晴レテ暖カクナル, 夜, 久々ニ雲ナク満月ヨシ,

朝カラ横浜ニ行キ, 警友病院ニ静子サンヲ見舞ヒ, 久頭ニ会ッテ, 内科ノ医長ニ健康
診断ヲシテモラフ。胃ガノベツニ痛イノト, 胸ノマハリガ何処トナクイツモ痛イノト。
胸ハ単ナル (恐ラクハ) 筋肉リュウマチス デ, 他ニ病ナキ由。胃モ単ナル胃カタル ニ
テ, 稍盲腸悪キ由。久頭ト昼食ヲ取りニ出, 後公園ヲ一マハリ散歩スル。丁度, 横浜ノ
開港紀念日ダソウデ, 青年団ガ楽隊ヅキデ沢山ネリ歩イテ居ル。帰り, 自由ヶ丘カラ歩
イテ皿井サンニ一寸ヨッテクル。夕方, 柴山サンニ歌チャンガ来ルコトニナッテ居タノ
デ, 玉枝ヲツレテ遊ビニ行ク。

⑩ キサオル へ, タツオ へ, フミコ へ, メエリンス へ, キルー へ

三日 土 晴, 風ナク暖カシ,

齒医者ノカヘリ, 直チニ初台ニ倉橋弥一ヲ訪ネル。高村光太郎氏ヲ訪ネル心算ダツタ
ガ, 電話ヲカケテ見タラ病人ガアル由デ, 四五日後ニユックリ来テ貰ヒタイトノ事ダツ
タノデ, 杉浦ノ展覧会ノ序文ダケタノンデ貰フ様ニタノンデ辞シ, 本郷ニマハリ, 午後
一時過ギ大学^{〔島村〕}ニ環サンヲ訪ネル。コレハ環カラ十六日ニ遺伝学談話会ニ出テ何か話シテ
クレト依頼ガアツタノデ, ドンナ会カキキニ行ツタノダガ, 座談的ナモノダト云フノデ
出席スルコトニシテクル。環ト別レ, 人類学教室ニ八幡氏, 杉浦健一氏ニ面会, 雑談。
杉浦氏ハ六時迄用ガアルカラ, 済マセテカラ又逢フトテ出テ行カレタノデ, 八幡氏トカ
フェー デ ビール ヲ飲ンデ話シタガ, 杉浦氏モ□時間通り来タノデ, 三人デ豊国ニ牛ナ
ベヲツツキニ行キ, 九時過ギマデモ話ガハヅム。南洋カラノ蒐集品ノ展覧会ノ件ヲ杉
浦君ニ依頼。

四日 日曜日 晴,

早昼デ、綾子、忠久、玉枝ヲツレテ、セント・セシリヤ音楽会ニ行ク（電気倶楽部）。二十年ブリア敦チャン¹²⁸ニ会フ。イイ奥サンニナツテ、大キナ姉妹ノヨウナ子供達ヲツレテ——ソレカラ増子チャン¹²⁹ヤ元チャン¹³⁰ニモ逢フ。オ玉様が来テ居ラレル。宇多チャンガ来テ居ル。帰り宇多チャント一緒ニオ茶ヲ飲ミニ行キ、五時過ギ帰宅。暫ラクシテ柴山サンカラ電話。白蟻退治ニ来テクレトノ事デ直チニ行ク。久頭モ子供ヲツレテ来テ居、結局十時過ギ迄喋リ入ンデ来ル。

五日 月 晴,

齒医者。

^{〔土方〕}文チャンガ昼前来ラレテ、午後三時頃迄話シテ行ク。夜、田端耕造氏ヲ訪問。

⑧ 杉浦健一氏ヨリ速達,

⑨ 三沢露子へ,

六日 火 晴, 暑,

齒医者ハ早クスンデ、十時前帰宅シタガ、倉橋カラ電話ガ来タノデ直チニ新宿駅ニ行ッテ会フ。二人デ三宅坂ニ出、南洋庁¹³¹ノ出張所ニ行キ、倉橋ニ待ッテ貫ッテ地方課長ニ面会。丁度蓮香氏^{〔藤一郎〕}モ出テ来テ居テ逢フ。

ソレカラ南洋水産協会ニ太田君ヲ訪ネル。会長ノ野村益三子爵¹³²ニ紹介サレテ面談シタガ、丁度、水産講習所¹³³長ノ杉浦保吉氏、文部省ノ農業教育課長ノ谷原義一氏モ来会ハセテ居タノデ、野村子爵カラ更ニ両氏ニ紹介サレル。三時辞シテ、帝国火災保険ニ山崎泰雄君ヲ訪ネ、第一ホテルデ御茶ヲノミナガラ雑談、四時過ギ更ニ団子坂ニ高村光太郎氏ヲ訪ネ、杉浦ノ展覧会□ノ為ノ紹介文ヲ依頼、七時過ギ□辞シテ帰ル。

⑧ 杉浦健一氏ヨリ速達,

七日 水 曇,

早昼デ出テ南洋文化協会ニ大和氏ヲ訪ネ、展覧会ニツイテ打合ハセタガ、ドウモ日取りガウマクナク、大体二十四、五日ノ□頃トシテ来ル。丁度、^{〔藤一郎〕}牧野君ガ居タノデ、銀座デオ茶ヲ飲ンデ暫ク話シテ別レ、自分ハ本郷ニ出テ大学ニ八幡君、杉浦君ヲ訪ネ、更ニ展覧会ノ相談。長谷部氏ヨリ^{〔蒐集〕}集蒐品^{〔始末〕}ノ仕末ニ就イテモ相談アリ。夕方皆デ本郷デオ茶ヲ飲ンデ雑談。

園田サンノ清彦オヂサン¹³⁴ガ亡クナラレタソウデ、柴山サンノ人達皆留守ニナルトテ、電話デ呼バレテ居タ由デ、夜八時頃カラ泊リニ行ク。十一時前、皆帰ッテ来ラレル。

八日 木 曇, 朝ノウチ小雨,

歯医者ノカヘリ, 東中野ニマハリ, 川路柳虹氏ヲ訪ネ, 杉浦ノ方ノ展覧会ノ目録ヲ全部タノンデ来ル。

午後, 柴山サンニ留守番。傍々 パラオ デ集メタモノヲ整理シナガラ札ツケ。

九日 金 雨,

終日, 柴山サンニ留守番シテ, パラオ土俗品ニ札ツケ。終ル。宿ル。

十日 土 曇, 晴,

朝食前ニ帰り, 歯医者。帰ッテカラ終日, 土俗品整理。川路氏ヨリ電話。

⑩川路柳虹へ, 杉浦ヨリ, 文子姉上ヨリ,

十一日 日曜日 曇, 夜ニ入ッテ雨,

綾子, 昌道ト鎌倉ニ行ク。妙本寺ノモノ家¹³⁵⁾ニ行ッテ, 焼キステラレタ パラオ ノ文様土器¹³⁶⁾ヲ探シニ行ッタノダが見ツカラナイ。オリテ来テ中食。後, 綾子, 昌道ハ埴生サンノ所へ, 自分ハ秋庭サン¹³⁷⁾ニ寄り, 島村サン¹³⁸⁾ニ行キ, 四時半ニ昌道達ト駅デ待チアハセテ, 東京ニカヘッテクル。後, 直チニ祐天寺ニ行ク。宿ル。

十二日 月 曇,

歯医者ニマハッテ十時半頃帰ッタガ, 昨夜ハ一日歩キマハッタ上, 夜中迄酒ヲノマサレタノデ, 胃ノ腑ハジブジブスルシ, 風邪ヒイタラシクテ寒ケガスルノデ, 床ヲ敷イテ貰ッテヤスンデシマフ。

夕方, 玉枝ガ牧野君ノ所ニ電話シタノデ, 牧野君カラ誘ハレタガ, 自分ハ出ナイデ玉枝ダケヤル。

十三日 火 曇,

歯医者。午後, 家デ蒐集品ノ整理ヲシタガ, 胃ガイタクテ, 頭ガ重クテ暫ラク寝テシマフ。

⑩江波知彰ヨリ,

十四日 水 曇, 後晴,

午後, 玉枝ヲツレテ麻布日ヶ窪ニ蒲田氏ヲ訪ネシモ留守。ウドイ一人居ル。名刺ヲ置イテ辞シ, 文化協会ニマハル。大和氏ニ面会。大和氏ヨリ, 七月一日, 南洋庁始政紀念日ニ軍人会館デ催□□サレル講演会(及ビ余興)ニ玉枝ヲ出シテ貰ヒ度イトノ事。

牧野氏ニモ会ヒ, 後夕方一緒ニ新宿ニ出, 牧野氏, 伊勢丹デ買物後, 新宿デ夕食ヲト

ッテ街ヲ歩キ、分□レテ帰ル。

㊦安達貞二氏ヨリ、

十五日 木 快晴、

齒医者。

午後三時頃、大学ニ行キ、八幡氏、杉浦氏ニ面談。帰り、六本木ニヨリ、蒲田氏ノ処ニ寄りシモ不在。

十六日 金 晴、

午後二時半頃出テ銀座ニ出、文化協会ニ行ッテ、大和氏ニ目録ノ印刷ヲ依頼シ、本郷ニマハリ、大学ニ、八幡氏ニ面会。午後、環サンノ所ニ行ク。環サント□津山君等^[食]事シ、六時半、山上会□議所ニ行ク。遺伝学談話会デ三十名以上モ集ル。農学部ノ某氏が最近、海南□島ニ行ッテ来タトカデ、其ノ人ノ海南島ニ就イテノ一般ノ話ガアリ、後自分が裏南洋ニ就イテ話ヲスル。十時ニ終リ、散会。

朝、蒲田氏夫妻ガ、カツヨ、ウドイ ヲツレテ遊ビニ見エル。

十七日 土 晴、

齒医者。

夕方、高円寺ノ江波ノ弟達ノ所ヲ訪ネテミル。オ母サント露チャントハ大阪ニ行ッテ居ル由デ逢ヘナカッタガ、知茂君ガ居タシ、栄子サンモ、オバサンモ居タシ、マーチャンモ大キクナッテ居タシ、秋チャンモ^[意]以外ナコトニ、マダ家ニ居タ。非常ニ喜バレテ、十時頃迄モ話シテクル。佑サン、晩方帰ッテ来ラレル。

十八日 日曜日 晴、

朝十一時ニ、パラオ丸ガ出ルノデ、横浜ニ玉枝ヲツレテ出ル。地方課長、牧野君ガ帰ルノデ行ッタノダガ、石川法院長、江崎検事、永田氏夫妻、田村氏夫妻、山内賢洲¹³⁹⁾、井関院長¹⁴⁰⁾ ナド全船デ帰ラレルノニ逢フ。見送中、杉浦健一氏、羽根田弥太氏¹⁴¹⁾、佐久間氏、中本氏、国沢氏ナドニモ逢フ。

玉枝ヲ今井氏ノ所ニツレテ行ッテアツケ、警友病院ニ行ク。久顕モ来テ居テ、静子サンノ室デ四時過ギマデ居テ、帰ッテクル。

夕食後、佑サン、英子サント、碑文谷、下馬、青山師範ノ辺ラーマハリ散歩。

夜十時過ギテ、久顕葉ヲモッテ来テクル。

十九日 月 晴、

齒医者。

展覧会が明日飾りツケナノデ、種々準備。目録ガマダ来ナイガ、倉橋ガ来テクレタノデ、封筒ダケ書イテシマフ。

夕方、柴山サン。

二十日 火 晴、

〔欄外に記す〕
〔佐助展〕

三宅坂ニ出テ、出張所ニ蓮香氏ヲタツネ、郵船ニ行ッテ船ノ予定ヲ見テ、三味堂ニ行ク。今日ハ展覧会¹⁴²⁾ノ飾りツケナ□ノデ、大工サンハ家カラ真直グ、サキニ来テ居ル筈ダッタノニ、川路氏ト倉橋ダケガ来テ居タ。電話デ家ニ問合ハセルト、少シ前出タトノ事。十二時過ギテ、ヤット大工サン来ル。皆デ中食後飾りツケ、四時頃ドウニカ出来ル。自分ハ又々体が悪クテたまらず、川路氏ト別レ、真直グ家ニカヘッテ寝テシマフ。久顕来テ注射シテクレル。

二十一日 水 晴、

体ノ具合非常ニヨシ。昼前ニ三味堂ニ行ク。川路氏、倉橋氏来テ居テクレル。金子九平次君¹⁴³⁾ガ来テクレ、久々ニ夕方迄話シテ行ク。綾サン¹⁴⁴⁾ガ来タシ、久顕モ来ル。忠久、忠直揃ッテ来、外来デハ平櫛田中氏¹⁴⁵⁾ヲハジメ、伊原氏¹⁴⁶⁾、吉田芳明氏¹⁴⁷⁾、藤森氏ナド見エル。自分ハ忠久、忠直ト早く帰ラシテモラヒ早寝。久顕来テクレテ、又注射シテクレル。

㊦ 和田一雄氏ヨリ、三沢寛ヨリ、

二十二日 木 曇、午後雨、

十時、三味堂ニ行ク。ワザワザ逢ヒニ来テクレタ人。田辺ノ英サン、□中井ノ惣チャン¹⁴⁸⁾、愛子オバサマ。愛子オバサマニハ千疋屋デ中食ヲ御馳走ニナル。上原ノ八千□チャン、朝日新聞社マデツキアッテモラヒ、資生堂デオ茶。甘露寺、千疋屋デオ茶。其他沢山紹介サレシモ、一々オボエズ。和田一雄氏モ来テクレタシ、羽根田弥太氏モ訪ネテ来ラレシモ逢ハズ。高村^{高太}□□光太郎氏モ来ラレシモ逢ハズ。

二十三日 金 小雨、後止ミテ次第ニヨシ、

今日ハ文化協会ノ方ノ展覧会¹⁴⁹⁾ノ飾りツケナノデ、八時ニ三輪オートバイヲタノンデ、大工サンニツイテ行ッテ貰ッテ荷物ヲ出シ、久顕サンニ注射シテ貰ッテ、十時頃文化協会ニ行ク。大工サンニハ三味堂ノ方ニ行ッテモラヒ、独リデポツポツ女事務員ニ手伝ッテモラッテ飾ル。朝日新聞ノ^伊飯沢氏¹⁵⁰⁾ガ来テクレ、写真部ノ人ヲ呼ンデ、大部写真ヲ撮ッテクレル。九州大学ノ江崎悌三博士ガ早々ト来テ見テ行ク。夕方大学ニ電話ヲカケたら、杉浦君ガ直グニ来テクレル。六時過ギ文化協会ヲ引上ゲテ、杉浦君ト三味堂

ニ行ク。松田糸太郎¹⁵¹⁾ が来テケレル。岸輝子モ来テ待ッテ居テケレタ由ダガ、帰ッタ由。本多正震¹⁵²⁾ ノ奥サンガ子供サンヲツレテ来テケレル。十時半帰宅。ヒドク勞レル。朝、久顕来テ注射シテケレル。

二十四日 土 曇、

〔欄外に記す〕
〔土俗品展〕

朝、久顕来テ注射シテケレル。十時、文化協会ニ行ク。第一番ニ青田幸吾氏が来テ下サレ、金田一京助氏¹⁵³⁾ が来ラレル。オ玉様ガ一寸見エ、捷チャン¹⁵⁴⁾ が来テケレ、甘露寺、松元(中北泰彦)¹⁵⁵⁾ が十何年ブリデ来ル。湯地ガ来ル。宇田チャン、園チャンガ来、昌生オヂサマ、佑サン、英子サン、子供達、倉橋ノ奥サンナドガ来ル。杉浦君、八幡君、其他、学者連ナド。

六時キリ上ゲテ、三味堂ニ行ク。金子君ガ遅クマデ居テケレル。江波ノ知^茂□重サント、^秋□明チャンガ来ル。祐天寺兄上夫妻、松田ノオ鶴サンガ子供ヲツレテ来ル。雑誌記者、画カキ等々、木下孝則氏¹⁵⁶⁾ ガヒョッコリ。

ソレカラ阿部美佐子ト云フ人、昨日来テケレタ。女飛行士デ「スラバヤ」ニ両親ノ墓ガアルト云フ人ガ、今日ハ原野桂子夫人ト云フノヲツレテ、文化協会ノ方ニオ菓子ヲモツテ来テケレル。何ノ事ヤラワカラナイノ□ダガ、一時間モ座ッテ居テ、オ茶迄ツイデケレルノデ、マスマス何ダカワカラナイ。

太田君ガ水産ノ主事ノ加藤勢三氏ト云フヲツレテケル。ヤップノ医員ニ居タト云フ吉士進氏、中本勝一氏ナドモ見エル。

二十五日 日曜日 終日雨、

九時半頃文化協会ニ行ク。中井ノ惣チャンガ来テ居ル。田辺ノ英サン夫妻ガ、大阪カラ今朝帰ッタトテ、寄ッテケレル。大工サン、倉橋、川路氏ガ大工サンノ彫刻ヲ本郷ニ運ビ、自分ノヲ文化協会迄届ケテケレル。長谷部博士、□八幡君、杉浦君ガ揃ッテ来テケレル。湯地ガ、上原ノ勝チャンガ来ル。岸輝子ガ来テケレル。綾サンガ古井氏ト一緒ニ。今日デ展覧会ヲ終ル。夜、□皿井ノ長チャンガ友達ヲツレテ来ル。

二十六日 月 梅雨、

九時半頃、文化協会ニ行き、土俗品取りカタヅケ。十時半頃、大工サンヤッテケル。大工サンニ自分ノ彫刻類ヲ家ニ運ンデ貰ヒ、土俗品ヲ大学ニ運バセテ、自分ハ別ニ大学ニ行ク。間モナク荷物モ来ル。長谷部氏、八幡氏、杉浦氏等ト中食、暫ク談シテ午後二時過ギ辞シテ帰ル。夜、久顕来テ、□注射シテケレル。又七月八日、大学デソックリ展覧スル由。

①川路柳虹氏ヨリ、

二十七日 火 微雨，午後暫ク日ガ出ル，

一日家ニ居ル。午後，倉橋ガ奥サン，子供ト，真スミ子氏ヲツレテ来ル。

二十八日 水 曇，

朝，田辺ノ英サンノ所ニ行ク。永イ間通ツタガ，齒モコレデー先ヅカタガツク。明日，雨サヘ降ラネバ二人デ鎌倉ニ行クコトニスル。

帰り，電車デ高勇吉¹⁵⁷⁾ニ逢フ。十四五年ブリデ逢ツタガ，相変ラズセカラシイ。祐天寺デ下車シテ，一寸オ茶ヲ飲ンデ話ス。何デモ自分ニ逢ハセタイ雑誌記者ガアルトカデ，二日ノ日曜日ニ逗子ノ家ヲ訪ネルコトヲ約シテ別レ，兄上ノ所ニ寄ル。文子サンガ居テ暫ク話シ，昼御[□]飯ヲ御馳走ニナツテ二時過ギ帰ルト，真サンカラ，朝電話デ，中西氏¹⁵⁸⁾ヲツレテ二時頃来ル由ダッタ由。暫クスルト，又電話デ，コレカラ行クト云ツテ来テ，三時過ギニ二人デ見エル。六時近ク迄，鳥ノ話。夕食後，柴山サンニ行ツテ居タラ，間モナク長チャンガ，又先日ノ友達ヲツレテ来ル。応接間デ又，色々ノ質問ヲウケタガ，二人デ，教室ノ講義デモ聞ク様ニ片ツパシカラ筆記サレルニハ呆レテシマフ。八時過ギ帰ツテユク。

叔父様ノ所デ暫ク雑談，十時前帰ル。午後三時頃，大工サン，増田氏ノ所ニ行ク。

④野元辰美氏ヨリ，奥サン達ヲ笠置丸ニ乗セタ由，電報。

⑤金子九平次ヨリ，後藤禎ニヨリ，

二十九日 木 雨，午後止ミシモ曇，

ヒドイ雨ダツタガ，十時頃出カケテ，東中野ニ川路氏ヲ訪ネ，展覧会ノ経費ヲスマセ，大工サンノ「美ノ国」¹⁵⁹⁾ヘノ写真原稿ヲ置イテクル。帰り，雨ガ止ンデ居タノデ，青山師範デ下リテ，^{〔上原〕}八千チャンノ所ニ行ク。オバサンモ，^{〔上原小菊〕}春チャンモ来テ，暫ク話シテ居タガ，夕食前ノ時間ヲ春チャント，アサ子チャンヲツレテ，公園ノ方迄散歩シテクル。雨上リノ道ヲプラプラ歩イテ居ルト，一寸コゼンマリシタ家ガアツタリ，ポツント小サナ工場ガアツタリ，タマニハ堂々タルコンクリートノ塀ガアツタリ，其ノ間ニマダマダ畑ガアツタリ，植木屋サンガ，ドコニモココニモ残ツテ居ル。アザサキ，ガク，クチナシ，ナドガポツポツ咲イテ居リ，畑ニハ麥ガナクナツテ，豆ダノ何かアリ，トマトノ実ガマダ青イケレド沢山ニ大キクナリ，茄子ノ花ガ咲キ出シテ居ル。

アサ子チャンノ遊び相手ニトツツカマリ，九時半頃迄居テ帰ル。

三十日 金 曇，

文化協会（昨日南洋庁東京出張所ニ引移ル）ニ行ツタガ，大和氏が来テ居ナカッタノデ，郵船ニ行ツテ，八月一日，サイパン丸ヲ申込ンデ来ル。再，文化協会ニ行キ，昼食後辞去。二時頃帰ル。四時頃，倉橋カラ電話デ新屋敷ト云フ人ヲツレテ来ル由。五時頃

二人デ来ル。夕食ヲ共ニシ、九時頃帰ッテ行ク。

〔4頁白紙〕

① Tör, ② Soak me Pōř, ③ Sapī si liū, ④^oTör me mengāk, ⑤ Sapī, ⑥ Sapī me liyos ekkīt, ⑦ Sapī, ⑧^oTilikī al Berif, ⑨^oTilikī kkewe ea mal, ⑩^oTilikī al Berif, ⑪^oBisaki li igiūwe, ⑫ Tikka Matīka Tīlikī, ⑬^oMatī Ka li Wong, ⑭ Mask me Liyos, ⑮ Mask me Liyos, ⑯ Liyos ai Mogemog, ⑰^oTilikī Note, ⑱^oSūba (Balao), ⑲^oMiskīsū me Sūba (Balao)

^o行李, ^oKiekī

1. Ngatpang
2. Ngarhelong